令和２年度

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務

（活動評価、計画調整および情報発信支援）

報　告　書

令和３年３月

公益財団法人 兵庫丹波の森協会
丹波の森研究所

目　次

１　業務の目的および内容…… １

２　アドバイザー派遣地区…… ２

３　里山づくりアドバイザー報告…… ５

3-1　生郷里山づくり懇話会…… ５
3-2　平松区森林愛好会……18
3-3　北岡本自治会３０年の森づくり……25
3-4　森の学び舎／バイオマス丹波篠山……30
3-5　ごんげん里山／バイオマスフォーラムたんば……35
3-6　下三井庄地区……37

４　拡大里山づくりアドバイザー会議報告…… 40

１　業務の目的および内容

（1）業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

（２）業務内容

１）里山づくり協議会運営の支援

- 平成３０年度から活動を実施している下表の活動団体について、継続的な活動体制を強固なものにするため、里山づくりアドバイザー（以下「アドバイザー」という。）による支援を行い、活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下「協議会」という。）」を支援する。
- 協議会を構成するメンバーは活動団体、アドバイザーのほか、活動地を所管する市（丹波篠山市、丹波市）の担当課、兵庫県丹波農林振興事務所担当課および（公財）兵庫丹波の森協会（丹波の森研究所）（以下「森協会」）等とする。（公財）兵庫丹波の森協会はコーディネーターとして協議会への助言、支援を行う。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体（平成３０年度選定）

活 動 団 体	主な活動地域
生郷里山づくり懇話会	丹波市氷上町
北岡本自治会	丹波市市島町
下三井庄自治会	丹波市春日町
特定非営利活動法人　バイオマスフォーラム丹波	丹波市氷上町
平松区森林愛好会	丹波市春日町
森の学び舎プロジェクト（特定非営利活動法人　バイオマス丹波篠山）	丹波篠山市

２）里山づくり活動の支援

- 活動団体の協議会や現場活動等に参加して運営の支援を行うとともに、活動における課題（整備後の里山の状態のモニタリングや作業の安全管理、必要資機材、人材育成、地域連携等）を活動団体と共に把握し、活動の振り返りのワークショップを通じ、短期的、中長期的な計画の 調整をサポートする。
- 調整した計画に基づく、次年度以降の活動の計画や体制整備について、活動団体を支援する。
- アドバイザーは、別の委託業務「森のかわら版」の制作にかかる現地取材について、活動団体が実施する里山づくり活動をＰＲする機会に協力する。

３）業務報告

- 年度末に今年度の活動を振り返って、活動団体との協議や現場活動等の支援内容について里山づくりアドバイザーからの報告を受け、その内容を取りまとめる。

２　アドバイザー派遣地区

（1）アドバイザー派遣地区の位置

(2) 里山づくり活動団体概要

・採択時のヒアリング内容を中心に里山づくり活動団体の概要を取りまとめた。

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点
生郷里山づくり懇話会	真鍋　宏行 丹波市氷上町 0795-82-2666	・活動対象エリアは、水分れ資料館周辺と小学校・幼稚園の裏山の２地区 ・ヒカゲツツジなどの希少種の群生地があり、シーズンには愛好家が相当数訪れるが、遊歩道整備は十分とは言えない状況 ・実績としては自治会の草刈り程度であり、活動組織づくりが今後の課題となっているようである	これから森林整備に取組もうとする段階であり、様々な面でのアドバイスが必要。 ヒカゲツツジなど植生保全。
平松区森林愛好会	伊藤　忠嘉 丹波市春日町 090-8829-3460	・林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受けている。交付金で機材等を備え、多面的な活動に取り組んでいる。要請を受け近隣集落へも応援に行っている。 ・月に４～5 回の活動を行っている（非常に高い頻度） ・森林整備だけでなく、子ども達の森あそびや薪づくりなど多様な活動を継続して実施している。 ・薪やチップの販売も手掛けている。特に竹パウダーを土壌改良剤や肥料としての活用を試みている。	他地区の事例や森あそびへの助言 多様な森林整備を確認し、今後の方向性を整理 森あそびや資源の活用 竹パウダーを活用した商品開発（有機農法等での活用）
北岡本自治会	黒田　拓治 丹波市市島町 090-8829-3460	・これまでも自治会活動の一環として森林整備活動を実施しており、継続性については問題がない。 ・活動を通して森林の現況は把握しているが、整備のあり方については、アドバイザーの助言が必要。 ・活動対象エリアが 70ha（個人有 50ha）と広く、今後の活動を進めて行く上で、全体・年次計画が必要。 ・木の駅プロジェクトに参加 ・チェーンソー講習会の場として活用 ・今後は、自然観察会やレクリエーションを含め、楽しめる森づくりの方向も検討が望まれる。	参加者を広げる工夫が必要。 活動対象範囲が広く、林相に対応したゾーニング計画が必要 樹種更新など技術的サポートも必要

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点
バイオマス丹波篠山	高橋　隆治 篠山市垣屋 079-593-1150	・NPO 法人バイオマス丹波篠山が主体となって「森の学び舎プロジェクト」という里山利用（レクリエーションや体験活動）を図ろうとしている。 ・篠山市の公有地である ・「大路こどもの森」や「ささやまの森」のような活動拠点づくりを想定。	通常の里山整備とは若干異なるが、西紀運動公園との連携も可能であり、レクリエーション主体の森づくりも意味がある。
バイオマスフォーラム丹波	前川　哲和 丹波市氷上町 090-4291-9644	・子育て世代を応援する森あそび場を目指しており、現在の活動もそこに重点が置かれている。 ・NPO のメンバーが主体となっており、地域との連携は希薄である。 ・森林を場として、子どもを中心とした体験や環境学習を進めている。	環境学習や森のクラフト等のアドバイザーが適切。
下三井庄地区	細見勝 丹波市春日町 090-1146-8554	・自治会の林野委員会が主体となって活動している。 ・住民参加型森林整備事業や森林・山村多面的機能発揮対策交付金などの補助制度を活用している。 ・道路（林道？）沿いの森林が整備対象となっており、いわゆる里山林縁部だけでありやや違和感がある。 ・地域内には「大路こどもの森」があり、そこで活動している森林インストラクターも本会に活動参加している。	活動地について詳しく聞く必要があるが、活動については積極的である。 （活動団体内に森林インストラクターの山崎氏が参画している）

３　アドバイザー報告

３－１　生郷里山づくり懇話会

（1）令和２年度の生郷里山づくり懇話会の活動実績

今年度、生郷里山づくり懇話会では、下記の一覧の通り活動を行い、アドバイザーとして会議および現地活動をサポートした。

①令和２年度　生郷里山づくり懇話会　活動実績一覧

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020 年 5 月 8 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員、 木の駅実行委員、 アドバイザー 丹波市農林整備課	・今後の遊歩道整備について、会員による作業と、業者の力を借りる作業について現地相談。 ・丹波市木の駅プロジェクトへの伐採木の出荷について、現状と、今後欲しい道具・機械類などについて相談。
6 月 2 日	生郷交流会館	懇話会会員、 丹波市農林整備課	第 13 回生郷里山づくり懇話会 ・今後の組織のあり方について ・経過報告（遊歩道整備の進捗） ・予定（月 2 回程度、遊歩道整備活動を継続） （アドバイザーより、事前に参考資料提供）
7 月 4 日	いそべ神社付近、および東小学校裏山	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	住民参画型森林整備の実施場所の下見を行った。千代田池左岸の遊歩道整備地に隣接する、いそべ神社裏の林と、以前から整備について話し合っていた東小学校裏山の林とを現地踏査し、整備範囲と内容について相談。
7 月 6 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 14 回生郷里山づくり懇話会 ・住民参画型森林整備事業について、4 日の現地での踏査に基づいて協議。 ・遊歩道整備の進捗、今後の予定等について
8 月 7 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 15 回生郷里山づくり懇話会 ・遊歩道整備の進捗と今後の予定について ・8 月中旬より、森林組合に委託予定の重機による遊歩道拡幅等について
8 月 22 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・転落防止用の杭作り ・枯れ枝の片づけなど
8 月 22 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	遊歩道整備の業者委託部分について、現地で相談。一箇所、池への土砂流入の懸念が発生して作業が中断しており、土砂対策と景観対策の両面から、どのように対処するかを協議。また、遊歩道付近の危険木の追加伐採等も相談。

8 月 30 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・遊歩道の業者委託区間より先の区間を、会員が手作業で整備活動。
9 月 10 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 16 回生郷里山づくり懇話会 ・遊歩道整備の進捗（会の作業進捗と、業者委託完了分を含む）、今後の予定について協議
9 月 21 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・間伐材を用いて、遊歩道の階段づくりなど整備活動を実施。
9 月 27 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・間伐材を用いた土留めや階段づくりなど遊歩道整備活動を実施。
10 月 2 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 17 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュールの打合せ等 ・助成金等の活用状況と、今後の活動に必要な資機材の検討等
10 月 4 日	東小学校裏山	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	・住民参画型森林整備事業による業者委託伐採木の選定を行った。 　東小学校裏山における、今後の整備イメージや活用アイディアを現地で相談しながら、危険木を中心に、業者に伐採を委託する木を選木。
10 月 14 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 18 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュールの打合せ等。遊歩道は、業者施工箇所の先 50m ほどを手作業で整備中。 ・東小学校裏山の危険木伐採の業者選定 ・懇話会の規約制定と役員について
10 月 18 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・間伐材を用いた土留めや転落防止杭打ち、階段づくりなど遊歩道整備活動を実施。
10 月 31 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・間伐材を用いた階段づくりなど遊歩道整備活動を実施。

11 月 10 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 19 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュール（週 1 回程度活動）の打合せ等。 ・懇話会専用口座の開設等報告 ・助成金による資機材の納品状況、購入予定品目等を協議。
11 月 14 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・間伐材を用いた階段づくりなど遊歩道整備活動を実施。
11 月 29 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・間伐材の皮むきや、遊歩道の土留め、階段づくりなど遊歩道整備活動を実施。
12 月 6 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・竹を用いた手すりづくりや、間伐材を用いた遊歩道の修景などを実施。
12 月 8 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 20 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュール（年末年始を除き、週 1 回程度）等を協議。 ・東小裏山の危険木伐採業者の確定報告、助成金による購入予定品目の追加検討等。
12 月 19 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・竹や間伐材を用いた遊歩道の整備活動、および端材や枝の整理など遊歩道整備活動を実施。
2021 年 1 月 7 日	生郷交流会館	懇話会会員、 丹波市農林整備課	第 21 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュール（年末年始を除き、週 1 回程度）等を協議。 ・住民参画型森林整備事業等について協議。
2021 年 1 月 9 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山遊歩道整備活動（現地） ・間伐材を用いた土留めや階段づくり、杭打ちなど、遊歩道整備活動を実施。
1 月 17 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員 平松区森林愛好会	里山遊歩道整備活動（現地） ★チッパー講習会 平松区森林愛好会より講師を招き、竹林整備の竹や枝葉のチッパー処理などを行った。
1 月 30 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員 丹波市木の駅実行委員会	里山整備活動（現地） ・間伐材の皮むき、杭作り（杭焼き）、土留めなど里山整備および遊歩道整備活動を実施。

2 月 3 日	生郷交流会館	懇話会会員、 丹波市農林整備課	第 22 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュール等を協議。 ・住民参画型森林整備事業等、補助事業の進捗について協議。
2 月 6 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・間伐材の皮むき、土留めなど里山整備および遊歩道整備活動を実施。
2 月 13 日	いそべ神社裏 ～水分れ公園 滝裏活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・住民参画型森林整備事業の一環として、低木照葉樹の間伐や竹の除伐などを実施。
2 月 20 日	いそべ神社裏 ～水分れ公園 滝裏活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・住民参画型森林整備事業の一環として、低木照葉樹の間伐や竹の除伐などを実施。
2 月 27 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・間伐材を用いた遊歩道整備、土留めなどを整備活動を実施。
3 月 1 日	生郷交流会館	懇話会会員、 アドバイザー、 丹波市農林整備課	第 23 回生郷里山づくり懇話会 ・現在の活動進捗報告と、今後の活動スケジュール等を協議。 ・補助事業の進捗および備品購入状況報告、追加購入品目の検討等を行った。 ・4 月以降の活動についても協議した。
3 月 6 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・間伐材を用いた遊歩道整備、土留めなど整備活動を実施。 ・シイタケおよびナメコの菌打ち作業を実施。
3 月 13 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員 アドバイザー	里山整備活動（現地） ・遊歩道周辺で伐採した竹や間伐木の枝葉などを整理し、遊歩道の整備活動を実施。
3 月 14 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・遊歩道周辺で伐採した竹や間伐木の枝葉などを整理し、遊歩道の整備活動を実施。
3 月 27 日	千代田池左岸 里山活動地	懇話会会員	里山整備活動（現地） ・遊歩道周辺で伐採枝葉の整理、池周辺のササ刈り、倒木除去、広葉樹の植樹などを実施。

② 令和２年度　生郷里山づくり懇話会　主な活動の写真

以下に、今年度に行われた主な現地活動の様子を写真で紹介する。

［7 月 4 日］　水分れ公園の上流側を踏査し、小さな池も視察。今後の整備範囲や順序について検討。

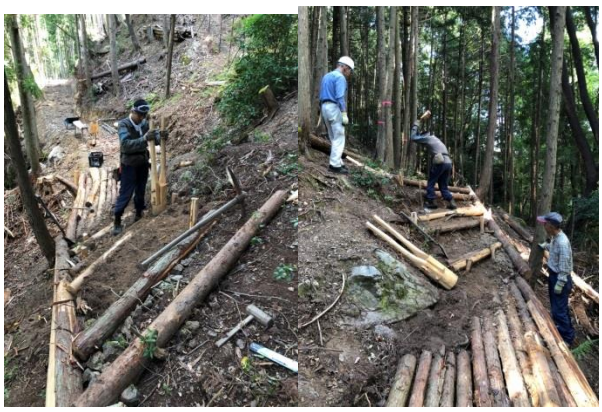
［7 月 4 日］　いそべ神社裏の様子を視察。下層植生は少なく、不規則に生育不良木等あり。

［8 月 22 日］　千代田池周辺の遊歩道整備のための視察。水分れ資料館脇の状況。

［8 月 22 日］　千代田池左岸活動地で、間伐木の皮むき作業風景。

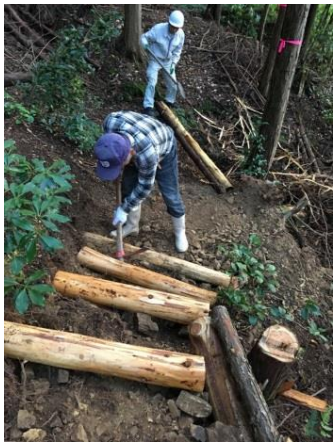
［8 月 30 日］　遊歩道整備活動（千代田池左岸）

重機作業は業者委託し、材は懇話会も活用した。



[9 月 21 日] 間伐材を利用した遊歩道階段整備

[9 月 27 日] 間伐材を利用した土留め、転落防止杭打ちなどの遊歩道整備活動(千代田池左岸)。



[10 月 18 日] 間伐材を利用した遊歩道階段整備。

[10 月 31 日] 間伐材を利用した遊歩道階段整備。

[11 月 14 日]景観ポイント周辺の伐倒作業

[11 月 14 日] 伐倒木の玉切り作業

[11 月 14 日]伐倒木を整理した様子

[11 月 29 日]　杭材として皮むきする様子

[12 月 6 日]　千代田池左岸の遊歩道整備
竹林に手すりをつくり、沿道の修景作業をした。

[12 月 12 日]　千代田池左岸の遊歩道整備
焚火で、手すり材料の竹のやに抜き作業。

[1 月 9 日]　間伐材を用いた土留めと遊歩道整備

[1 月 17 日]　平松区森林愛好会を講師に招き、チッパー作業の講習会を実施。

[1 月 30 日]　雪の中、土留めや杭打ち作業実施。

[1 月 18 日] 木の駅実行委メンバーと共同作業。

［1 月］　東小裏の危険木は、業者委託で伐採。材の一部は、シイタケの原木として利用した。

［2 月］ 住民参画型森林整備事業の助成を受けて、小型チッパーなどを購入し、活動基盤を強化。

［2 月 20 日］　いそべ神社裏の森林整備活動

［3 月 1 日］　懇話会の会議（6 月より毎月実施）

［3 月 6 日］　シイタケ・ナメコの菌打ち作業

［3 月 14 日］　間伐材を用いて、活動地の看板も作成・設置した。

［3 月 19 日］　遊歩道入り口の看板

［3 月 19 日］　向山のハイキングルートの鳳翔寺の近くに、誘導看板も設置

[3 月 27 日]　遊歩道の沢を跨ぐ箇所の整備	[3 月 19 日]　竹林付近の遊歩道の完成

③　生郷里山だよりの発行等の広報活動

懇話会では、昨年度に引き続き、遊歩道整備などの現地活動を生郷地区住民に広く知らせ、参加者や賛同者を増やすことを目指して、令和２年４月から令和３年２月にかけて計５号の『生郷里山だより』を発行し、各自治会などを通じて回覧を行った。新聞や市の広報などにも掲載された。

回覧

生郷里山だより　Vol. 9　R3. 2. 18

２月に入って、雪が降るかと思えば４月の陽気になる日もあり、中々身体がついていきませんネ！そんな中ですが、里山の作業は順調に進んでいます。千代田池遊歩道は、土留め作業があと少しのところまできました。３月20日(土)の水分れフィールドミュージアムオープンに合わせて完成するよう頑張っています。また東小裏山やいそべ神社裏山の整備にも着手し、県の補助で購入した機材を活用しながら、倒木の枝葉の片付けなどができるようになりました。
これからも地域の皆様のご理解ご協力をよろしくお願いします。

今までの作業について

←1/17(日)　チッパー講習会
（チッパーとは枝葉粉砕機のこと）
平松区森林愛好会による講習を受け、たくさんの枝葉処理ができました。

1/27～29　東小駐車場の裏山
手に負えない箇所を山本屋さんに整備してもらい、フェンス際がすっきりしました。来年度は手作業で、この続きをする予定です。↓

←1/30(土)　千代田池遊歩道
木の駅プロジェクトから二人の応援があり、作業がとてもはかどりました。

2/6(土)　千代田池遊歩道
チッパーで倒木の枝葉処理をし、遊歩道もきれいになりました。↓

2/13(土)　いそべ神社の裏山整備
枯れ木の伐倒や腐った木の撤去。下草刈りもできて、だいぶ片付きました！

3月も毎土曜日 9:00～11:30
活動しますのでよろしくお願いします！

生郷自治振興会
669-3464　丹波市氷上町石生 700-1
TEL/FAX　0795-82-2666

神戸新聞

新学期 通常通り開始

丹波市

本州一低い中央分水界

水分れ 地域の宝に

住民、周辺の山を手入れ

絶景楽しむ遊歩道など整備

資料館 再オープン延期

人札不調のため

おくみや

地域の森林をどう生かすか？

地域に開かれた里山をめざして

Interview

神戸新聞 2020 年 4 月 3 日（金）

広報たんば 2020 年 6 月２２日号（第 188 号）

（2）令和３年度の計画と課題

①　令和３年度当初の活動予定

令和３年３月１日の懇話会会議にて、４月以降は、現地活動を月２回、会議を月１回程度開催することが決まった。

現地活動地は、千代田池左岸の遊歩道付近からいそべ神社奥のエリアと、東小学校裏山の二ヶ所だが、６月頃までは千代田池左岸の遊歩道付近で倒木処理や遊具づくりなどを行い、それ以降年内は神社奥エリア、年明けより東小学校裏山へと活動を広げていく予定を立てている。

昨年までの懇話会の議論で、生郷の里山づくりでコアとなるコンセプトとして、３つの柱が掲げられている（下記）。このうち、〈1〉と〈3〉は懇話会が今後もリードする活動で、〈2〉は土木工事を含むハード事業の必要性から自治会や自治振興会がリードする活動となっていく見込みである。（次ページ図『氷上回廊と中央分水界の奇跡を楽しむ生郷の里山づくり』（昨年度作成）参照）

【生郷地域の里山づくり　３つの柱】
〈1〉水分れ周辺の親しみやすい遊歩道・里山づくり
　水分れ資料館・千代田池周辺を中心として、来館者が気軽に散策できる親しみやすい遊歩道・里山づくり
〈2〉災害に強い里山づくり
　地元住民・自治会が中心となって取り組む、災害に強い里山づくり
〈3〉「中央分水界の径」を活かした多様な連携による里山づくり
　穴裏峠から栗柄峠までを結ぶ「中央分水界の径」沿いで、様々な里山活動団体や自治会、小学校などと連携し、「中央分水界の径」で繋がる多彩で楽しい里山をつくっていく、地域縦断型の里山づくり

②　現状と課題

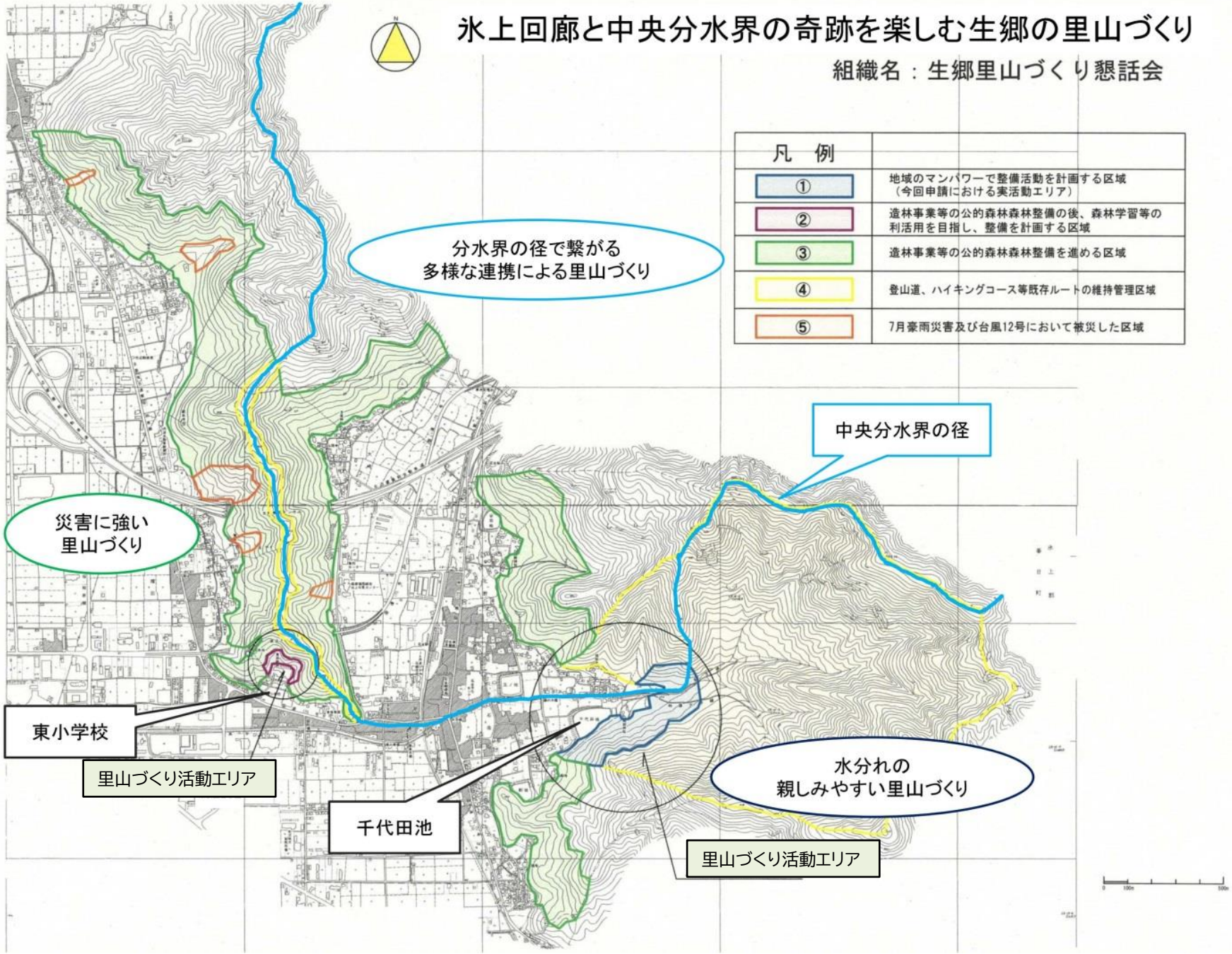
昨春は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、全国一斉の移動自粛要請があったため、４月から５月にかけて、多人数が集まる活動や会議を自粛した。このため、６月以降に段階的に活動を再開し、本格的な現地活動は夏以降となった。これに伴い、学校連携活動なども一年間見送る結果となった。

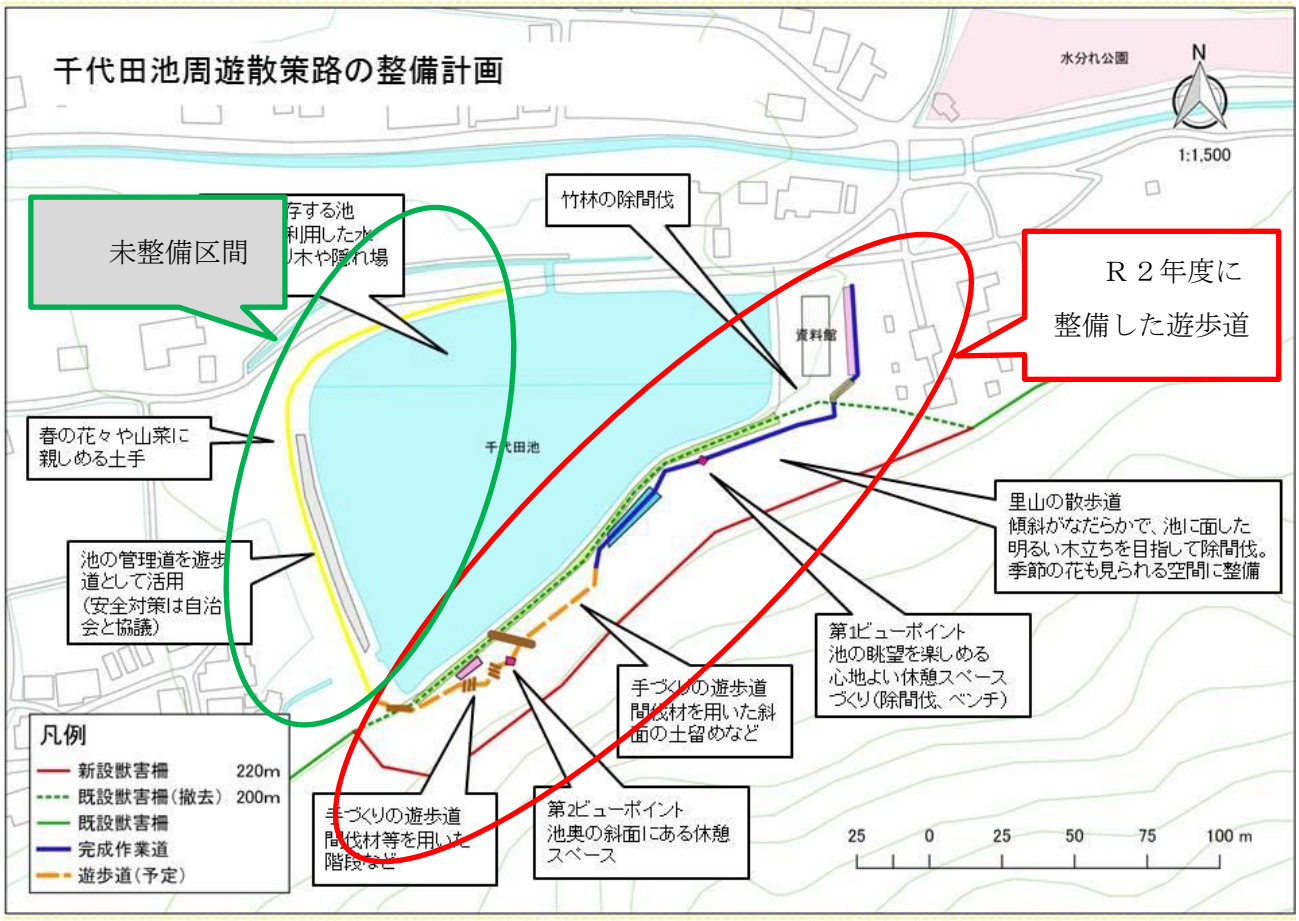
千代田池左岸の遊歩道は、氷上回廊水分れフィールドミュージアムのリニューアルオープンに合わせてお披露目することを目指して活動した。夏から本格的に間伐木や間伐竹を用いた遊歩道づくり作業を行い、適宜、公的な助成事業を受けて重機等による危険作業は業者委託して整備を進めた。また上記写真にもある通り、丹波市木の駅実行委員会や、平松区森林愛好会など、先進的な市民グループとの交流も深め、ノウハウを習得しながら進めてきた。その結果、間伐（伐倒）、玉切り、材の移動や搬出、皮剥ぎ、ベンチづくり、道づくりなど、懇話会メンバーの森林整備活動の技量も徐々に向上し、地域外との緩やかなネットワークも形成されてきた。

遊歩道は、道しるべの看板も設置され、ある程度完成した（３月下旬時点）。ただし、当初計画した千代田池周遊路は、堰堤上の安全対策などの合意形成が未決のため未整備である（次々ページ図）。

氷上回廊と中央分水界の奇跡を楽しむ生郷の里山づくり

組織名：生郷里山づくり懇話会





図．千代田池周辺遊歩道の整備状況（昨年度の計画図に重ねあわせ）

池自体は農業設備であるため、現在は農会が管理し、堰堤上および堰堤法面は獣害柵で囲われているため、通りぬけはできない。不特定多数の一般市民を通すには、池への転落防止などの安全責任が問われるとの懸念があり、安全柵を設置する場合は費用負担が生じるため、地元合意の見込みは立っていないのが現状である。

当面、遊歩道は、周遊路でなくとも楽しめるように整備するのが現実的であり、懇話会としても、無理なく安全に楽しめる範囲での整備を計画している。

懇話会メンバーからの報告によれば、案内看板の設置後、早速、鳳翔寺（上図で千代田池より南西方向）から氷上回廊水分れフィールドミュージアムに向かって、登山客が遊歩道を利用していたそうである。この情報は、一年間、手さぐりで遊歩道整備を進めてきたメンバーにとって、達成感と新たなモチベーションを感じる話題として歓迎されている。

以上のように、現在、懇話会では、森林整備に関する技術習熟度が高まり、意欲も旺盛である。一方、氷上回廊の特徴である生きものの多様さを体感したり、里山の恵みを五感で味わう、といったソフト面での里山活動に踏み込めていないことは、懇話会メンバーも認める現状である。またその結果、遊歩道整備などの導入部分の計画はあるものの、３０年後や１００年後の里山全体を面的に議論し計画する、という地域の機運はまだ盛り上がっていない。

今後のアドバイザーの役割は、懇話会の希望に沿いつつ、徐々に「生郷の生物多様性や里山の恵み」を体感する機会を増やし、中長期の里山づくりを議論できる土壌を醸成することであろう。

３−２　平松区森林愛好会

（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020 年 7 月 14 日 ～	平松区 1）協議 2）電話	伊藤会長 アドバイザー	**里山整備活動を利用した新たな展開** ・里山づくりを進めている活動地や活動内容を多面的に活用（活動体験、都市住民参加型の里山活動、里山整備の技術研修など）を図る。 ・これまでのノウハウを伝えるような事業を進めたい。 **提案** ・ひょうご森の倶楽部や兵庫県森林インストラクター会への呼びかけ ・兵庫県森林大学校の課外授業や里山整備活動体験などを提案 ⇒コロナ禍にあり今年度実施は難しいが、来年度に向け調整を検討。 ⇒兵庫県森林大学校に意向確認を行う **調整** ・年内に平松区森林愛好会の全体会議（意見交換会）を開催し、現行の里山整備活動に加えて新たな展開について、愛好会会員との意見交換を行う。
12 月 16 日 （前半）	平松区活動地現地視察 （森づくり検討会）	伊藤会長 愛好会メンバー 丹波市農林整備課 アドバイザー	活動内容の確認および現況 ・間伐地を森遊びに活用 ・間伐材の活用（シイタケ）

			 ・作業道の整備 ・渓流の整備と活用の検討
12 月 16 日 （後半）	平松区活動 森づくり検討会ワークショップ	伊藤会長 愛好会メンバー 丹波市農林整備課 アドバイザー	**意見交換会** ・アドバイザーから現在の活動内容について留意点を話した。その後、それぞれから発言があり、意見交換を行った。 **今後の里山づくりの方向** ・里山づくり活動の研修、実習の場の提供 ・林内作業道の整備と管理の技術的サポート ・都市住民参加型の里山づくり 「どんぐり千年の森をつくる会」との連携 ・里山整備空間（環境）の提供（里山レクリエーション、自然体験など） ・里山活動モチベーションを高めるインセンティブを確保する（森林環境譲与税の活用、各種助成金の申請、スモールビジネス等） ・里山づくり活動の中で生物多様性の取り組み ・地域と一体となった取り組みを考える

（2）令和２年度活動写真

【竹林整備】

竹林駆除（1m切り）

整備された竹林

【四阿周辺の整備】

整備された四阿

集落からの登山道（未整備、四阿南側）

広葉樹の植栽（モミジなど、四阿西斜面）

尾根部遊び場（四阿北）

【森林整備】

間伐の進んだ人工林（高速道路南の緩傾斜地）

間伐の進んだ人工林

作業道の整備・間伐・搬出（高速道路北の傾斜地）

渓流沿い散策路整備検討地

シイタケづくり（ホダ木、植菌）

【地域資源の保全活動】

八幡神社周辺整備

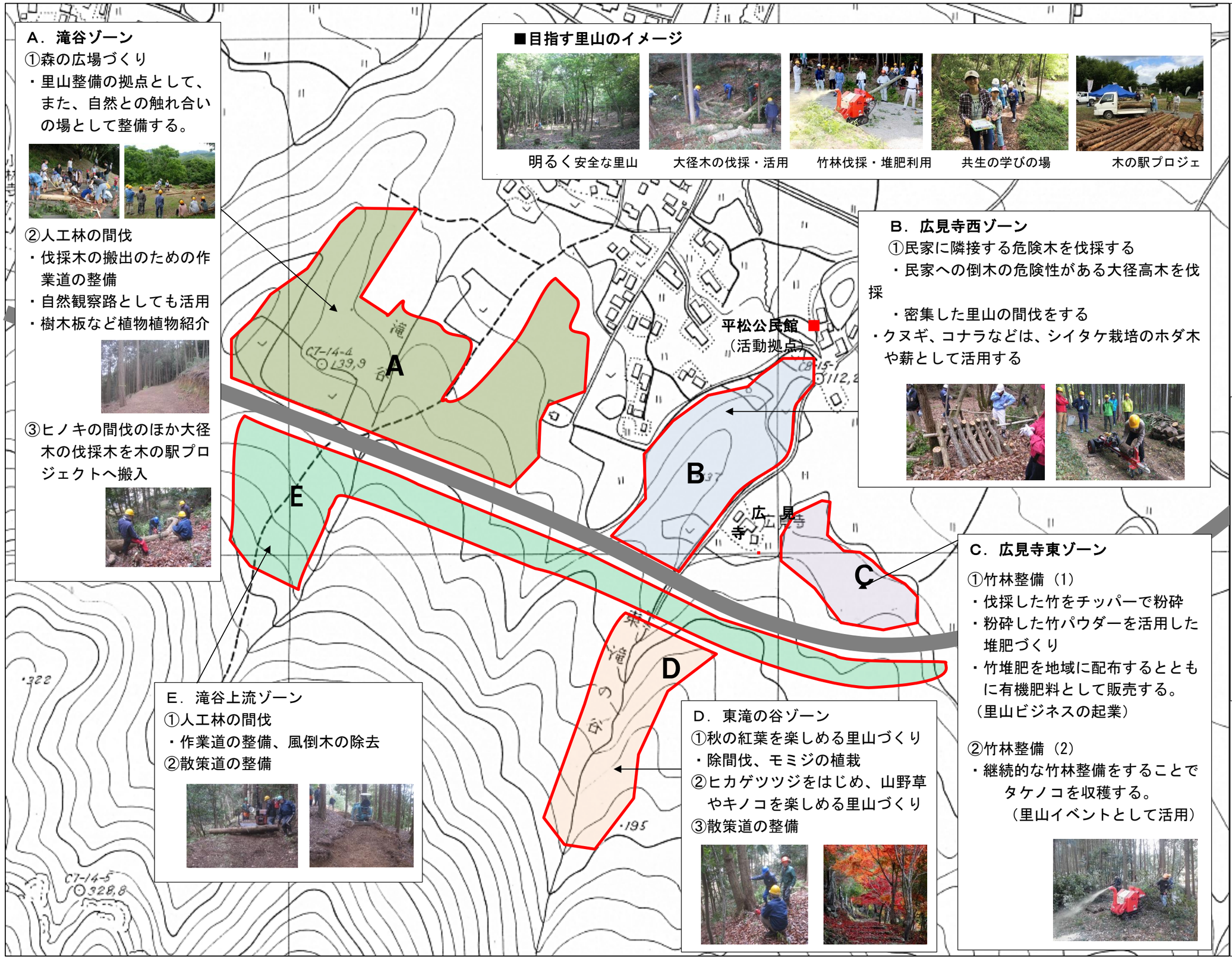
神社後背林の徐間伐・薪づくり

【活動拠点】

倉庫・作業（機材メンテナンス）場

販売用薪乾燥室（ビニールハウス）

平松区森林愛好会　里山づくり30年計画「地域の資源としての里山を活用する！」



A．滝谷ゾーン

①森の広場づくり

・里山整備の拠点として、また、自然との触れ合いの場として整備する。

②人工林の間伐

・伐採木の搬出のための作業道の整備

・自然観察路としても活用

・樹木板など植物植物紹介

③ヒノキの間伐のほか大径木の伐採木を木の駅プロジェクトへ搬入

■目指す里山のイメージ

明るく安全な里山　大径木の伐採・活用　竹林伐採・堆肥利用　共生の学びの場　木の駅プロジェ

B．広見寺西ゾーン

①民家に隣接する危険木を伐採する

・民家への倒木の危険性がある大径高木を伐採

・密集した里山の間伐をする

・クヌギ、コナラなどは、シイタケ栽培のホダ木や薪として活用する

C．広見寺東ゾーン

①竹林整備（1）

・伐採した竹をチッパーで粉砕

・粉砕した竹パウダーを活用した堆肥づくり

・竹堆肥を地域に配布するとともに有機肥料として販売する。

（里山ビジネスの起業）

②竹林整備（2）

・継続的な竹林整備をすることでタケノコを収穫する。

（里山イベントとして活用）

D．東滝の谷ゾーン

①秋の紅葉を楽しめる里山づくり

・除間伐、モミジの植栽

②ヒカゲツツジをはじめ、山野草やキノコを楽しめる里山づくり

③散策道の整備

E．滝谷上流ゾーン

①人工林の間伐

・作業道の整備、風倒木の除去

②散策道の整備

整備スケジュール

Ⅰ期（2019～2028）

【里山整備】

（全ゾーン）

・危険木の伐採

・木の駅プロジェクト

（滝谷ゾーン・広見寺東ゾーン）

・竹林整備

・竹パウダーの有機肥料化

【地域貢献】

・竹堆肥の地域への配付

・竹堆肥を利用した農産物や園芸への実証実験

・シイタケのほだ木づくり

【自然とのふれあいイベント】

・つる籠づくり

（広見寺東ゾーン）

・自然観察路づくり

・樹木札づくり

Ⅱ期（2029～2038）

【里山整備】

（滝谷ゾーン）

・作業道の整備

・人工林の間伐、搬出

・木の駅プロジェクト

（東滝の谷ゾーン）

・谷川沿いの除間伐

・モミジ等の植樹

・山野草などの植物調査

【地域貢献】

・民有林の請負整備

【自然とのふれあいイベント】

・つる籠づくり

・樹木札づくり

・自然観察路づくり

Ⅲ期（2039～2048）

【里山整備】

（全ゾーン）

・危険木の伐採

・木の駅プロジェクト

（東滝の谷ゾーン）

・散策路の整備

【地域貢献】

・民有林の請負整備

・たけのこ掘り

【自然とのふれあいイベント】

・東滝の谷など自然観察会

・つる籠づくり

・樹木札づくり

平松区森林愛好会　里山づくり30年計画「地域の資源としての里山を活用する！」

分　類		活用（目的）	活動内容	継続（持続可能な取組へ）	課　題
里山の資源	人工林	・ヒノキ、スギをチップ材として販売	・伐採⇒玉切り ⇒林内作業車⇒搬出 ・集積場へ運搬（レンタカー）	・安全管理（作業手順、器材、服装など） ・収益あり（活動資金の確保） ※木の駅プロジェクトが木材運搬を一括実施する方向を提案⇒他地域と連携	・運搬方法（費用） ・優良人工林の育成 （長伐期⇒木材販売） ・伐採地の更新（植樹？）
	二次林 広葉樹林	・ほだ木（椎茸） ・薪 ・桜チップ	・伐採（玉切り）、シイタケ栽培 ・伐採木の活用 ・伐採木の活用	・地域の文化祭で配布 ・薪にして販売 ・桜チップの販売 （活動資金の確保）	・栽培量の増加？ 栽培場所の確保 乾シイタケづくり？ ・広葉樹の植樹？
	竹林	・竹チップ ・材の活用	・伐採⇒チップ⇒販売 ・竹馬、そーめん流し用の樋 クラフト（器、皿）	・収益あり（活動資金の確保） ・竹チップの活用を広げる ・ノコギリ、ナタ、キリ・地域連携	・竹林の育成（持続的伐採） ・竹チップの肥料化 ・指導員の確保・養成
	林内道	・林内作業道 ・遊歩道	・間伐、搬出用 ・ハイキングやウォーキング、自然観察等に活用・整備 ・公民館～四阿の遊歩道の整備	・維持管理（点検・修繕） ・資材・機材の購入 ・ハイキングのルートとして活用 ・案内板、サインなど ・階段整備用資材	・みちマップ、自然ガイドマップなどの作成
里山の恵み	自然観察 環境学習	・ウォーキング ハイキング	・自然観察：春の山菜採り 秋の山菜・キノコ狩り ・樹木札（植物名）づくり	・地域の行事として定着化 ・食事会（天ぷら、炊き込みご飯など） ・札用の板、筆記具	・自治会と連携⇒自治会行事に位置付け ・女性陣の参加
	クラフト	・季節の飾り作成	・ツル籠、リースづくりなど ・正月（しめ縄、ミニ門松など） ・ツル、松ぼっくり、どんぐり、木の実などを集める	・材料集めから参加形式とする ・木の実交換会などの仕掛けづくり ・ウラジロ、ナンテン等の採取場の確保 ・クラフト機材	・自治会と連携⇒自治会行事に位置付け ・女性陣の参加
	栽培計画	・山菜の栽培 ・プリザーブドフラワー用材植物	・ワサビ、クレソン、タラの芽 葉ワサビ、ナメコなど ・アジサイの植栽	・試験栽培の実施 ・栽培可能種の設定 ・販売ルートの確保・栽培地の確保 ・機材（ビニールハウス等） ・栽培方法	・管理（栽培）体制の整備 ・新たな参加者への呼びかけ

３−３　北岡本自治会 30 年の森づくり

（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020 年 8 月 2 日	北岡本 木の駅ストックポイント	黒田会長 30 年の森づくりメンバー	・今年度より森林・山村多面的機能発揮対策事業を実施（令和 2 年度～令和 4 年度） ・6 月からほぼ隔週日曜日に間伐及び薪づくり作業を行っている。 ・作った薪は木の駅プロジェクトに搬出 ・薪の集積所（木の駅ストックポイント）に指定されている。
8 月 2 日	北岡本 里道整備地区	黒田会長	・里山アドバイザー業務としては、災害に強い森づくり対象区域内の林間地の活用や、伐採した危険木や風倒木の活用についての相談。
12 月 6 日	北岡本 里道整備地区	黒田会長 30 年の森づくりメンバー	・レンタルしたユンボで里道を拡幅 ・里道沿いの雑木を伐採 ・維持管理では、雨水や湧水の排水への対策が必要であることなどを話し合った。

12 月 13 日	北岡本 植樹祭	黒田会長 30 年の森づくりメンバー 林丹波市長 一般参加多数	・参加者とともにモミジ、クルミの苗 400 本を植樹した。 ・関西国際大学の学生グループも参加。
12 月 20 日	協議	黒田会長	**防災山林整備活動について** ・林内に放置されている伐採木や風倒木などが大雨で下流に流され、それによる災害の危険度が高まっている。 ・豪雨による被害ニュースなどで、山林から流された大量の流木がダム湖水面や下流域に溜まっているのが放送されている。 ・大量の流木は治山・治水施設に 2 次、3 次被害を生む可能性がある。 **里山づくりの課題と解決方策について** ・林内の倒木処理を促進するための課題や取り組みを考える必要がある。他の地区も同様の問題があると思う。 ・里山づくりモデル地区の代表者や森づくり専門家などが現在の森林課題やその解決方策、支援等について話し合う場（フォーラムなど）が必要かと。

（2）令和２年度活動写真

【薪づくり／木の駅プロジェクト／森林・山村多面的機能発揮対策事業】

木の駅プロジェクト搬出用薪づくり（ブルーシートの日陰下）

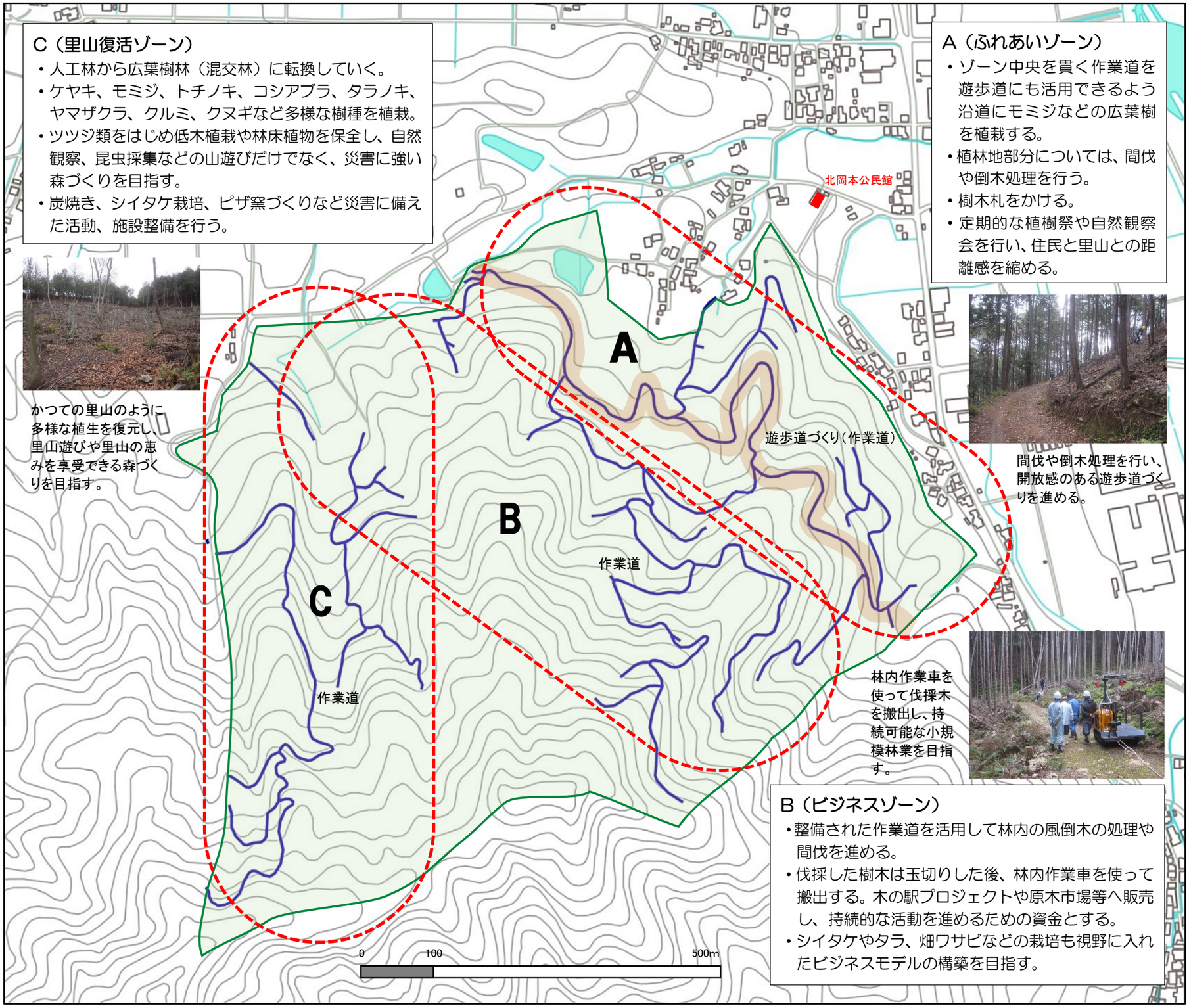
【里道整備】

バックホーによる里道拡幅

拡幅進路の雑木伐採

【植樹祭／12 月 13 日】

北岡本 30 年の里山づくり（森林の多面的機能を発揮する災害に強い里山づくり）



北岡本 30 年の里山づくり

・木材生産以外の森林の多面的機能が発揮できる健康的な森づくりを進め、災害に強い里山づくりを目指す。

■1 期（前期 15 年）

【A：ふれあいゾーン】

・親しみのある遊歩道づくり

⇨下刈り・間伐し、開放感のある雰囲気づくり
紅葉樹や花木を遊歩道沿いに植栽する

⇨イベント等を通して馴染みあるものとする

【B：ビジネスゾーン】

・小規模林業を推進する

⇨安全な伐採、玉切り、搬出作業等の訓練
伐採・搬出エリアの計画的な実施
材の活用、販売ルートの確保

【C：里山復活ゾーン】

・多様な森林（混交林）に転換する

・かつての里山を復活、復元する

⇨皆伐後、多様な高低木広葉樹を植栽する
林床植物を保全し、災害に強い森づくり

■2 期（後期 15 年）

【A：ふれあいゾーン】

・親しみのある遊歩道づくり

⇨下刈り・間伐を継続するとともに、日常的な住民利用に対して、適切な維持管理を住民全体で実施する。

⇨健康づくりや自然観察会等のイベントを定期的に実施する。

【B：ビジネスゾーン】

・小規模林業の確立

⇨作業の分業化、専門化を図り、安全で効率的な小規模林業を確立する。

⇨シイタケ、タラ、畑ワサビ等の栽培をビジネス化する。

【C：里山復活ゾーン】

・復活した里山、資源の活用

⇨自然観察、昆虫採集等ガイドツアーの実施

⇨様々な里山資源を活用し楽しむ。
炭焼き、ピザ焼き、つる籠などのクラフトづくり、山遊びを行う。

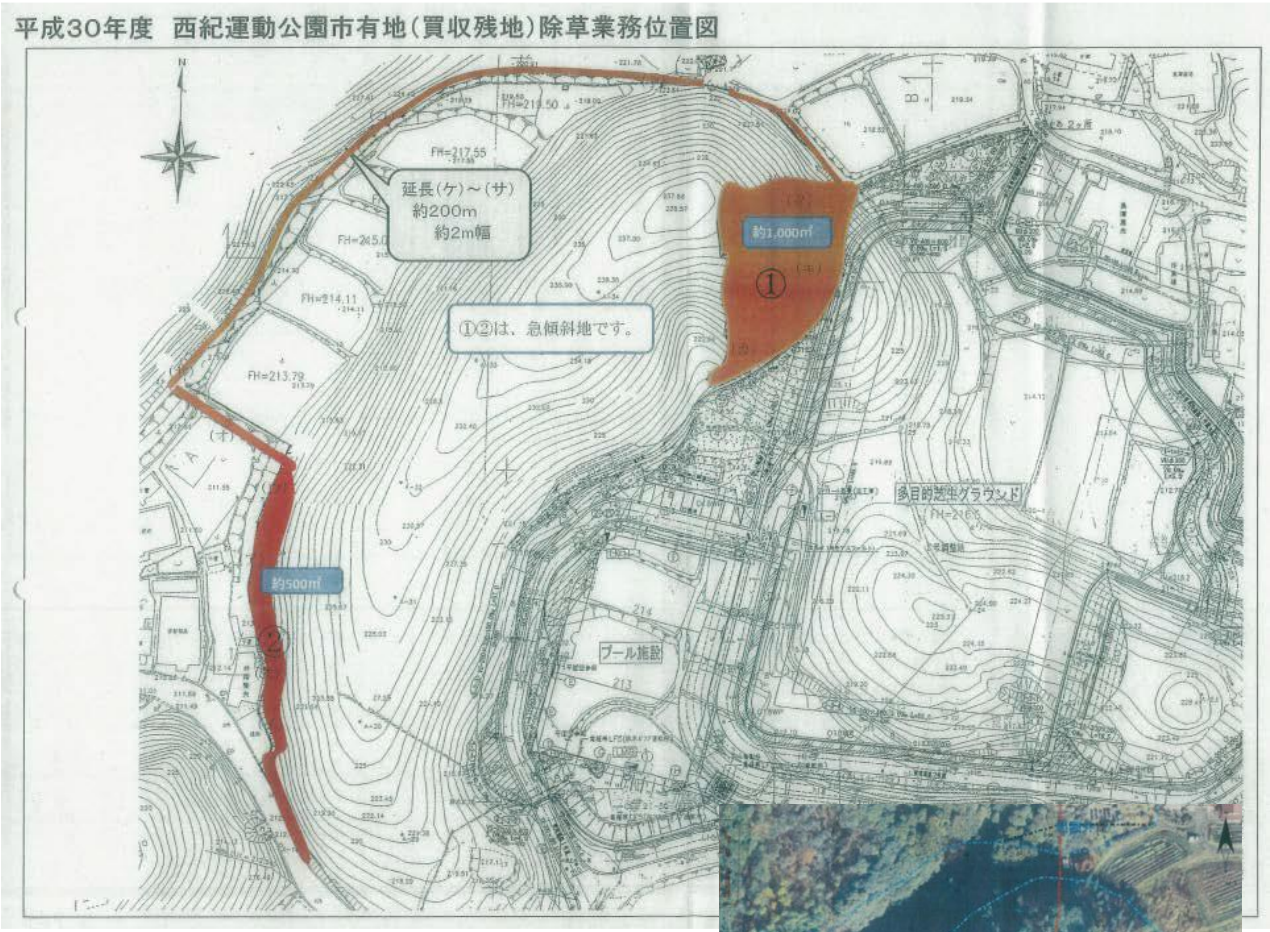
３-４　森の学び舎／バイオマス丹波篠山

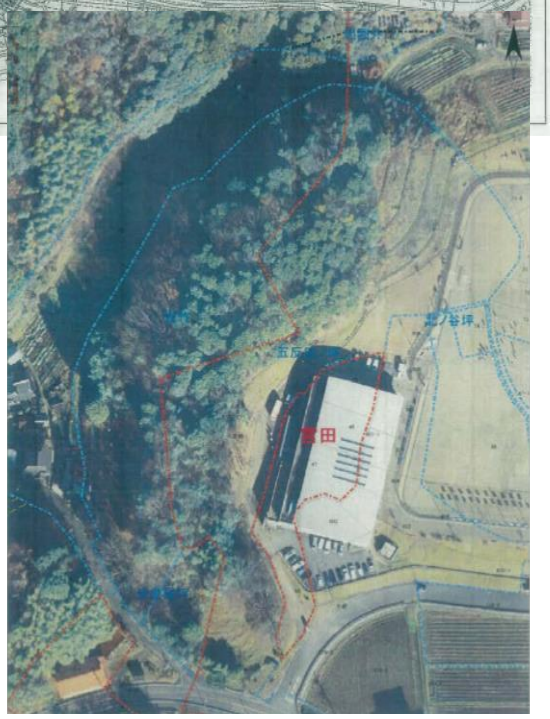
（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者（人数）	協議内容
2020 4 月 1～3 日 10：00～	西紀運動公園内山林	プロジェクトスタッフ 一般参加者計 10 名	森の学び舎オープン・デー① ・コロナ禍に配慮し、通常のイベント形式ではなく、「オープンデー」という形で、人数限定（6 名まで）の完全予約制で森を開放する試みを行った。 ・森の学び舎スタッフが付き添いでサポートし、参加者が思い思いに森を楽しむ様子が見られた。 ・遊びの場として開放。火気を使用する場合のみ、スタッフが立ち合い
4 月 11 日、19 日、25 日、26 日 10:00～	西紀運動公園内山林	プロジェクトスタッフ 一般参加者 15 名	
6 月 6 日、21 日､28 日 10:00～	西紀運動公園内山林	プロジェクトスタッフ 一般参加計 12 名	森の学び舎オープン・デー③ ・コロナ禍に配慮し「オープンデー」という形で、人数限定（6 名まで）の完全予約制で森を開放した。森の学び舎スタッフが付き添いでサポートし、参加者が思い思いに森を楽しむ様子が見られた
7 月 18 日 10:00～	西紀運動公園内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 一般参加計 10 名	森の道づくり① ・敷地北東部にある西谷集落との散策道を整備するための施業（主に間伐など）を行った。同集落の方々より「普段散策として使うようになった」という声をいただき、より一層日常的に楽しめるように、密集している斜面地樹林のルート確保に努めた。
7 月 25 日 10:00～	西紀運動公園内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 一般参加計 8 名	森の道づくり② ・前回に引き続き、敷地北東部にある西谷集落との散策道を整備するための施業（主に道づくりなど）を行った。今回の施業で、集落と小径がつながった。
9 月 5 日 10:00～	西紀運動公園内山林	プロジェクトスタッフ 一般参加計 8 名	ロープワークとブランコづくり ・森の学び舎で楽しく過ごせるために、立木を活用したブランコづくりを行った。 ・木に縄をかけるロープワークも体験し、少ない材料でも遊具がつくれることを学んだ。
11 月 8 日 10:00～	西紀運動公園内山林	アドバイザー プロジェクトスタッフ 一般参加計 20 名	森の音楽会＋年間活動の報告 ・木の枝や丸太などを使った即興の音楽会 ・2020 年の活動報告
2021 3 月 6 日	かまどづくり		・森の学び舎の活動を周知すべく、丹波の里山づくり促進事業実行委員会による「里山育成研修会」の一環として、「かまどづくり」のワークショップを行った。 ・コンクリートブロックと、山林にある赤土だけでつくり、防災の必需品になり得ることを学んだ。

（2）基本情報

- □ 活動場所：篠山市立西紀運動公園横里山（〒669-2721 兵庫県篠山市西谷602）
- □ 活動面積：1.8ha
- □ 所有者：篠山市（教育委員会）
- □ 主な樹種：ヒノキ、カシ、ナラ、クリ、サカキ、コシアブラなど
- □ 活動主体：森の学び舎プロジェクト（事務局メンバー６名）
- □ 活動支援：NPO法人バイオマス丹波篠山／八百材舎／丹波篠山市





（3）活動目的

・森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足した。

・「八百材舎」のメンバーを中心として、地域住民や学生を交えて篠山の森を森林資源として活用していくための活動基盤を作ることを目的とする。

＜目標とする森林像＞

・「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。森林の維持管理を積極的に行うことで、森林の地力も再生し防災にも繋がると期待される。

・学びの場を提供するための環境を整えるために、地域の方々と共に継続して整備や管理を行う。地域の方々との協働を通じて、地域の方々のこれまでの森林とのかかわりや森林への思い、知恵や技術をうかがい、次世代につないでいきたい。また地域の方々自身も自分たちの地域の森林資源の豊かさや魅力を再認識し、森林にかかわる意欲が高まることも期待する。地域への活動報告の広報誌などを作成することで、このフィールドでの活動が他の地域へ波及効果をもたらすことも図りたい。

・今年度の目標は、森で人が集い、活動できる空間を作ることである。そのためのオープンスペースや林道を整備する予定である。地域の人や学生、様々な分野で活躍する方などを呼び、森のことを学びながらこれからの森の在り方について自由に意見交換をしたい。

（4） 里山づくり30 年計画

・中長期的な目標として、5、10、30年後にどのような森を想定しているかを以下に示す。

＜5年後＞

・林道などの基盤整備が完了し、フィールドが様々な人が集まる場として機能している。森の望ましい姿を理解し、そのための管理や整備作業を地域の方と協力して行われている。フィールドにかかわる者が森林に関する知識や技術を身につけ、今後さらに活動範囲を広げるための成長の場になっている。

＜10年後＞

・望ましい森林の姿に近づいている。森林の管理や活用体制が整い、資源を有効利用してライフサイクルをまわしている。具体的には、間伐材や腐葉土の利用であったり、季節の果実を収穫したり、普段の生活に密着した森林の使い方が浸透している。フィールドが森のありかたや人間の場について考え学ぶ場として広く認知されていく。

＜30年後＞

・生態系豊かな森林となり、遊び場や活用の場としていた次世代相（現在の子供たち）が自分たちの子供を連れて森林を案内・活用法を伝授する。

（5） 今年度活動の評価と課題

□ 場所：八百材舎BASE（丹波篠山市倉本141）

□ 日時：2020年11月8日（土）15:00-16:00

□ 参加：事務局メンバー３名＋アドバイザー

＜今年度の活動の評価＞

O コロナによる緊急事態宣言やステイホームの動きにどう対応できるかが難しかったが、オープンデーという形で出来たこと、そして利用希望者が想像以上に多かったのが収穫だった。

O 隣接する集落とつなげる散策道が整備できたのは、一つの大きな成果としてあげられ、当初から目標としていた作成していた森づくりマップに対して、大規模な整備は概ね完成したと言える。

O 丹波地域外、都市部からの20-30代の参加者も多く、参加者の地域間、世代間の交流が図られ、地元住民にとっては地域の魅力の再発見ともっと魅力を向上させようという意識の醸成、都市部の人々にとっては里山でくらすうえでの知恵や技術を学ぶきっかけの場として機能した。

O 隣接する温水プールの利用者も興味で山に上がるようになったという報告も受け、学び舎のテーマである「日常使いの森」のイメージにも近づいた。

＜今後の課題＞

O 学び舎を運営していたスタッフ（学生3名）が今年度卒業に伴い、運営の中心を毎回のイベントに参加してくれている方たちにバトンタッチすることになった。今後、運営の方向性や維持管理の方法などを意見交換する必要がある。

O 今回のような不測な事態に対して、森がどういう役割を果たしてくれるのか、再度検証しコンテンツやプログラムを充実していく必要がある。

普段使いの森づくり

森の学び舎プロジェクト実行委員会

今後 30 年間の整備スケジュール

(2019~2028)

＊右図のあるような林道、除間伐などの各ゾーンの基礎整備が完了し、人が入り心地よい森となっている。

＊整備にあたっては、参加型のワークショップを随時実施し、里山整備の知識や技術を学ぶ場として機能させる。

＊子どもの遊び場や周辺住民の憩いの場として、普段の暮らしの中で活用されるようにする。

(2029~2038)

＊基礎整備の効果として、植生が多様化している。

＊山林資源を活用するワークショップを実施し、山林資源活用の知識や技術を学ぶ場として機能させる。

＊この森で里山整備の知識や技術を学んだ人たちが、他の森で里山整備を展開するようになる。

＊引き続き、子どもの遊び場や周辺住民の憩いの場として、普段の暮らしの中で活用されている。

(2039~2048)

＊植生が多様化し、暮らしに活用できる森の恵みが豊かになっている。

＊この森で山林資源活用の知識や技術を学んだ人々が、日常的に森の恵みを暮らしに活用している。

＊この森で遊んでいた子供が大人となり、里山整備に携わっている。子どもを連れて森で遊んでいる。

【活動目的】

森の学び舎では、「普段使いの森」をコンセプトに、日ごろから森の中での入るひとときを楽しんだり、さまざまな森の資源を暮らしの中で活用できるような場所を築きたいという思いから発足。

「八百材舎」のメンバーを中心として、地域住民や学生を交えて篠山の森を森林資源として活用していくための活動基盤を作ることを目的とする。

【目標とする森林像】

「健全な森」や「理想的な森」について考え、知恵や技術を身につけ、実践していく人々を育成する場として篠山の森がその原点になれば良いと考えている。

森の学び舎がきっかけとなり森に対して関心が向き、賑わいのある快適な森を育むことを目指す。森林の維持管理を積極的に行うことで、森林の地力も再生し防災にも繋がると期待される。

３-５　ごんげん里山／バイオマスフォーラムたんば

（1）令和２年度里山づくり活動状況

・コロナ禍もあり、里山づくり計画についての協議が止まった状態である。

日　時	場　所	出席者（人数）	協議内容
2021 3 月 7 日 15：30～	氷上住民センター	理事長 アドバイザー	・今後の進め方 ・土地の登記の確認 ・ヒノキの間伐の確認
3 月 28 日 17:30～	山崎自宅	理事長	・鹿柵補修の打ち合わせ ・これからの整備計画 ・植栽計画

（2）ごんげん里山開放日

・日　時：毎週土曜日　10 時～14 時

・場　所：里山ごんげんさん

・出席者：NPO バイオマスフォーラム丹波メンバー、一般参加者　延べ名

・内　容：森のコンサート、クラフト、カフェ

・今後の予定、里山整備のヒアリング

（3）ごんげん里山 30 年後の森づくり指針

・現在利用している場所の拡張
・ヒノキの植栽の部分を広葉樹やあそびに利用できる明るい場所に転換
・果樹や遊びに利用できる木の植栽
・メンバーのチェーンソー講習の実施
・鹿柵の補強
・ヒノキの大径木については業者施業を検討

・植栽木

クリ　本年度５本植樹
タラヨウ　葉書の木
ウコギ　食
ケンポナシ　食
ムクロジ　羽根つきの実
ムク　ヤスリの葉
クロモジ　お茶
コナラ　椎茸原木
その他果樹　選定中

３-６　下三井庄地区

（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020 年 ４月２４日	区有林	自治会役員 林野委員 計１７名	・区有林境界巡視 ・道の整備 ・境界杭確認
9 月 12 日	岡田順一邸横山林	里山保全の会メンバー 5 名	・森林・山村多面的機能発揮対策事業の山林の作業計画と手入れ
9 月 17 日	風呂吹池	林野委員会役員 3 名	・雑木地域の施業方針及び山林日役での作業内容
9 月 17 日 ～	森林・山村多面的機能発揮対策事業	里山保全の会メンバー	・山菜等有用木のマーキング及び整備作業 毎月 2～3 回の実施
10 月 4 日	畑池	自治会委員・地域住民・遊びも学校参加者 約 80 名	・池の水を抜いての生態調査 ・池干し ・生態調査 ・外来魚除去

2020 年 11 月 11 日	協議会	林野委員会役員 里山保全の会役員 大路未来会議役員 丹波市農林職員 10 名	・今後の里山モデル地区の取り組みの確認 **・里山モデル地区の経緯** **・今後の活動の確認** **・自治会名での応募の見直し** **・下三井庄地区の名前を使う事**
11 月 14 日	子どもの森	里山育成研修会	**・里山の植生・遊び場所の整備**
11 月 15 日	子どもの森	大路未来会議メンバー　7 名	・ナラ枯れ木の撤去作業
12 月 6 日	地区共有林	山林地権者	・松の植樹・森林整備

＜定期活動＞

・期　間：９月１２日～３月７日　８時～１２時　毎月２～３回
・場　所：下三井庄森林・山村多面的機能発揮対策事業地
・出席者：里山保全の会めんばー　延べ５０名
・内　容：除間伐、薪づくり、安全講習

徐間伐（赤テープはコシアブラ）

薪づくり

安全講習

【里山育成研修会】

・里山育成研修講師
・日　時：11 月１４日　９時～１４時
・場　所：大路こどもの森
・出席者：スタッフ・講師・参加者　計２５名（下三井庄里山モデル地区メンバーを含む）
・内　容：こどもの森の場所、活動紹介
月１回の遊びの学校の実施
ツリーハウス、アースバッグ、遊具の紹介
林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受けている（間伐の実施）
・森整備の実例見学
ヒノキを伐採してギャップを作ったことにより様々な木が自生してきた
広葉樹の親木を残すことで実生が出てきている
ナラ枯れの発生について、
台風で倒れた木からのナメコの発生
＜整備活動＞
萌芽した常緑樹の除去
シダや多年生草本の除去

（2）30 年後の森づくり指針

・下三井庄林野委員会が行っている松茸山の再生は引き続き行う
ヘリコプターに寄る航空防除
兵庫元気松の植栽　山林日役にて
・森林経営計画の間伐終了地のギャップ等を利用して広葉樹林に導く施業の実施
残っている大径木の若返りを図る
コナラの苗を育て植樹を考える
ヒノキの植林地の伐期が近づいているので、その後の施業に繋げる
災害に強い山に誘導する
・里山保全の会が森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業で手入れしている森林について
山菜など徳用林産物などの樹木を意図的に残す
ウコギ科植物など
住民がゆたかさを感じられる山に導く
・大路未来会議が取り組んでいるこどもの森は少しずつヒノキを伐採した場所を広げ広葉樹中心の山にみちびく
現在ある広葉樹を親木としてのこす
広葉樹林化の実験場として植物の遷移などを見守る
こども達が森林に親しむ場所として整備する（里山保全の次世代を作る）
・里山づくり協議会を通じて、地域が一体となって里山づくりに取り組む意識を醸成する
・保全の計画書の作成に取り組む

4　拡大里山づくりアドバイザー会議報告

（1）拡大里山づくりアドバイザー会議とは

・丹波地域では「丹波の森構想」30 周年を契機に、身近な里山に目を向け、その価値を見直すことで美しい里山を次世代へと繋いでいくため、活動団体の皆様が森林整備に係わる問題や課題を整理し、里山づくり活動を息の長い取り組みとして行けるよう、里山づくりアドバイザー派遣などの支援*を行っている。

＊丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援事業

・「拡大里山づくりアドバイザー会議」は、通常はアドバイザー中心に開催しているが、このたびは活動団体の現状の問題や今後の課題等について話ししていただき、関係者との意見交換をしつつ、問題解決に向けた方向を探りたいとの趣旨で下記の通り開催した。

1）日時　　令和３年３月 19 日（金）　13：00～15：00
2）場所　　丹波の森公苑　２階　セミナー室
3）議題　　①活動団体代表者からの報告（各団体５分程度）
②現在抱える問題や今後の課題について
③里山づくりアドバイザーからの報告
④行政、木の駅プロジェクト代表を交えて意見交換

（2）当日会議次第

1　開　会
2　出席者紹介
・出席者名簿
3　ワークショップ
（1）拡大里山づくりアドバイザー会議の趣旨
（2）活動団体代表者からの報告
・活動状況
・活動推進における問題や今後の課題　など
（3）里山づくりアドバイザーからの報告
・活動現況
・里山づくり計画など
（4）意見交換会
4　閉　会

以上

（4）出席者名簿

1　里山づくり活動団体代表

氏　名	団　体　名	備　考
真鍋　宏行	生郷里山づくり懇話会	
伊藤　忠嘉	平松区森林愛好会	
黒田　拓治	北岡本自治会 30 年の森づくり協議会	
細見　勝	下三井庄地区里山づくり	
前川　哲和	里山ごんげん（バイオマスフォーラム丹波）	欠席
高橋　隆治	森の学び舎（バイオマス丹波篠山）	欠席
村上　芳功	ふるさと和田里山づくり協会	
明山　信弘	上板井自治会里山づくり	
酒井　克典	岩崎自治会里山づくり	欠席
井上　邦夫	八幡共有山組合	

2　里山づくりアドバイザー

氏　名	所　属	備　考
維田　浩之	森林インストラクター　丹波篠山市森づくり支援員	
内田　圭介	八百材舎木材コーディネーター　丹波の森研究所研究員	
宮川　五十雄	ＮＰＯ森の都研究所代表　丹波の森研究所研究員	
門上　幸子	森林インストラクター　丹波の森研究所研究員	
門上　保雄	森林インストラクター　丹波の森研究所主任研究員	
山崎　春人	森林インストラクター　関西学院大学講師	

3　木の駅プロジェクト

氏　名	所　属	備　考
髙橋　隆治	丹波篠山木の駅実行委員会　理事長	欠席
山内　一郎	丹波市木の駅実行委員会　委員長	

4　行政

氏　名	所　属	備　考
安井　直哉	丹波篠山市　森づくり課　係長	
荻野　翔太郎	丹波市　農林整備課　主事	

5　丹波の里山づくり促進実行委員会

氏　名	所　属	備　考
尾畑　俊彦	丹波農林振興事務所　森林課　課長補佐	
芦田　茂	公益財団法人兵庫丹波の森協会　常務	
大垣　至康	公益財団法人兵庫丹波の森協会　事務局長	
荻野　朋子	公益財団法人兵庫丹波の森協会　事務局	

拡大里山づくりアドバイザー会議　　議事録

・日　時：令和３年３月 19 日（金）　13：00～15：00
・場　所：丹波の森公苑　2 階　セミナー室
・出席者：尾畑俊彦（丹波農林振興事務所森林課）、安井直哉（丹波篠山市森づくり課）、荻野翔太郎（丹波市農林整備課）、芦田茂（兵庫丹波の森協会）、大垣至康（兵庫丹波の森協会）、荻野朋子（兵庫丹波の森協会）、門上保雄（丹波の森研究所）
維田浩之（里山アドバイザー）、内田圭介（里山アドバイザー）、宮川五十雄（里山アドバイザー）、門上幸子（里山アドバイザー）、（山崎春人里山アドバイザー）
真鍋宏行（生郷里山づくり懇話会）、伊藤忠嘉（平松区森林愛好会）、黒田拓治（北岡本自治会 30 年の森づくり協議会）、細見勝（下三井庄地区）、村上芳功（ふるさと和田里山づくり協会）、明山信弘（上板井自治会）、井上邦夫（八幡共有山組合）

司会（門上）：それでは会議を始めたいと思います。開会にあたりまして、本事業の全体を実施しております丹波の里山づくり促進実行委員会の丹波県民局丹波農林振興事務所の尾畑さんから、開会のあいさつをお願いします。

尾畑俊彦（丹波農林振興事務所）：皆さん、こんにちは。兵庫県丹波県民局丹波農林振興事務所森林課の尾畑と申します。皆さん、いつもお世話になって、ありがとうございます。本年度も皆さんにお世話になりまして、モデル地区ということで活動していただきまして、丹波地域の里山を守り育てて未来につなぐということで、一生懸命に活動されていることをお聞きしています。それからアドバイザーの皆さんもいろいろと活動にご協力をいただき、大変ありがとうございます。おかげで数年モデル団体ということで活動していただき経過していますが、ほかの団体さんも興味があるということで活動に参加していただいたり、研修会をやっていますが、そちらの方に参加して、こんな活動をされているところもあるだなあということで、いろいろと問合せも増えてきています。

森の瓦版で皆さんの活動をご紹介したりもしていますし、それから秋号を発行させていただいて、もうすぐ春号ということで森の瓦版を発行させていただいて、広報誌と一緒に全戸配布をします。そちらに各団体さんの紹介をさせてもらったり、木の駅プロジェクトの活動についても紹介をさせてもらったりということもしていますので、またいろいろとお問い合わせとか参加してみたいなというご相談がひょっとしたらあるかもしれないので、またご対応いただくということになると思います。

皆さんご承知のとおり、丹波地域の里山づくりというのは、森づくり宣言というのが３０年経ったということで、この先３０年どうするのかというところを考える中で、地域で活動されている皆さんをますます応援していただいて、ますます活動していただいて、山を良くするということと併せて地域の活性化、丹波の森というのをますます良いところに持っていこうと、活動に参加していただく方をますます増やしていこうという目的で、３０年間支援し続けるということで県民局の方も頑張っています。

皆さん、モデルとなる団体ということで１０団体お世話になっていまして、それぞれ特色のある活動をやっていただいています。これまで活動団体間での情報交換の場というのがなかなかとれていなかったということもあって、門上さんの方に今回集まっていただく段取りをしていただいて、皆さんからいろいろな意見をお聞きして、これからの県民局の事業に活かせていけたらなと思っています。いろいろな意見、それからお叱り等々をいただきながら持ち帰らせてもらって、県民局の中で検討させてもらうようにしたいと思います。今日は、よろしくお願いします。

司会（門上）：ありがとうございました。早速ですが、次第の２に移りたいと思います。今日皆さんのお手元に資料として４枚お配りをしています。次第と今日の出席者予定です。１０地区の場所、地図があります。それと案内のときに送らせていただいた開催のお知らせ文です。以上４枚、お手元にありますでしょうか。

では、出席者紹介とありますけれども、発言の前にお名前だけ言っていただいて、名簿と顔を確認しながらということでお願いしたいと思います。

それでは３番のワークショップ、本題に入ります。今、尾畑さんの方から説明がありましたが、丹波の里山づくり促進実行委員会というそもそもなんですが、出席者名簿の一番下の５番目のところに今日の実行委員会のメンバーを書いています。実行委員会は丹波県民局と丹波篠山市、丹波市、それから兵庫丹波の森協会の団体が共同で運営しています。中心は尾畑さんのところの農林振興事務所ということになります。今日、丹波の森研究所の方は協会の下にある研究機関ですので、本来ここへ入っていてもいいのですが、実は里山づくりアドバイザーもしておりますので、２のところに名前を入れています。そういう丹波地域における行政、協会というところで構成されていまして、丹波の森研究所は実行委員会からお話しを受けて、お手伝いをさせていただいているというところです。実は来年度も本事業というのは、そのまま継続されると聞いています。このアドバイザー会議というのは、もともとアドバイザーさんの間での意見交換というところです。４番の行政の部分ですが、本来５番に入ってもいいのですが、今日は各両市の農林担当部局という形で参加をいただいています。本来はアドバイザー会議の中で地域の各団体がどういうふうに思われているとか、あるいは課題があるとか、こんなことをしたいのだが支援事業はないのかという話があって、それだったらということでゲストスピーカーという形でアドバイザー会議の中に入っていただいて、地域の活動をされている皆さんからのご意見を伺いたいというところが今日の大きな趣旨です。行政の方に今初めていうのですが、丹波篠山市、丹波市と里山づくりの支援内容も違うわけですが、後ほど大まかな里山づくりに関する支援事業の概略とか、今話題の環境譲与税を活用した支援事業など話せる範囲でいいので、もし話をしていただけるのであればお願いしたいと思います。

では３の（２）になります。活動団体代表者からの報告ということで、今活動をされている中でどんなことをされているか、また今後活動を継続していく上で問題とか課題とかありましたらお話しをしていただきたいと思います。今日は人数がたくさん来ていただいていますので、申し訳ないですが時間は短めにお願いします。うまくいけば二巡したいと思いますので、よろしくお願いします。平松区森林愛好会の伊藤さんから、ご発言をお願いします。よろしくお願いします。

伊藤忠義（平松区森林愛好会）：紹介のありました平松区森林愛好会の伊藤です。よろしくお願いします。私たちの団体は平成２５年８月からスタートしました。足掛けもう８年になるのですが、かなり地域の平松自治会内の里山を中心に整備するということで毎年活動を続けています。とりわけ今日まで続けられてこれたというのは、国の森林山村多面的機能という補助金制度を平成２５年からスタートされたわけですが、これに地域の山も荒れているし何とかしたいなというようなことから立ち上がったのがスタートになっています。おかげさまでそういう補助制度を活用させてもらいながら続けてきていますので、今日までかなり成果を上げながらやってこれたのかなと思います。もう一つは補助制度の住民参画型補助事業を、これも一度受けさせていただいて、作業するための機械などを充足をさせていただいたというようなことで、非常に機器、装備とも充実し、会員も今１８名ほど活動をしています。

最初はおっかないというか、何もわからないから作業そのものもなかなか手に負えないよ

うな非常に苦労したこともあったのですが、今では自分のポジションというのか、動き方というのをそれぞれが身に着けて、今日こういうことをするよと言ったら、もう大体その段取りで動いてもらえて、非常に作業もスムーズに続けられています。今はもう結構ハードな方の仕事になってきて下刈りなどはもちろんですが、間伐やチッパーキーを使って、うっそうとした竹林を潰すなり、かなり専門的とは言いませんが、ハードな仕事に取り組んでいます。

だからどんなところでも整備が手掛けられるという状態にはなってきていますが、問題点ですが、うちは特に問題は抱えてはないのですが、とにかく自立的に物事は他所に頼らずにできるように力をつけようとうことを目標においてやっています。大体のことは委託するのではなくて、すべて自分のところでやりこなそうとしています。

問題としては、この活動を地域の自治会が中心になって、こういうこともできるようになんとかしたいなというのがあるのですが、なかなかそこが反り合わないというのが一番の問題です。本来やったら、もう自治会を中心に日役なりがあったのですが、それが現在はなくなってきて、若い世代になってきているので、本当を言ったら地域が全体でそれを盛り上げてやればいいのですが、何かにつけて我々の団体の方におんぶにだっこのような形になってきているので、そこをどういうタイミングで話したり、やってもらえる自治会が自立的にできるようにしてもらえるかというのが今のところ抱えている問題です。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：北岡本自治会の黒田です。お世話になります。平成２３年から自治会長をやったもので、地域の国道改修とか、それに伴う治山事業でダムづくりとかいうことになり、山にだんだん関わるようになってきました。そこで同意書を取って回ることを学びまして、山の整備計画を立てまして間伐を自治会と個人の山を合わせて７０ヘクタール間伐をしていただいて、そのあと平成２６年の豪雨災害を受けまして、山みがきパイロットモデル事業に応募して、それで自治会の山２ヘクタールを皆伐して、それは鹿にやられて即罹病になって、中が腐ってきたということでもう切って、植樹しようということで木を植えました。そのときに４００本ほど実のなる木やら根が食べられる木やら落葉する木やらを４００本ほど植樹をしました。そのあと間伐していただいたのはいいのですが、作業道があちこち崩れますし、倒木がいっぱいありますので、それをなんとかしようということで、地元の有志を募って、作業道がとれるように常に確保しようということで、そういう取組みを始めました。平成３１年に住民参画型の補助金をいただきまして、林内作業車とチッパーを買っていただき、山の中の材の引き出しをやりました。

昨年度は森林山村多面的事業の補助を受けまして、昨年度は１３．８ヘクタールの仕事をして、一つは独居老人の裏山に里道が通っているのですが、その里道が非常に狭いということで、その里道の改修を市にしてもらおうと思ったのですが、１メートルしか幅がないもので改修ができないと。工事代金ばかりすごくかかるので、森林山村多面的事業の補助金を使ってユンボとダンプを借りて、春と秋の約２ヶ月間かかって、約２５０メートルほど、幅１メートルの道を４メートルに拡幅して、作業ができるように行いました。それで建設業界の方に話をすると１，０００万円ぐらいの仕事をやったなあという話で、えらいようけ儲かったんということで昨年はそういう作業ができました。ユンボやらダンプやらを借りているので、木の搬出もダンプを使ってできましたし、去年は非常にらくに木の搬出ができました。木の駅の積算でいったら５００キロ相当出荷できたというような状況です。

去年はコロナウイルスが猛威をふるいましたので、室内の仕事はなかなかできないので、外で皆楽しくやろうということで皆交代で出まして、延べ人数で住民参画型の前年度の残りの伐倒作業と合わせて、大体３００数十人ぐらい出てくれたという状況です。暑い中、またコロナウイルスと闘いながらの一年間でしたが、皆楽しみながら作業ができたと喜んでいま

す。あと今年と来年と、今年が１１ヘクタール、来年は１５ヘクタールで作業したいと考えています。また植樹を合わせて今１３７０本ほど植樹ができたのですが、鹿の被害に遭って弱っております。ネットを外すと鹿がモミジなども皮をめくってしまうのですが、自力で修正して生きているみたいですが、どこまでもつかなと心配したりしているところです。

細見勝（下三井庄地区）：下三井庄地区の事務局らしきものをしております細見です。よろしくお願いします。うちの地区は下三井庄の林野委員会、いわゆる財産区、これは１００人ほど会員がいるのですが、地権者の会と、それから大路未来会議という、これは若手のボランティア団体と、それから下三井庄の里山保全の会、これが先ほどからお話に出ている森林山村多面的事業を中心に事業をやっている技術実働部隊、この３つの組織が一つのグループになって今回のモデルとなる里山づくりの活動をさせてもらっています。一番大きな林野委員会が持っています共有林、これを将来的にどのように活用、展開していくかというのが中心的なテーマです。わが村では、今も山林日役が年１回、一日、地権者による活動があります。大体出席者が７０人ぐらいあります。それと今現在は丹波市森林組合の経営計画によって間伐を展開していまして、令和３年度で一応大体終わるかなというところです。併せて丹波地区ですので県の方にもお世話になって、松林の航空防除も実施していただいています。

そういった形で針葉樹、あるいは広葉樹も含めて地域の山全体をどのように持続的に活用していくかという大きな中で、大路未来会議のメンバーは子どもたちを招いて、大路子どもの森という形で年間を通じて野遊び、今日うちの方のアドバイザーをしてもらっています。山﨑さん（里山アドバイザー）からもアドバイスを受けたりしながら、それぞれ皆が、こどもが大体１５人ぐらい、大人がそれの倍の３０人ぐらいの会員で年間を通じて月に１回の野遊びを中心とした事業を展開しています。それと里山保全の会は地域の山裾の危険木や雑木の整備をしながら、今はチェーンソーを使ったテクニックを向上させながら、森林整備に取り組んでいます。

そういった形で三者が日常的に協力ということではないですが、地域の中に存在する活動団体として将来に向けて整備をしています。時には、皆とワークショップを開いたりしながら森の味覚であるとか景観であるとか、そういったものをアドバイザーに指導していただきながら認識を高めています。

その中で問題点になってきているのが、自治会の日役のことも最近課題が出てきはじめました。というのは、やはり高齢化をしてきて後継者がいないということで各戸から人が出てくるのは、なかなか難しくなってきています。それと経営計画で今、里山の会が大きく展開はできないのですが、終われば人工林の育林であるとか間伐といったところを自分たちで手がけられないかなと。あるいは山の副産物、木の芽であるとか搬出した原木の活用、それから、これからは広葉樹林化についても、たとえばクルミとかコナラとか、そういった実のなるものを、今まではヒノキとかスギとかばかり手がけていたのですが、広葉樹林化をしながら、シイタケのホダ木であるとか炭焼きの原木であるとか、大路にも焼いている方がいらっしゃるので、そういったところに提供できるようにしたい。

あるいは北側には妙高山、市島の妙高山、神池寺、そういったものを抱えておりますので、そういったところへのルートも今回の経営計画の中で作業道ができました。それから子どもの森の方で森林山村多面的事業の当初は指導してくださる方の講師の謝金とか、お礼とかもできていたのですが、今はそういう制度もなくなっているので、森の整備だけになっています。将来の子どもたちにつなげるような、子どもたちとの交流ができたり、我々も学びの場であるような事業を支援してもらえる制度、例えば環境譲与税であるとか、そういう市町の施策の中で新たに展開をしてもらえると、もっと深みのある、そして幅広い世代の中で森を

通じて学べる場ができるのではないかということを思い、お願いをします。そういった形で三者が伴って年に数回の打ち合わせをしながら、将来の森づくりを検討しているところです。

井上邦夫（八幡共有林組合）：私は丹波篠山市大沢に所在する約８０ha の山を抱えている八幡共有林組合というところで代表をしています井上邦夫と申します。現在組合員は４９名ということで、ちょっと高齢化してきているということで人数も減ってきて、今の４９名の組合員で維持管理している状況です。昭和になって組織的に組合の組織を作りまして、整備をして、人工林の植栽から草刈りやら枝はつり等、組合員の労力で維持管理に努めてきました。その後、月日が経過して平成１２年に兵庫県の森と緑の公社のご協力によって中世の城跡めぐりと登山探索という意味から遊歩道を設置していただきました。それが現在にも続いて、一応その遊歩道を中心にして、その里山を守るという観光で続けています。それにプラスして間伐とかいろいろなことを展開していただいておりますので、今のところはなんとかいけていますが、最近の大型台風やゲリラ豪雨によって、木が倒れたりしていることがあり、遊歩道を通りにくいという問題があります。この遊歩道は最近ではＳＮＳで広がり、それによって篠山口駅から１０分のところにありますので、非常に登山客が多くなっています。その関係から事故があってはかなわないということで、組合員が中心になって倒木の伐採とかをやっています。これにつきましても今までは手作業でやっておりましたが、とてもじゃないけど手作業ではやりにくいということで、県や市の助成金の事業を受けまして、混交林整備事業、住民参画型整備事業、里山再生事業といろいろしていただきまして、その中でチェーンソーとかいろいろな機械の購入をさせていただきました。それによって、現在維持管理をしています。

問題は、里山を守っていくにも今のところ組合員が高齢化し、だんだんと組合員が減ってきているということから、県の方と相談をして今回の里山づくりという組織に参加させていただいて、県とか市のご協力を得て里山の維持管理をずっと続けていくような格好でご指導をいただいています。こちらにいらっしゃいます維田さんとかにいろいろご指導いただいて、作業にも、また総会等にも顔を出していただいて、ご指導をいただいています。

今は４９人なんですが、それ以外に３集落から成り立っていますので、そちらの住民も参画できる、一般の人まで参画できるような形で維持管理していきたいと考えています。だから組織の中にもＰＲ部隊を作って、子どもたちも一緒に登山等に利用しています。今もいいましたＳＮＳで大阪や神戸から来られる方も結構いらっしゃいますので、関東地区にあります高尾山ですか、それを目指して活性化した組織を作り上げたいと思っています。

明山信弘（上板井自治会）：丹波篠山市上板井の明山と申します。私どもは、今皆さんがご報告された内容とちょっと異なるのですが、自治会に隣接する約２５ha ほどの雑木林、昔はマツが多くて松茸も豊富に採れたというところです。今は固定資産税だけをたくさん払っているという負担になっているようなことです。

そこで丹波篠山市が赤松を復活させようという補助事業がありまして、そこに手を挙げて、わずか少ない面積ですがなんとかやってもようじゃないかと、５年ほど前から２ヶ所、手を挙げて使わせていただきました。ところがいろいろ講演を聞いてみますと、成果が出るのが７年先であったり、もっと先であったり、なかなか成果が目の黒い間に出ればいいかなというようなことになりました。

参加している仲間から、それだったら雑木林にたくさんある椎茸の原木を採取して、椎茸栽培をまずやってみようじゃないかというのがきっかけです。また丹波篠山市の支援を受けまして、里山彩園事業に一緒に参加させていただき、ご支援を受けて、チェーンソーや発電

機などいろいろ機械的な設備も調達することができました。

現在、椎茸の原木約８００本でシイタケ栽培をしています。ようやく昨年の秋から収穫ができるようになり、その収穫や販売等に振り回されているというのが現実です。ただ、ここに来ていただいています維田さんや尾畑さんにもご指導を受けて、問題点は、先行投資が多くて、なかなか出役する日当がなかなか出せない。令和２年度の出役が大体５００時間ぐらい、皆で出ています。出ていますが、まだ出役日当は払えていないのが現実です。椎茸が販売できて豊かになれば出役日当を出せるかなというような感じでいます。そういう意味で継続的にこれからも毎年少しずつ原木を採取しながら、里山を活用しながらやっていきたいと思っています。

問題は皆さんがおっしゃっていますように高齢化しています。わが自治会、４５戸ほどの自治会ですが、参加してくれるメンバーが男の人で１０人から１１人ほどです。若い人は仕事を持っているのでなかなか出てくれないし、退職した６５歳から８０歳まで位の方が出てやろうということで約１０人ほどになります。若い人が参加してもらえるように、もっと魅力あるものにするためにはどうしたらよいかというのが、これからの課題になろうかと思います。またシイタケ栽培だけではなくて、なんか人を引き寄せられるようなことを里山で作れないかなというのが課題だと思っています。しかし椎茸とか、そういう栽培で収穫が得られますと、皆の目の色が少しずつ変わってきまして、今は一生懸命やってくれています。

村上芳功（ふるさと和田里山づくり協会）：組織的には、私は村上芳功と申しまして、ふるさと和田里山づくり協会の会長を仰せつかっています。私たちの協会は昨年４月１日にキックオフをしまして活動を始めたばかりで、やっと１年が過ぎたという協会です。組織的には、ふるさと和田振興会で、学校区で言いますと和田地区の校区１つが振興会になっています。そこの会長から、こういう里山の整備をしていきたいということで役をやれということでございまして、受けさせていただき、活動をしています。

活動の目標として１年目は自治会組織の中ですので、たくさんあるのですが１６自治会がある中で財産区の委員さんとか自治会の委員さんを選抜して１５名で活動をしています。そして活動場所ですが、その１地区の自治会の登山の明石大橋が見える有名な山があるのですが、そこの整備、雑木の整備。それから神社仏閣（小新屋観音）の中に大きな巨木があるのですが、その木が倒れることによって、そういう建物を潰してしまうということがあり、そういう巨木の伐採をするということに一つの場所を選びました。岩尾城というのが校区にありまして、県の史跡になっていますが、ここの山が荒れていて、そこの整備をしようということで三つ目はやっています。これは県の史跡ですので市の文化財課の承認を得て、集って立ち合っていただきながら、伐採する木を設定してやっています。最後に学校の校山園というのが和田小学校の裏にありまして、その裏のところを子どもが遊んでいるのですが、学習できるようにしようということで、そこの整備を行おうと考えています。これはオオムラサキの蝶を飼うようなゲージがありますので、それを使おうとか。それから先ほどお話がありましたが、伐採するのに周りの木で椎茸の原木がありますので、伐採するのだったら、それで椎茸の原木を子どもたちと一緒に作ろうとか、そういう子どもたちと一緒にできるようなことをやろうというのが四つ目です。

この活動を１年の中で計画を立てて、3年かけて最後には完成させようとやってきました。まだ１年目です。出役についても木の伐採ということがあり、安全の問題からチェーンソーを購入するので講習会に木の駅プロジェクトにお世話になり、1年間で１５名受講しました。一応もう活動に入っています。ただ活動しましても経験が少ないものでチェーンソーは使うけれども、安全のことについては全然皆が知らないという状況で、講習会を現場で、山の上

でやりまして、その活動を指導いただきながら、この１年をやってきました。なんとか木が切れるようになってきたかな、段取りもよくなったなというのが現状です。そういうような形で今やっていますが、その活動の中でやっと２月頃ですか、ある委員の方から山の上に井戸があって、その井戸を清掃したいという話が出て、それもやろうということで一部の人数でやりました。それが県の史跡ですので、泥を全部あげると文化財課の方が全部の泥をチェックされます。そういうような形のものをやって、最後まで出なかったのですが、最後に木簡が出てきて新聞紙上を賑わしていますが、本来里山づくりということで山の方をやる予定だったのですが、たまたまそういうようなことがあって実施したところ、そういうことも含めて委員さん、会員さんの方からやる気を少し出していただき、少しずつですがこの１年でなんとかまとまってきたかなというレベルです。

あとは山の伐採がまだ３分の２ほど残っていますので、それを進めていきます。子どもたちと一緒に樹木の名前を書いた札をかけたり、子どもたちと一緒にできるようなものをしていきたいと思います。

最後になりますが、現在は地区を決めて３年計画でやっていますが、その後については各自治会で自分たちの自治会で山と住民の境の里山を整備したいとかいう意見も少し最近出てきましたので、その後は継続的に各自治会に持って帰っていただいて、活動ができればいいなと思っています。

２年目の令和３年度の目標の中に里山づくりという研修会をしたいと考えています。巨木を切ったり、あるいは里山の整備をしたり、そういうものができるように研修会をお世話になりながら開催したいと思っています。また活動は、まだ１年目なのですが少しやる気になりかけかなという感じで今進めています。特にコロナの関係で反省会ができなかったのが非常に残念ですが、進めていって、３年目には達成ができればというような形に持っていきたいと思っています。

真鍋宏行（生郷里山づくり懇話会）：生郷里山づくり懇話会代表の真鍋と申します。よろしくお願いします。活動をしています生郷地域というのは石生駅を中心とした自治会でありまして、本州一低い中央分水界があります。周辺の水分かれ公園とか、ヒカゲツツジの咲く向山等もある地域です。しかし残念なことに地域内の森林の手入れが行き届いていなくて２０１８年の豪雨の時に一部で土砂崩れ等が発生しました。このことから、やはり土砂災害の防止や森林整備などをなんとかやって、整備や保全等していかなければいけないということで、この生郷里山づくり懇話会というのが発足しました。

今年度は生郷自治振興会の方のまちづくり交付金を活用した事業といたしまして、リニューアルオープンします水分かれ資料館の裏の千代田池に沿った遊歩道の整備を行ってきました。それと同時に資機材の購入ということで住民参画型森林整備の申請をして、機材の購入等を行いました。次年度からは主に住民参画型森林整備としまして、東小学校の裏山とか水分れ公園の磯部神社の裏山周辺道の整備の活動を行っていく予定にしています。

司会（門上）：今日出席していただいた活動団体の代表さんのお話は以上です。上から５番目の里山ごんげんの前川さん、それから森の学び舎の高橋さん、岩崎自治会の酒井さんは今日は欠席です。地図にもありますが１０地区あります。名簿でいうと上から６つが１期で平成３１年からスタートをしています。下残り４つが令和元年から２期分でスタートをしています。ですので若干の１年のずれがありますが、皆さんご活躍をしていただいています。また後からご意見がありましたら、お伺いします。

司会（門上）：次は３の（３）の里山づくりアドバイザーからの報告ということで、個別地区とはお話をしていただいているとは思うのですが、どんなふうな関わりでやっているかというのを他の地区の方にも聞いていただきたいと思いますので、アドバイザーの維田さんからお願いします。

維田浩之（里山づくりアドバイザー）：里山づくりアドバイザーの名簿の一番上の維田です。私がアドバイザーに関わりましたのは令和元年の活動から関わっていますのでアドバイザーとしての関わりのお話をさせていただきます。まず私が担当しています箇所は、今日お見えになっております八幡共有山組合さんの活動と、それから上板井自治会里山づくりの活動と、岩崎自治会里山づくりの３箇所を担当していまして、せっかくですので今日欠席の岩崎自治会里山づくりのご紹介をしたいと思います。

岩崎自治会の方は自治会の集落の裏山１ヶ所が市の事業で広葉樹林化皆伐事業というのがあって、それに取り組んだ箇所があります。人工林にヒノキ林が伐採されたあとハゲ山になっているのですが、そこに自治会として植樹をされたりしています。その続きとして令和２年度にも皆伐事業がされまして、その隣がまたヒノキの山がなくなってハゲ山の状態になっているのですが、自治会としては、その後の山も広葉樹の山にもっていくような活動をしたいと考えておられますので、それをどういうふうにしていったらいいのかということをこれからお話させてもらったりしようと思っています。

昨年の８月に岩崎地区での活動をしようというメンバーが１０人弱集まりましてワークショップをさせていただきました。そのときに自分たちが子どものときに山でどんなことをしたかとか、そういうことを思い出してもらって、それをこれから先の地域の人たちに伝えていけるような活動にしていけたらいいんじゃないかということで話し合いをしたのですが、その後なかなか集まる機会がありませんでしたので、現場は山がどんどん伐採されているというのが進んでいるのですが、活動団体としての意思統一というか、こういうことをしようというところには、まだ至ってないので今年度はもうないんですが、３年度については、その辺のところを力を入れて関わっていきたいと考えています。

それから八幡共有林組合さんの皆さんとは昨年１１月ごろに山の整備活動にも参加をさせていただいて、どういうふうな形で取り組まれているのかなということを見させていただきました。そのあと八幡共有林組合の総会の席にも参加をして、これからどういうふうな森づくりをしていったらいいのかというようなことを、先ほどの岩崎自治会と同じような形で自分たちがかつてどういうふうに関わってきたのかということを思い返してもらいながら、これからどういうふうにしていくかということをこれあら進めていきたいと思っています。なかなか話をする機会がなくて、今日お話を聞いて、また組合員さん以外の人たちも交えて、子どもたちにも入ってもらえるような仕組みとかというのも、これまでの話の中でもしていたのですが、もう少し具体的にどうするかということを３年度は一緒に関わって進めさせていただきたいと思っていますので、また声をかけていただけたらと思います。

最後に上板井自治会里山づくりですが、椎茸づくりの方を最初に相談を受けまして、専門の機関を紹介して積極的にすごく取り組んでいただいています。この間、２月に山の整備活動に参加をさせていただきました。その中でいろいろと課題も見えてきましたので、これからの活動についてもいろいろとアドバイスできるようなことがあればいいかなと思います。

この１年やってみまして自分としての反省点としましては、もうちょっと連絡を密にできるような形を作っておけば良かったなと思いまして、こちらから言っていくのはなかなか押しつけがましいかなと思ったので、ぜひとも逆にどんどん声をかけていただくようにしていただけると私も動きやすいなと思いますので、よろしくお願いします。

内田圭介（里山づくりアドバイザー）：皆さん、こんにちは。里山づくりアドバイザーの内田と申します。私の担当は今日出席できなかったバイオマス丹波篠山さんがやられている森の学び舎というところの活動団体を支援させていただいています。これは皆さんの里山づくりに比べると、かなりお気楽な活動になってしまうのですが、場所が西谷運動公園といいまして市が所有している施設の中にある山林、これも若干２ヘクタールぐらいの大きさで実際に歩いて数分で尾根に着いてしまうという小さな山なのですが、その山を活用して２年前から主に神戸大学と淡路の景観園芸学校の学生さんを中心に地元の西谷の自治会長さんのサポートをいただきながら、荒れ地だった山を遊歩道とか、ちょっとした広場というのを整備しながらやってきました。どちらかというとハードなそういう施業の部分、間伐とか整備というのはＮＰＯのバイオマス丹波篠山の技術的な協力を入れながら、どちらかというと学生と実際に利用される方が阪神間とか三田、宝塚から来られる若い親子連れの方が結構多くいらっしゃいまして、その方たちと一緒に、ちょっとお手伝いをしながら、どちらかというとご飯を作ったり、火をおこしたり、かなり遊びながらの内容になっていますが、森の中で遊ぶってどういうことというところの一番基本的なところを活動として担っているのかなと考えています。私の役割としましては、どういったところに遊歩道を付けるべきかとか、どういったところに広場を作ったり、どういう植生を守っていくかというところをアドバイスしたり、あとはそういった技術的なハードな整備も含めてなんですが遊び方ですね。たとえば音楽会をしたいのだけど、こういう人はいないかとか、こういう生物生態の観察をしたいんだけど専門家はいないかとなったときに、そういった専門家の方をお招きして、実際にイベントとしてやっていただくということをサポートさせていただきました。

活動スパンですが､不定期ですが平均すると１ヶ月から２ヶ月に一度ぐらいのペースです。今年度はコロナ禍ということもあって、山林での活動ですのであまり人を呼びづらい状況の中で、オープン利用と言いますか、親子さんで自主的に使いたいという声があれば、もちろん実際に利用されるときは、メンバーの学生が見ている中で活動してもらうということをしています。今、実際にその学生さんが今年一斉に卒業ということでチリチリバラバラになってしまうのですが、今後はいつも参加してくださっている主婦のメンバーの方がいらっしゃるのですが、その方を中心に地元篠山で子育てとか、ＮＰＯの支援をしている住民の方とかと一緒に、引き続きバイオマスのサポートを受けながら活動を続けていくということになっています。

問題としては、参加者も増えて非常に使い勝手も良くなって、地元の方も遊び場として使われるようになったのですが、かまどとか作ってしまっているので火気使用のルールとかそういったところを今後考えていかないといけなくて、そこら辺を丹波篠山市の方とも詰めながら、もう一段階上の利用、楽しみ方というのを試行錯誤ですけれどもやっていければなと思っています。

宮川五十雄（里山づくりアドバイザー）：アドバイザーの宮川です。私はアドバイザーとしては生郷の方に入らせていただいているのですが、生郷と私の地元の両方で感じている課題みたいなものをお話しできればと思います。

生郷さんの方は立ち上げの時から比較的に一緒にさせていただいているのですが、参加者のほとんどの方が山仕事は初めてということで、まずは安全にいかにできるようになるかということで、先ほどから他の方々もおっしゃっていたように木の駅プロジェクトの講習会を受けながら、そのメンバーの方々の支援を受けながら木を切って運んで何かをするという技の方が、皆さん目覚ましくレベルアップをされたなと感じています。先ほど他の方々もおっしゃっていたように山はどう使いたいかというものと、それからどう整備できるかというと

ころがあって、力が足りなかったら森林組合の人に借りるというのも含めてですが、山をいじる目線と山を楽しむというか使う目線の両方を段階に合わせて、メンバーの方が順繰りにできて風景が変わっていく中で、技量を上げていくほど楽しいのですが、私の地元でもそうなのですが木を伐りだすと木の方の技量だけが上がっていきます。山はモニタリングというか、観察をして変化がどうあるか、あるいはそもそも切る前にどういうポテンシャルがあるのかというのを見極めるステップが必要だと思います。どうしても皆さんもお忙しいので、切る方を安全にやる方をまずやらないと森づくりは安全に進められないので、安全から入るのは良いのですが、どうしてもモニタリングとか、逆にコンテンツがいろいろ現れてくるのを見える目を持つという学習の方になかなか力を注げないというか、そういう補助金も特にないのでモニタリングの方に力を注げない。あるいは本当はだんだん参加者の皆さんの目が養われて、今年はスミレやタムシバが咲くのが早いねとか、こういうのが新しく咲いてきたねとか、もうちょっとこの辺を整備したら、こういう花が見られたり、こういう木の実がなったりするんじゃないの、みたいな話ができるグループになっていけるかどうかが、その先の大きなビジョンをいろんな方向性でつくれるかどうかに関わってくるかと思います。今のところ面積を稼ごうという話はスムーズに進むのですが、一ヶ所に限らず、それぞれに団体さんはそうだと思うのですが、楽しみ方の目をどんどん養うというのと両輪じゃないともったいないなというのがこのところ感じています。もちろんここには好きな方が参加されるので、どうしても作業の方にひっぱられる面が強いなと感じますので、これからの発展はそっちも両輪で動いたらいいなと感じています。

門上幸子（里山づくりアドバイザー）：私は平松区の森林愛好会のアドバイザーを担当しています門上幸子と申します。どうぞよろしくお願いします。本日の代表の伊藤さんは珍しく控えめですけれども、８年の実績が示すように里山でできる活動のすべてに手をつけておられて、私もアドバイザーとして行かせていただいてもアドバイスすることが何もないです。行かせていただくと皆さんすごく仲が良くて、和気あいあいと冗談を言い合いながら、本当に楽しく活動をされて、皆さんそれぞれ役割分担というか、皆さんは何か特技を持っておられて、いろんな竹林整備、森林整備、薪割りづくり、椎茸づくりと、ありとあらゆる森林での活動はされています。私もせっかくアドバイザーとして行かせていただいたので、何ができるだろうと考えた結果、先ほど内田さんとか宮川さんが言われたような、そういった視点でできることはないだろうかと思っています。仕事の中で計画づくりというのがありましたので、ワークショップで会員の皆さんから出た意見をきちっと書き留めて、そして図面におとして、皆さんが言ったこと、やりたいと思ったことを記録にとって、これを５年後、１０年後もまたこんなことを言ったんだなあという見直し、振り返りができるような図面づくりをしたりとか、あと里山に行って、いろいろ活動されている中で苔がすごくたくさん、いろんな種類があるのでアドバイザーの中にも植物にすごく詳しい方がおられますし、また県の森林組合連合会にも専門家とか、博物館にも専門家の先生がおられるので、そういった専門の先生を紹介することはできます。

伊藤さんが主に考えておられるのが、今後の活動として森林整備をするときの指導的な役割を担いたいとか、都市部との交流、産学交流なんかもやりたいということで、それで私の知っているネットワークの中で阪神間のそういった里山づくりに取り組んでいる団体につないだり、宍粟に森林大学校があるのですが、そこの学生のフィールドに平松区の里山を使って研修に来ていただくように話を持っていったりだとか、そういったことを役割として担いたいと思っています。

伊藤さんの方もバスツアーで明石の方の人たちを招いて、そういう植樹もやりたいという

ようないろんな計画をもう既に自立して、どんどん持っておられるので、私の方が特に何かをするということはないのですが、少しは使ってください。私の出番を用意してくださいということをお願いしたいと思います。

山崎春人（里山づくりアドバイザー）：山崎です。私のラウンドしているのは下三井庄地区の里山づくりです。細見さんのところは下三井庄地区里山づくりになっているのですが、実はもともとこれが下三井庄自治会という名前で出たのですが役員が変わって、いろいろありまして、地区という名前に変更をさせていただくような形で今進めていただいています。先ほどあったように３団体が一緒になって、この部分を担おうということになって、それぞれがそれぞれに活動している部分があるので、全体を見るというところが難しいところでもあって、自治会の山を管理している部分と先ほど言っていたように子どもたちの遊び場としてやっている部分と、多面的機能で里山の保全をやろうとしているグループとが一つになって、下三井庄全体の山をできれば考えたいということですが、それぞれがそれぞれで動いている部分があって、完全にはなかなか一致していかない部分がちょっとあるのかなと思っています。

少しややこしいのは、実はここの住民でもあり、その中でやっているものですから、逆にどこまでどうということが言いやすいような言いにくいようなという部分があって、ちょっと難しい問題をある意味では抱えているのかなと思っています。

実際に二つのグループについては、私もそのメンバーの一員でもあるので、一緒に活動しつつ、今里山らしさって何かということころで、できるだけいろんな使えるものって言ったらおかしいですけど山菜であったりとかも含めて、そんなものを大事にしながら全体像を見ていこうかなというようなことを今やっています。私は山に入ってはコシアブラとか、そういうものにテープを巻いています。放っておくとどんどん皆切ってしまいます。とりあえず邪魔やという感じになっているので、今そこをやることで、皆が自治会を含めて皆さんが山に向いてくれて、山は何か面白い、きれいし楽しいというふうになってくれたらいいなと思います。

子どもの森ということで大路未来会議というところがやっていますが、ここも後継者づくりが一つというふうに思って始まっているのですが、来るのは逆に他所の方から来るみたいな部分が多くて、本当の地元参加という数がちょっと少なくて嘆いているのです。もう一つ先を見て、今の若い人たちだけじゃなくて子どもが山ともうちょっと親しんでいくという部分をもっともっと作っておかないと、次の次ぐらいの世代になったときに山をちゃんと見てもらえるかどうかということがわからないので、３０年経ったら今の小学生は４０代に入っていくわけで、そこのときに誰かが山をちょっとやろうというふうに声をあげてもらえるような形をどうやって作るかということが一つの課題かなと思っています。

里山ごんげんですが、こちらの方もアドバイザーをやっていまして、こちらの方は当初の予定より山の面積というか、人工林の部分も含めてという話だったのが、今のごんげんさんという子どもの遊びの広場をやっている部分、その部分だけに限定された形になってきて、ここは鹿の被害が非常に大きいので、今とりあえず網の整理から始める形では言っているのですが、ここも人がいない。作業する人がいないというようなことで、実は人工林のときには、そこに入りたいと言っているグループがあったのですが、薪づくりをやりたいと言って応募してきたグループがいたのですが、人工林がエリアから外れたので、参加を引いてしまい、人がいない。

ここはＮＰＯバイオマスフォーラムたんばが活動団体なので、そこの理事の方とかがいらっしゃるのですが、そこは技術もないし、チェーンソー講習をやりましょうという話で持っていって、森がかなり暗くなっていて、さらに湿気で夏場はヒルだらけになっていたり、せ

っかく子どもが遊ぶのに大変ということもあって、その対策も含めて、今鹿対策で困っているというのが、里山ごんげんの現状となっています。

遊べる植物というか、いろいろなものがもうちょっとたくさんあったらいいなと思っていて、羽根つきの羽の実とか、あんなものがいっぱいいろんなところに生えてきているような山を何とか目指そうというところで、今植林も含めてやろうということになっています。一応その２ヶ所についてのアドバイザーに関しては、そんなところです。

門上保雄（里山づくりアドバイザー）：私も実はアドバイザーでして、先ほど説明をしていただきました北岡本自治会に行っています。北岡本自治会はもともと防災というか災害があったあと間伐しないと危険との形でスタートされたと聞いています。私としては里山づくりがまちづくりにつながっているというあたりは、私自身がまちづくりをやっている人間ですので、すごい興味を持って入らせていただきました。

作業は皆さん、土日こんなに作業をされているのかというぐらい集まっていただいてやっています。その中で大きな木を搬出していっているわけですが、搬出作業のときに黒田さんのお話しにもありましたが新しい機械を入れてということがあったので、ぜひ機械を使える専門家の方にも聞いてもらいましょうと言っていたらコロナの状況になって、なかなか集まって皆さんとお話をする機会がだんだん少なくなっています。森林作業について技術的にアドバイスできることはないのですが、後ろから「やりましょう、頑張りましょう」といって応援しているだけです。

あともう一つ、ふるさと和田里山づくり協会の方にもアドバイザーとして行っています。和田の方は１年遅れてということだったので、まずは皆で作業がどういう場所があって、どんな課題があって、どんなふうに進めていきましょうかということを皆さんと集まって話をする機会を何回かもちました。びっくりしたのは２０人ぐらいの皆さんが一堂に会して集まって、いろいろ意見を言っていただけるので、僕の方はもう必死で書き留めるという、そういう感じでした。本当に多くの皆さんが参加されて、そんな中で森林山村多面的の事業を受けることになり、積極的にチェーンソー講習会なども受けにいかれて、すごく積極的にやられています。アドバイザーとしては横で見ているだけの状況ですが、いろんなアイディアを出されて、そんな中で私が知っている情報の中から和田地区でやられている事業に合わせてお話ができればなと思っています。基本的に後ろの方で応援している状況です。そんな形で皆さんとお話をさせていただいています。

司会（門上）：以上で一回りいったと思うのですが、あとは名簿の中で木の駅プロジェクトという形でお名前をあげさせていただいています。ここにいらっしゃる方はほとんど木の駅プロジェクトのお話はご存じだと思いますが、今日丹波篠山市の木の駅プロジェクトの方はお休みなのですが、丹波市の木の駅プロジェクトの委員長の山内さんに来ていただいていますので、木の駅プロジェクトの取り組み内容をご説明いただければと思います。

山内一郎（丹波市木の駅実行委員会委員長）：丹波市の木の駅プロジェクト実行委員会の山内と申します。この中にかなり木の駅に出荷していただいたところもあるので、みなさんご存じの方もあると思うのですが、まだご存じない方もあるかもしれませんので説明をさせていただきます。

木の駅プロジェクトというのは民間主導型で全国的に拡がった活動で、地域の山を自分たちで整備しようと。皆さんと同じような活動です。ただ切った材、木を地域通貨で買い取って、地域のお金も回していこうというのがそもそもの趣旨です。

丹波市の場合は、１トンを６，６００円で現在買い取って、丹波市の場合は丹波市共通商品券、ちーたん券で現在全額買い取るようにしています。そのうち丹波市の市役所の方から３，０００円を補助でもらって、それをメンバーで薪にして、丹波市は薪ストーブの補助金も出ていますので、そういった方とか、従来から薪ストーブを使っておられる方に薪で販売をして、それで丹波市で出た材を薪で使うことによって、地域でお金を回していく。それから石油を使ったエネルギー消費から自然の再生エネルギーへ転換していこうという、そういう施策を担って立ち上がった団体です。基本的にはボランティアで全部やっているのですが、最低限の有償ボランティアというような日当も出るような形でお金が回ったらいいなと今進めています。

それから、この中にもたくさん受講していただいた方もいらっしゃるのですが、そもそも立ち上がったときにやはり山のチェーンソーというのは非常に事故率が高い危険な作業なので、安全講習ということでチェーンソー講習も当初はグリーンパートナーの方でやっていたのですが、現在は木の駅プロジェクト実行委員会の方でチェーンソー講習を実施しています。木の買い取りと安全講習という二本の柱でやっておりまして、今年で６年目ぐらいになっています。実際に今年どれぐらいの材が出たかというと、２月末で丹波市内で１１０トンぐらいの材が出て買い取っています。

ただ問題というのは、非常に皆様方のような団体で山を整備されるところが最近増えてきて、出荷がすごく増えて、それに追いつくだけの薪の需要が現在のところ３０トンぐらいしか売れていないので、薪にして乾燥させるというような状態で、一気に出されると薪にするのも追いついていないという状態です。もし皆様方、丹波市内の方は特に出荷するだけではなくて薪づくりというのもやっておりますので、そういうところにも参加いただけたらと思います。あと従来からの地域おこし協力隊が関わってもらっていたのですが、そのあたりが地域おこし協力隊の任期が終わって、もう次の採用がなかなか難しいような状態なので、その辺の組織の運営をどうするかというのが課題になっています。問題としては材の買い取りのボリュームのアンバランスと組織が運営をどのようにしていくのかというところが現在の課題ですが、そのあたりは皆で知恵を出し合って、なんとか皆さんが山を整備して出された材を買い取って、地域で薪として回していきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

山崎春人（里山アドバイザー）：一ついいですか。私の方は、たまたまグリーンパートナーの方で木の駅プロジェクトから依頼をいただいてチェーンソー講習の講師を派遣している立場にあります。私も講師として、いろんなところに行かせていただいていて、顔見知りばっかりみたいになっていて、すごいうれしいのですが、今チェーンソー講習に県から補助を出していただいていることもあって、かなりの人たちが受けていただいています。

安全に作業できることが一番大事で、そこでまた何かあるとそういう木を切るということが止まってしまう、あるいは森整備そのものが止まってしまう部分がきっとあると思うので、このチェーンソー講習みたいなものを通して広がっている部分というのがかなりあると思います。ぜひぜひこのことをもうちょっと継続的にやって広げていけたらなと。そのことによって木の駅プロジェクトもそうですし、いろんなところにその波及効果が実は今でている感じがあるので、この辺を止めないでうまく回していけば、自治会もそうですがいろんなところがいろんなところで手を挙げて、自治会単位でチェーンソー講習を受けていただいているようなこともいっぱいあります。そのことだけ一言付け加えておきたいなと思います。よろしくお願いします。

司会（門上）：せっかく来ていただいています行政の方にも各市の取り組み状況をお話ししていただければと思います。最初にふりましたけれども、里山づくり、いろんな農林関係の取り組みがされていると思うのですが、里山づくりに関わるところとか、環境譲与税を使って新たな取り組みをやられていると、先ほど広葉樹林化の話もありましたが、もしそんな話がお話しできるようでしたら、お願いしたいと思います。丹波篠山市の安井さんの方からお願いできますか。

安井直哉（丹波篠山市森づくり課係長）：丹波篠山市森づくり課の安井です。丹波篠山市は山に囲まれたまちですので、森林面積が８５％ほどあります。そのうち人工林がそんなに多くなくて６：４か、天然林の方が多い山です。したがって林業がそんなに盛んではなくて、これから今まで皆が山に入らなくなって茂り過ぎた二次林とか、人工林のところもうっそうとしてきて整備をしていかなければいけない中で、森林組合さんとか森林事業体の方がされているところはもちろんあって頑張っていただいています。

そうじゃないところについては住民の皆さんに頑張っていただこうということで、そういう取組みを最近はしています。森づくり構想というものを作りまして、それに基づいて進めているのですが、住民の皆さんにチェーンソーに必要な技術とかを身につけていただくために里山スクールをいうのを平成２２年から開催していまして、今年度も県民局さんの補助金をお借りして山崎さんにお世話になりました。グリーンパートナーさんにお世話になって、今回はコロナで少なかったのですが１０名の方にご参加いただきまして、山の整備に取り組んでいただくような技術を身につけていただきました。

あと里山彩園という事業をしていまして、これは明山さんにもお世話になっていますし、井上さんにもしていただいていますが、また岩崎の方も今後させていただきたいと思っています。里山彩園事業も住民の皆さんが活動されるのに必要な資機材とか、整備費等に３年間で上限１００万円という形で補助をしている制度があります。そういったものを使っていただいています。

それと木の駅プロジェクトの方で言いますと丹波市さんの方でもありましたように買い取り支援というようなことで木の駅プロジェクト実行委員会さんが買い取られた間伐材に対して半分を支援するというような制度もあります。ただ私どもの、今日木の駅プロジェクトの理事長はいらっしゃいませんが間伐材が減っているのではないかと思いますので、てこ入れが必要かなと思っています。これも制度もありますし、人も里山スクールの方で育成をしているというようなところで、どうやってまわしていくかというところだと思いますので、連携をしながら市としても木の駅プロジェクトをもっと進められるような取組みを令和３年度もしていけたらなと思っています。

あと丹波篠山市は松茸が有名ですので、松林の復活大作戦ということで松林の整備に取り組まれる方や団体には上限２０万円の補助をしています。最後に令和３年度は、そういう住民主体の森林整備をもっと取り組むために、兵庫県さんのもっておられる県有環境林の小多田特定用水というところがあるのですが、そこを活用して住民の皆さんと協力をして、いい山とは何かとはわからないのですが、豊かな森づくりということでどういう山がいい山なのかというようなことも含めて、実際に皆さんと一緒に山を切ってみて篠山らしい山づくりに取り組んでいきたいと思っていますので、またいろいろとご支援をいただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

そのほか広葉樹林の皆伐事業というのをやっていまして、山を一回切ってしまって広葉樹林に戻そうという取組みをしています。これも切ってしまうだけになっているという課題もありますので、よりよい方法で広葉樹林化をするような施策に令和３年度に向けて頑張って

いきたいと思っています。

荻野翔太郎（丹波市農林整備課主事）：丹波市農林整備課の荻野です。里山づくりについてですが、現在担当している職員が本日は欠席で私の方が参加させてもらっていますが、今皆さんの活動団体の方々から聞かせていただいた問題点や課題というところを係の方に持ち帰って、こういった問題がある中で何か支援ができるようなことがないかということで、係の方で話をさせていただいたりして、これからも活動団体の方々へ支援ができるように協力をさせていただきたいと思います。

尾畑俊彦（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）：農林事務所の方からですが、まず実行委員会の担当の立場として皆さんのご意見やお話をお聞かせいただきましたが、山崎アドバイザーさんの方からお話がありましたチェーンソー講習会、まず里山づくり促進事業実行委員会でまずやっていこうという最初の発端なんですが、丹波篠山市と丹波市の両方に木の駅実行委員会があって、受け入れ先はあると。そこへ木をどんどん持って出てもらって、お金が回るようにというところをどう刺激すればいいのかなということで、まずチェーンソーを安全に使っていただく方をたくさん増やそうと。木を出してもらったらいいんじゃないかということで、この事業の一番最初のアイディアというか発端がチェーンソー講習会を支援して、参加する人を支援してチェーンソーを安全に使える人を増やそう。そして木の駅に木をどんどん出してもらおうと。それが里山の整備の促進につながるんだというところから始まっています。今アドバイザーさんからお話がありましたけれども、チェーンソー講習会の支援というのは、主な柱の一つなので、積極的に支援していきたいと考えています。

それからもう一つ、３０年間支援していこうというときに、予算的な部分というのが非常に県民局は先行きが不透明というのがいつもついてまわります。いろんな地域おこしの応援とか助成というのは３年間でこれだけの補助をしますよみたいなものは、今までたくさんやってきているのですが、それが終わって３年終わりました。お疲れさまでした。これからはみなさん頑張ってくださいといったときに、そこでプツッと終わってしまうというのがよく今までありました。

この実行委員会の事業としては、こんな機械を買うのにこんな補助をしますよみたいなのは、あまりこのメニューとしてやっていない。あえてやっていないところがありまして、森林山村多面的とか県の補助の住民参画型とか、そういういろいろなメニューがあるので、どしどしそれに手を挙げてくださいねということで、このモデル団体の皆さんは自発的に「そうしたらこの事業を取り組もう」ということで手を挙げてもらうという思いがあります。

今日お話を聞いていると森林山村多面的とか住民参画型の補助事業、それから丹波篠山市さんの市の補助事業とかを７つお話を聞いた７つともが取り組まれていまして、担当としてはしめしめというところがあります。県民局は旗だけ振っていると、実行委員会としては旗だけ振って、アドバイザーの皆さんによろしくねということで、そちらの方にお金を出しています。言い方はちょっと下品なんですが、他人のふんどしで相撲をとっているというような実行委員会としては非常に思うつぼにいっているなというところがあります。今まで継続されている事業は今後もやっていきたいなというところがあるのと、それからこれは担当個人の話にいってしまうかもしれませんが、森林の整備に関わる、里山づくりに関わるというのがどうしても山を整備する、木を切ってちょっと明るくしよう、こざっぱりなった方がきれいだよねというようなイメージがやっぱり先行してしまう。木を切るというと、これにどうしてもフォーカスがいきがちなんですが、木を切るのは楽しいのでついつい切り過ぎになったりということで、なんか殺風景になっちゃったなあとかいうイメージ陥りがちです。

山に関わるというのは、そういうことだけじゃなくて、こんな植生が今までなかったのに出てきたよねとか、こんな鳥の鳴き声を聞いたことがなかったのに鳥が来るようになったねとか、昆虫が増えたよねとか、そういうふと気が付かなかったことに目がいくというような活動というのも、この里山づくりの大事な部分かなというのが個人的に担当をさせてもらって思っています。今日、内田さん来ていただいてるんですが里山育成研修会というのをやっていまして、そちらの方では森林を整備するというところではない部分、里山の中でどういうふうに活動をして遊びという部分もありますし、山菜にはこんなものがあるよねとかいうような今まで気が付いていなかったところをクローズアップしていくというようなもの。それから木を切って市場に出すとか、木を切って木の駅に出して薪にするとか、今まである普通の木の環境といいますか、そういうところではない別の山の活用、それから木の活用というのをこれからいろんなバリエーションにとんだ、こんなこともできるんだというようなことも実行委員会の方から発信、研修会とかを使って発信できればいいなと思います。今、内田さんの方がいろいろとされているものをこちらも研究させてもらって、新しい木の利用というのは研修会でさせてもらっています。モデル団体の皆さんも無料ですし、研修会にどしどし参加していただいて、皆さんの活動に使っていっていただいたらいいなと考えています。研修会の方も引き続き来年もいろいろなメニューを揃えてやっていけたらなと考えておりますので、モデル団体の皆さん方にもどんどん参加していただけたらと思っています。森林山村多面的は、どしどしやっていただいて、ぜひ活用していただいたらと思っています。

司会（門上）：ありがとうございます。残り時間も少ないのですが、再度活動団体の皆さんから、これだけは聞いておきたいなとか、発言がありましたら、どうでしょうか。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：市道とか県道とか横の方に行ったら流木、どうしても道路の方に傾いていきますので、そういうのを伐採する場合、一つは量がたくさんなりますので、木の駅にどんどん出したら消費できないんです。そういうところの木は短く切らなくても４メートルぐらいで出しますので、だからそれを出して林産センターに持って行っても補助金がつかないので、まるまる地元で出さんなんようなことになってくるので、そういうところの木を切ったら大体赤字になるんです。そやけどどこが切るんやという話になったら、なかなか切ってきれるところがないから、結局自分たちで切っていかんなということになってくるんですが、そこらへんのメニューを市の方で考えてもらうか、県民局の方で考えてもらうかしたら非常にありがたいと思ったりします。切ったあとには植樹をしなければいけないから、植樹のメニューもたくさん作ってもらったらありがたいと思います。それと山に木を植えるということ、落葉樹、腐葉土ができていくということは、川も育てるし、農業も育てるし、海も魚も育てるということになるので、今年の１１月１４日には市長に来てもらって植樹祭をやるのですが、今年は宮津の水産高校とか宮津や舞鶴の漁連とかに声をかけて、一緒にやらへんかと、今そういう取組みをしているところです。そういうようなことも支援していただくような方向もあればありがたいなと思ったりします。この支援の活用についても、これから起こり得る南海地震、これに備えて燃料に使っていくということにも活用できると思いますので、それにしていくにあたってのいいメニューがあればありがたいかなと思ったりします。

司会（門上）：ありがとうございました。市の方にも県民局の方にもそうなんですが、今の危険木の伐採とか、植樹の話とか、森林整備と直接関係ないのですが山に関連する取組みとか、その辺で僕が考えているのは環境譲与税のうまい使い道にならないかなと思うので、そのへん

もまた内部で検討していただければと思います。そのへんであれば、直接回答していただければいいですし、森研究所の方、もしくは尾畑さんの方で。できるだけ、せっかくできたネットワークをうまく活用しながらやりとりできたらなと思っています。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：もう一つよろしいか。再生可能エネルギーとして使いたいわけです。その必要性を行政の職員さんはしっかり踏まえておいてほしいと思います。市の職員さんも県の職員さんも精一杯知っていてもらって、大勢に宣伝してほしい。それで市は避難所になるところに薪ストーブを置いてほしいと思います。停電しても薪ストーブが使えるものを置いてほしい。また自治振興会の事務所とか。行政の施設で図書館とか、お年寄りが集まるところとか、また県の施設についても薪ストーブをどんどん使ってほしいと思います。そういうところが増えていかないと民間の個人の人が使うだけやから限界がありますし、チェーンソー講習会をやればやるほど出荷量が増えてきます。今でも木の駅実行委員会の方から、出しすぎやと怒られています。丹波市、いうたら兵庫県全体で消費を考えてもらわないと仕方がないと思っています。僕らが頑張って切りますので、是非とも消費してやってほしいと思います。

司会（門上）：ありがとうございます。今日、丹波市と丹波篠山市、丹波県民局の皆さんがここに参加していただいている裏の事情はわかっていただいかと思いますので、よろしくお願いします。他にありませんか。

伊藤忠嘉（平松区森林愛好会）：話をいろいろ聞かせていただいたんですが、私も勉強中で里山づくりいうのは３０年に向かってどういうふうに持っていくのかというのは一番大事なので、今ここのメンバー１０組来られていますが、ここの方の取り組みの部分はそれなりに形ができていっていると思います。だけど丹波地域全部を見た里山というものを見て、どういうように持っていくのかということを将来３０年という大きなビジョンを立てている限り、参加しているグループだけではなしに他にももっとどんどん増えてきて、そういう機会ができる雰囲気づくりを早く取り組んでいただけたらと思います。それのチャンスが森林譲与税ということで国民一人ひとりがお金を出している、この資金の活用の仕方次第だと思いますので、そのへんをいかに有効に使うかということ。それを私たち一緒にやっていたら切に感じます。自分たちの活動している部分だけがいくら良くなったって、結果たいしたことないんですよね。自己満足でしか終わらない。だけどそうではなしに、今問われているのは生物多様性の問題、環境の問題、いろんなこういう部分が我々の林務の中でどんどん侵されていっている時代なので、そういう短所長所から見た場合も山をどういうふうに維持管理していかんなんのやという部分で、特にそういう譲与税なんかをうまく一過性で終わらないように活動をしていただきたいなと思います。うちの会も森林の整備の方のハード的な仕事をかなりやっていまして、そういう生物をうまく資源の水やら植生をいかに生かしていくかということもにらみながら、僕らも取り組みはしています。そうした中でも実際に山というのは非常にありがたいもので、我々も自立するようにということは常々うちの会でも言ってるんですが、毎年薪を販売したりとか、いろんなチップを販売したりとか椎茸とか、いろんな取組みもしています。なかなか補助金というか後ろ盾がなかったら、どこの団体さんもなかなかできないと思うし、やっぱりお金の資金をいかにうまく回していくかということが大事やと思いますので、そのへんを行政も含めて丹波地域の中で里山の資源をうまく生かして、それをお金にして里山がうまく整備されていくんやという、こういうサイクルを里山づくりの中で組み立てていただいたら、もっともっと皆参加率も増えてくるのではないかな。もう年寄りばっか

りになってきて、だんだん尻すぼみになってきているということも聞きますので、行政も大変かと思いますけど、丹波地域はこのようにやっているという部分を他府県にも宣伝できるぐらいのことができたら非常にいいのではないかと思いますので、ぜひそのへんをアドバイスもお願いしたいと思います。

司会（門上）：ありがとうございます。このもともとの事業名が丹波地域のモデルとなる里山づくりですので、今、伊藤さんからもお話がありましたけれども、それぞれの地区だけの活動に終わらないというか、もっともっと広げていきたいというのはおっしゃるとおりだと思います。他にございませんか。

門上幸子（里山アドバイザー）：せっかくの機会ですので。丹波の森大学のポスターが玄関に貼ってありまして、９回の中の最後に黒田先生のレクチャーがございますよね。９回全部というと、この里山づくりに直接関係のないレクチャーもありますので、黒田先生がせっかくいらっしゃってくださるので、もしよかったら聴講ということでここにいるメンバーは聴講できるようにご配慮いただけたら、大変ありがたいなと思います。またご検討ください。

芦田常務（兵庫丹波の森協会）：黒田先生は私がお願いしたんですが、黒田先生は今、一生懸命に広葉樹、山の中にある針葉樹だけではなくて、広葉樹をどうしおり出していくかといったような取り組みを熱心に研究をされていますので、我々が見る山というのはスギ、ヒノキ。それは自然の森ではなくて、畑として木を植えて、同じ年齢の同じ木が全部の山に生えているという状態ですので、そうではなくて森の多様性をしっかりと守ったうえで、スギ、ヒノキだけではなく、広葉樹も用材として出していけるようなシステム、仕組みを考えておられます。そういうふうな話をしていただこうと思っていますので、また機会を考えてみます。

司会（門上）：ほか、よろしいでしょうか。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：木の駅プロジェクトに対する支援、これを考えてやってほしいと思います。来年が地域おこし協力隊がなしということになってきたら、山内さんがどうして始末しようか、閉鎖をどこでしようかという話になってくるので、なんとかいい方法を考えてやっていただいたらと思います。山内さんと相談してもらったらありがたいなと思います。

伊藤忠嘉（平松区森林愛好会）：木の駅プロジェクト、僕らも期待はしていたのですが、実際に組織の中で機能していないというのが少し気になって、そんなことやったら、もううちの会で木の駅に替わることをしよかというような話も出していたぐらいです。今ちょっと弱い話も聞いていますが、本来やったら、もっともっと先導して木の駅でやってもらわないといけないし、僕らも支援はしていきたいのですが、端的な話で薪やらを寸法どりで切って持っていっても、またそこで薪にして切ったりされているということで、本当に手間暇かかるだけで収益が上がらないような方向性かなと僕らも気になって、持ち込むこともなかなかできないし、ましてや山から切った木は３メートル、４メートルと大きいそのままで持ち出して処分していかないと、そこで玉切り、玉切りしてて、今度は持ち込んでから薪割りといったら非常に薪を作るのに時間がかかるというようなことになるので、今は生産と販売のバランスがうまくとれていないのかなという感じがします。以前も蓄積、蓄積になってしまったりするので、こんなもったいないことはないので、資源から出てきた産物はお金にしていったり活

用していくやり方を木の駅が中心となって、さあ持ってこいというような仕事の仕組みを作ってもらえたらいいと思います。今のままやったら、ダメやったら僕のとこに持ってきてもらったら木の駅に替わることを十分しますよと言いたいぐらい思いを持っていますので、これも木の駅いうたら全国でどことも活動してやっている話なので、丹波地域だけではないので、ぜひそのへんをもっと各グループが生産してやった分をもっとうまく流通して持ち込んでいけるようなやり方、一つは回収するような車でも買ってくれと担当者にも言ったことがあるんですが、持ってこい持ってこいではなくて集めて回るような、木の駅の方から出向いていくという姿勢も大事やろから、どこかで木は出してきてくれたら我々が回収して回るから、それを仕訳して薪なりチップなり、いろんな方向に変えていくから、自分たちはもう整備の方やとか自然や環境を守る方に地域のグループの方は専念してくれたらいいよというような方向性というのか、ぐらいのところまではやっていただきたいなと思います。うちも利用したいけれども利用できないです、実際。山で短く切って寸法どりして持っていくというような手間暇かけるいうのは大変なので、できたら我々が出してきた材も引き取ってもらえたらありがたいのですが、やむを得ずほかのところに販売せなあかんということになっています。そのへんは、ぜひ考えていただきたいなと思います。

司会（門上）：木の駅プロジェクトというのは、とてもいい仕組みであることは確かなんです。なかなか生産と販売のバランスという、そのへんは大きな課題があるかなと思います。

維田浩之（里山アドバイザー）：木の駅プロジェクトのことなんですが、たぶんご存じやと思いますが、木の駅の仕組みというのは本来もっと小さな単位でするというのが本来のローカルな形で、市域全体で一つの実行委員会というのがそもそも難しいことだと思います。とても皆が参加できる仕組みになっていないので、本当はローカルな各自治会単位であるとかで木の駅実行委員会が立ち上がって、今の木の駅実行委員会のやり方が木の駅実行委員会から木を買うという仕組みになっているのがそもそも間違いで、木の駅実行委員会は木を出す人たちを増やしていくという仕組みであって、それを買ってくれるのはどこか一つ、たとえば市場であるとか、薪を使う薪屋さんであるとか、そこに出しておけばそこで売れますよという形にしないと、実行委員会で木を出す人と売る人が一緒になっているというのがそもそも、もともと丹羽さんの普及されている型なんですが、そこはそういう仕組みじゃないよということは言われているので、同じ実行委員会の中で出す人、買う人というのが一緒になっているということが仕組みに矛盾があるのかなと思いますので、平松区の中での木の駅実行委員会、実行プロジェクトというのがあって、またさんだんの方でのプロジェクトがあったりだとか、それぞれの場所でプロジェクトがあって、そこで木が集まって、それを最終的に買ってくれるところが今言われたように集荷して買ってくれれば、それぞれにお金が落ちていくという仕組みになって、そんなにコストがかからない仕組みになるのかなと思います。市は実行委員会一つに補助をするような形になっているのですが、そこを見直していけばローカルな木の駅プロジェクトができるのかなと思いますので、そこは考えていただいたらと思います。

それともう１点、伊藤さんの方から言われていたモデル地区だけの里山が良くなるということではなくて、地域全体が良くなるためにはどうすればよいかという話があったんですが、私は丹波篠山市の方で森づくり支援員ということで里山スクールの方に関わらせていただきまして、そこにモデル地区とは違う自治会の人たちとか参加されていて、自分のところも山の整備をしようとしているんやというような話を聞くと、そういうところもお手伝いしたいなというような気持ちがあって、それはあんた勝手にやったらええやんと言われてしまえばそれだけのことなんですが、アドバイザーという立場でそれが新しい取り組みをしようとし

ているところに対しても関わっていけるようなことで実行委員会の方で認めてもらうというのか、そういうとこらへんを融通がきくようにしていただいたら、もっともっと違うところも、モデルとしてではないのですが、そういう活動を広げていくきっかけにはなるのかなと思うので、そちらの方もご検討いただけたらと思いました。

司会（門上）：ありがとうございました。里山の活動団体支援を今のところ手探りで始めてきたところで、これからどんなふうにしたらよいのかも今日いろいろお話を聞かせていただいたので、また県民局の方たちとか両市の方たちとも相談というか協議しながら、活動を支援するというのももちろんそうなんですが、支援する団体活動のが活発でなければ支援も何もないだろうというところはあります。他ありませんか。よろしいですか。

今日こういう会を持たせていただいて、僕自身としてはいろんなご意見が出て、行政の方にも意見が言えたという形で良かったなと思っています。そもそもこういう会を開きたいと思ったのは、皆さんのやりとりとアドバイザーの方で、たとえば山崎さんとか内田さんとかいうのは山遊びのエキスパートなんです。それから宮川さんとか山崎さんは植物に詳しいと。必ずしも今直接の個別の団体にアドバイザーという形で入っているのですが、ちょっと垣根を越えて、こっちのアドバイザーに来てくださいということもあればいいなと思っています。今後考えていきたいと思っていますので、アドバイザーの皆さんもよろしくお願いします。

予定の時間も過ぎましたので、これで終わりたいと思いますが、丹波の里山づくり促進実行委員会のメンバーでもあります丹波の森協会の常務の方から閉会のあいさつをしていただきたいと思います。

芦田茂（兵庫丹波の森協会常務理事）：皆さん、本日はお忙しいところご参集いただきまして、ありがとうございました。今日のお話を聞かせていただいて、皆さんの取り組みが少しでも丹波の地に広がっていくように取り組んでいきたいと思っています。私の大好きな歌で「ふるさと」という歌があります。ふるさとの歌詞をよく見てみますと、最初には「うさぎおいしかのやま　こぶなつりしかのかわ」とあります。そこには昔、我々の小さいときには子どもがいたんですね。誰が川から子どもを追い出したんでしょうか。誰が山から子どもを追い出したんでしょうか。私は高度経済成長とともに大人が危ないから、危険だから、けがをするからといって子どもを追い出していったのだと思います。そうなるとふるさとを想う子どもはいなくなると思います。だから、こうした里山づくりの取り組みの中でぜひとも明日を、地域を担う子どもたちを少しでも山や川に連れていくような取り組みに頑張っていただきたいと思います。我々ややもすると地域が高齢化して、うちの村もどんどん年寄りばかりになっていくと。若い者が帰ってきやへんやないかと。誰がそうしたんでしょうか。おそらく我々だと思います。地域を育て、ふるさとをつくるというのは我々の大きな課題だと思っていますので、山にもぜひとも子どもたちを行かせてあげてください。そして里山づくりが３０年後に大きく花開いて、また子どもたちの声が山からも川からも聞こえるようなふるさとにしたいと思っていますので、どうか皆さん、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

令和２年度

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務

（実施計画および中長期計画策定支援）

報　告　書

令和３年３月

公益財団法人 兵庫丹波の森協会
丹波の森研究所

目　次

１　業務の目的および内容…… １

２　アドバイザー派遣地区…… ３

３　里山づくりアドバイザー報告…… ６

3-1　ふるさと和田里山づくり協会…… ６
3-2　上板井自治会……11
3-3　八幡共有山組合……15
3-4　岩崎自治会……22

４　拡大里山づくりアドバイザー会議報告…… 29

1　業務の目的および内容

(1) 業務の目的

丹波地域の美しい里山を次の世代へと繋いでいくため、里山づくり活動団体が森林整備にかかる問題点や課題を整理し、里山づくり計画を策定し、地域に根ざした息の長い取り組みとなるよう支援体制を構築するための基礎資料を作成することを目的とする。

（２）業務内容

１）里山づくり協議会の設置

- 選定された下表の里山づくり活動団体（以下、活動団体）については、里山づくりアドバイザー（以下、アドバイザー）の支援を受けながら持続的に活動が可能な体制になるよう、各活動団体が運営する「里山づくり協議会（以下、協議会)」を設置する。
- 協議会を構成するメンバーは活動団体、アドバイザーのほか、（公財）兵庫丹波の森協会丹波の森研究所、活動地所在市（丹波篠山市、丹波市）の担当課、丹波農林振興事務所等とし、（公財）兵庫丹波の森協会（丹波の森研究所）はコーディネーターとして協議会への助言、支援を行う。

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体（令和元年度選定）

活 動 団 体	主な活動地域
① ふるさと和田里山づくり協会	丹波市山南町和田
② 上板井自治会	丹波篠山市上板井
③ 岩崎自治会	丹波篠山市岩崎
④ 八幡共有山組合	丹波篠山市大沢

２）里山づくりアドバイザー業務

① 「里山づくり３０年計画」の策定

前年度の基礎調査内容の再確認を行い、それに基づき「里山づくり３０年計画」を策定する。その計画に基づき、それを実現するための次年度以降のアクションプランを立てる。

「里山づくり３０年計画」とアクションプランの策定に当たっては、ワークショップ形式で策定作業を進め、参加者の意識共有ができるように支援するとともに、その内容を取りまとめる。

② 「里山づくり３０年計画」実現のための課題整理

協議会、現場活動等に参加して、活動における問題点（安全管理、必要機材や道具、人

材育成、地域連携等）を把握する。

令和元年度採択された４地区については、「里山づくり３０年計画」策定のためのワークショップを実施し、現況および課題の整理を行い、その内容を取りまとめる。

③ とりまとめ

年度末に、今年度の活動を振り返って、今後の中長期の活動計画について考えるワークショップ（拡大里山づくりアドバイザー会議）を開催し、その内容を取りまとめる。

２　アドバイザー派遣地区

（1）アドバイザー派遣地区の位置

(2) 里山づくり活動団体概要

・採択時のヒアリング内容を中心に里山づくり活動団体の概要を取りまとめた。

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点
ふるさと和田 里山づくり協会	村上　芳功 丹波市山南町 090-9048-4198	・岩尾城跡（石垣、堀、井戸など）、校山園（学校林）、小新屋観音、石金山（登山、瀬戸内海を眺望）、登山道や公園の清掃等の維持管理に取り組む。 ・森林の手入れ不足 【目指す里山づくり】 ①歴史愛好家や登山愛好家が訪れる観光拠点 ②遊べる森林環境 ③登山道の維持管理 ・組織づくり（新規に和田里山づくり協会を立ち上げ、財産区の振興会と自治会長等で構成） ・活動継続のための取組	多くの関係者の意向を取りまとめる能力が必要 協会設立後、主要メンバーからヒアリング実施し、支援していく。
上板井自治会	明山　重則 丹波篠山市 079-593-0460	・自治会有林（広葉樹、一部人工林）、11 月～3 月活動 ・里山彩園事業（市）：シイタケづくり、薪など 【目指す里山づくり】 ①木の駅プロジェクト活用：搬出方法、機材等が課題 ②危険木の伐採・除去 ③里山づくりを通したまちづくり、世代間交流、女性参画の推進 ・木の駅プロジェクト活用の実効性を高める ・女性の参加促進や楽しんで参加できる仕組みづくりなど	今後の活動内容の明確化とともに里山活動を通したまちづくりや女性参画の仕組みづくり支援が必要。
八幡共有山組合	井上　邦夫 丹波篠山市 079-594-1315	・登山、ハイキング客が多い ・手入れ不足による森林の防災機能の低下が危惧される ・補助事業（住民参画型森林整備）：作業道整備、間伐等 【目指す里山づくり】 ①安全で楽しめる森林環境の維持管理（林業作業道の補修管理） ②登山などの環境整備：休憩スポット等の整備など ・森林学習会などの開催・組合員（権利者）による活動組織の立上げ ・安全な散策道（作業道）の維持管理 ・地域住民等への開放：ハイキングや学習会の開催など	活動内容の明確化（年間活動計画の作成）の支援や安全対策の支援が必要。また、楽しい森づくりのノウハウを紹介など。

活動団体	代表者・連絡先	ヒアリング内容	考慮点
岩崎自治会	酒井　克典 丹波篠山市 079-594-1559	・手つかず状態、人工林が多い（40～50 年生） ・マツタケ山（少ないがある） ・その他は広葉落葉樹林 ・自治会として若い世代も巻き込んで活動したい。 【目指す里山づくり】 ①隣接する集落と連携した森林経営計画の推進 （宇土～岩崎～谷山） ②四季を感じる里山づくり ③自治会及び新居住者とともに活動組織を立ち上げ ・組活動組織の立上げ ・広く参加者を引き入れ、 活動を継続するための仕掛けづくり ・砂防ダム整備に合わせた周辺環境整備の推進	将来に向けて隣接集落の連続する人工林を対象として森林経営計画の支援が望まれる。そのための支援も必要。 まずは、活動組織づくりや地域での活動内容の明確化を支援。

３　アドバイザー報告

３−１　ふるさと和田里山づくり協会

（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者（人数）	協議内容
2020 年 4 月 1 日	和田地域づくりセンター	里山づくり事務局	森林・山村多面的機能発揮対策交付金活動計画書策定（令和 2〜4 年度） ・今年度より上記の活動を開始する ・今後、総会で活動計画・日程を調整する
7 月 11 日 19：30〜	和田地域づくりセンター	里山づくり委員 12 人 丹波市　1 人	・４地区（岩尾城跡、校山園、小新屋観音、石金山）の活動日程計画（1〜2 回／月） ・チェーンソー、ヘルメット、チャップスなどの森林整備用資材等、必要となるもの購入する ・チェーンソー講習を受ける
8 月 21 日	校山園 （和田小学校） 活動日	里山づくり委員	・昨年度の小学６年生による「自分たちが描くこれからの校山園」を受けた形で整備を進める ・ビオトープ池周辺、広場（記念碑周辺）の除伐
9 月 26 日	岩尾城跡 活動日	里山づくり委員 森林組合員	・岩尾城跡周辺および登山道周辺の雑木伐採 ・森林組合員の指導の下、作業実施
10 月 4 日	岩尾城跡 活動日	里山づくり委員	・岩尾城跡の境界整備作業 ・雑木伐採
10 月 17 日	岩尾城跡 活動日	里山づくり委員	・雨天のため中止
10 月 25 日	小新屋観音 活動日	里山づくり委員 小新屋自治会	・小新屋堂ヶ谷の境界整備作業 ・雑木伐採
11 月 7 日	小新屋観音 活動日	里山づくり委員 小新屋自治会	・小新屋堂ヶ谷の境界整備作業 ・雑木伐採
11 月 14 日	岩尾城跡 活動日	里山づくり委員	・石垣を見せるため周辺の雑木除伐 岩尾城跡石垣南側 登山道途中の井戸の調査
11 月 28 日	小新屋観音 活動日	里山づくり委員 小新屋自治会	・小新屋堂ヶ谷の間伐作業 ・雑木伐採

12 月 5 日	小新屋観音 活動日	里山づくり委員 小新屋自治会	・小新屋観音の境界整備作業
12 月 19 日	岩尾城跡 活動日	里山づくり委員	・岩尾城跡石垣周辺の景観阻害樹の除伐* ・岩尾城跡下の井戸調査
2021 2 月 20 日	岩尾城跡 活動日	里山づくり委員	・岩尾城跡石垣周辺の景観阻害樹の除伐 ・岩尾城跡下の井戸の泥上げ*

＊新聞記事参照

【新聞記事】

丹　波　新　聞　　2020年（令和2年）12月24日（木曜日）　第8071号

"知る人ぞ知る"戦国山城

山南・和田　岩尾城跡

地元が3年かけ整備へ

「見えやすく、登りやすく」

岩尾城跡の雑木伐採を行った「ふるさと和田里山づくり協会」のメンバーら＝山南町和田で

明智光秀の丹波攻めで落城し、豊臣秀吉の時代に再建された山南町和田の県史跡「岩尾城跡」で19日、地元住民らによる大掛かりな雑木伐採が行われた。野面積みの石垣がよく残り、"知る人ぞ知る"戦国山城だが、茂った木々で見通しが悪くなっていた。大河ドラマの放映を機に整備を進めようと、4月に「ふるさと和田里山づくり協会」を立ち上げており、3カ年計画で整備していく。（古西　純）

岩尾城跡は、蛇山山頂（358㍍）にあり、本丸跡には天守台や石垣などが現存する。戦国時代の山城と、改修後の近世的な城郭様式が両方見られるのが特徴。

井戸跡周辺で作業を行う参加者ら

19日の整備には、同協会のメンバーと、丹波市教委文化財課職員や、ボランティア有志ら計16人が参加。チェーンソーや鎌、のこぎりなどを手に、丸1日かけて頂上付近で木を伐採した。標高300㍍近くの登山道脇には、城で使われていた井戸跡があり、その周辺を広範囲に見通しよく伐採したほか、柵も新しくした。

同協会は、県の補助を受けて和田校区内4カ所で里山整備を進める。岩尾城では今後、頂上から東西南北の各方面が眺望できるようにするほか、より多くの集落から城跡が見えるようにする計画。

同協会の村上芳功会長（72）＝山南町小新屋＝は「城跡や、城跡からの景色を見えやすく、また登りやすくして、まずは住民の関心を高めたい」と話していた。

岩尾城　1516年（永正13）に和田日向守斉頼が築城し、1579年（天正7）に明智光秀の丹波攻めにより落城した。1586年（天正14）に佐野下総守栄有により再建されたが、1596年（慶長元）、豊臣秀吉の城取り壊しの命により廃城となった。

丹波新聞
1924年創刊
〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原201
丹波新聞社
TEL (0795) 72-0530㈹
FAX (0795) 72-1956
URL http://tanba.jp
E-mail tanba@tanba.jp
丹波篠山支局
〒669-2212
兵庫県丹波篠山市大沢2-6-3
TEL (079) 506-4338
FAX (079) 506-1612
毎週日曜日・木曜日発行
月ぎめ購読料1,255円(税込)

12月29日(火)・30日(水)
一蔵元直売会一
歳末報謝
ふくさけまつり
柵酒祭
時間 10時～15時
場所 西山酒造場
山田錦造元 ㈱西山酒造場
丹波市市島町中竹田1171
TEL(0795)86-0331㈹
http://www.tsuzumiya.com/

Twitter
随時更新中
フォローお願いします
アカウント名
@tanbanp

丹波新聞

1924年創刊

〒669-3309
兵庫県丹波市柏原町柏原201
丹波新聞社
TEL（0795）72-0530代
FAX（0795）72-1956
URL http://tanba.jp
E-mail tanba@tanba.jp

丹波篠山支局
〒669-2212
兵庫県丹波篠山市大沢2-6-3
TEL（079）506-4338
FAX（079）506-1612

毎週日曜日・木曜日発行
月ぎめ購読料1,255円(税込)

本日8ページ

5 丹波OB大学受講生募集〈広告〉
6 丹波市中学校選書会優秀作品
7 1月のベスト10
8 今週のテレビ番組

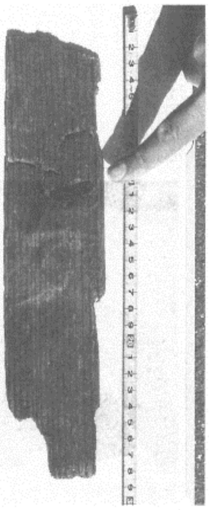
身近なニュース提供、購読の申し込み、広告のご用命など、お気軽にご連絡ください。

岩尾城跡井戸から木簡

「関心高まる」と期待

ふるさと和田里山づくり協　市教委「解析進める」

山南町和田の岩尾城跡を観光資源にしていこうと整備を進めている「ふるさと和田里山づくり協会」（村上芳功会長）が20日、同城跡の古井戸を掃除していたところ、井戸の底から木簡の一部分などの歴史的遺物を発見した。木簡には墨で書かれた「汀」もしくは「江」と読み取れる漢字が一文字、かろうじて残っている。「〝お宝〟発見時のもしもの際に」と、整備作業に付き添っていた丹波市教育委員会文化財課の考古学専門学芸員、西岡真理（まこと）さん（33）は、「地元の戦国史を解明する上で、貴重な史料となるかもしれない。他にも文字が書かれていそうなので解析を進めたい」と話している。（太治庄三）



岩尾城跡の井戸の最深部から見つかった木簡

同課によると、木簡の一部は長さ約30センチ、幅約6センチ、厚み約3ミリ。材はスギかヒノキとみられる。「汀」か「江」と読める漢字が一文字書かれているが、判然としない。

ほかにも、約8センチ四方（厚み約3センチ）で、一辺に山型の切り込みが入れられた木片と、ほぼ木簡と同サイズで中央付近に直径1ミリほどの穴が2つ開けられた木の加工品、瓦が見つかった。

井戸は天守台から50メートルほど直下の、標高300メートル付近の山腹にあり、往時のままの姿をとどめる山城の掘井戸は全国的にも珍しく、貴重な遺構とされている。大きさは約2メートル四方で、深さは7メートルと伝わる。岩肌がむき出しになった谷筋の傾斜部にあり、山側に水平に2メートルほど掘った後、地下に向けて垂直に掘り進めたもよう。今も深さ1メートルほどの水をたたえている。谷側に高さ約1メートルの石組みが残っており、その上面が登山道脇になっている。

集落から近いこともあり、同城跡一帯は昔、子どもたちの遊び場で、井戸もよく知られた存在。「近年になって転落防止の鉄格子が被せられたが、それまでは、地面にぽっかりと口を開けたままの状態だった」と地元住民。これまでに1度も調査された記録がないという。

↑井戸の堆積物を取り除く作業に精を出す、ふるさと和田里山づくり協会のメンバーら＝山南町和田で

地域のシンボルに　周囲の樹木伐採も

井戸の中には相当量の堆積物があると見込み、それを取り除くため、2月初旬から、井戸の上に3本の木で支柱を組み、バケツにロープを結わえ、滑車で引き揚げる装置を準備してきた。

20日には、同協会メンバー15人と協力者、市文化財課の職員ら計20人ほどが参加。

たまっていた水をポンプでくみ上げた後、はしごで堆積物がたっぷりとたまった井戸の底へ降り、バケツの中に落ち葉や腐葉土、岩塊や泥などを入れて、引き揚げては捨てる作業を繰り返した。

作業開始から約3時間後、深さ約3・5メートル地点で同城跡ゆかりのものと思われる瓦を発見。さらにその1時間半後、最深部の約4・5メートル付近から木簡や木の加工品が見つかった。

「木片が出てきた。文字が書いてあるぞ」。現場はにわかに湧き立った。

村上会長は、「木簡が出てきたのには驚いた。地域の方々の歴史的関心が高まることを期待したい」と話し、「城の石垣が傷むので、いっぺんに大勢の人に来て、とは言えないが、歴史好きや山城ファンが集う場所にしたい。子どもの学習資源として活用してもらいたいし、地域のシンボルとなるよう整備を進めていきたい」と力を込めた。

同協会は、今年度から3年計画で同城跡の整備を進めている。その第1弾として天守台の石垣が下界からでもよく見えるようにと、生い茂った雑木を切り払い、天守台に向かう道中にある井戸の掃除を行うことにした。

今後、井戸水を飲み水として活用できないか検討するほか、岩尾城跡までの登山ルートを新たに2ルート整備する計画。和田小学校裏からは、1時間ほどで登頂できる。

岩尾城跡　県指定文化財。和田小学校の裏山「蛇山」の山頂部（標高358メートル）にあり、和田日向守斉頼（ときより）が1516年に築城したと伝わる。明智光秀の丹波攻めにより1579年に落城。1586年に近江から佐野下総守栄有が入封し、城郭を改修。やがて豊臣秀吉の命により廃城となり、1596年に破却された。

【活動写真】

令和２年度活動計画（７月 14 日）

除伐後の城郭石垣

作業前の確認

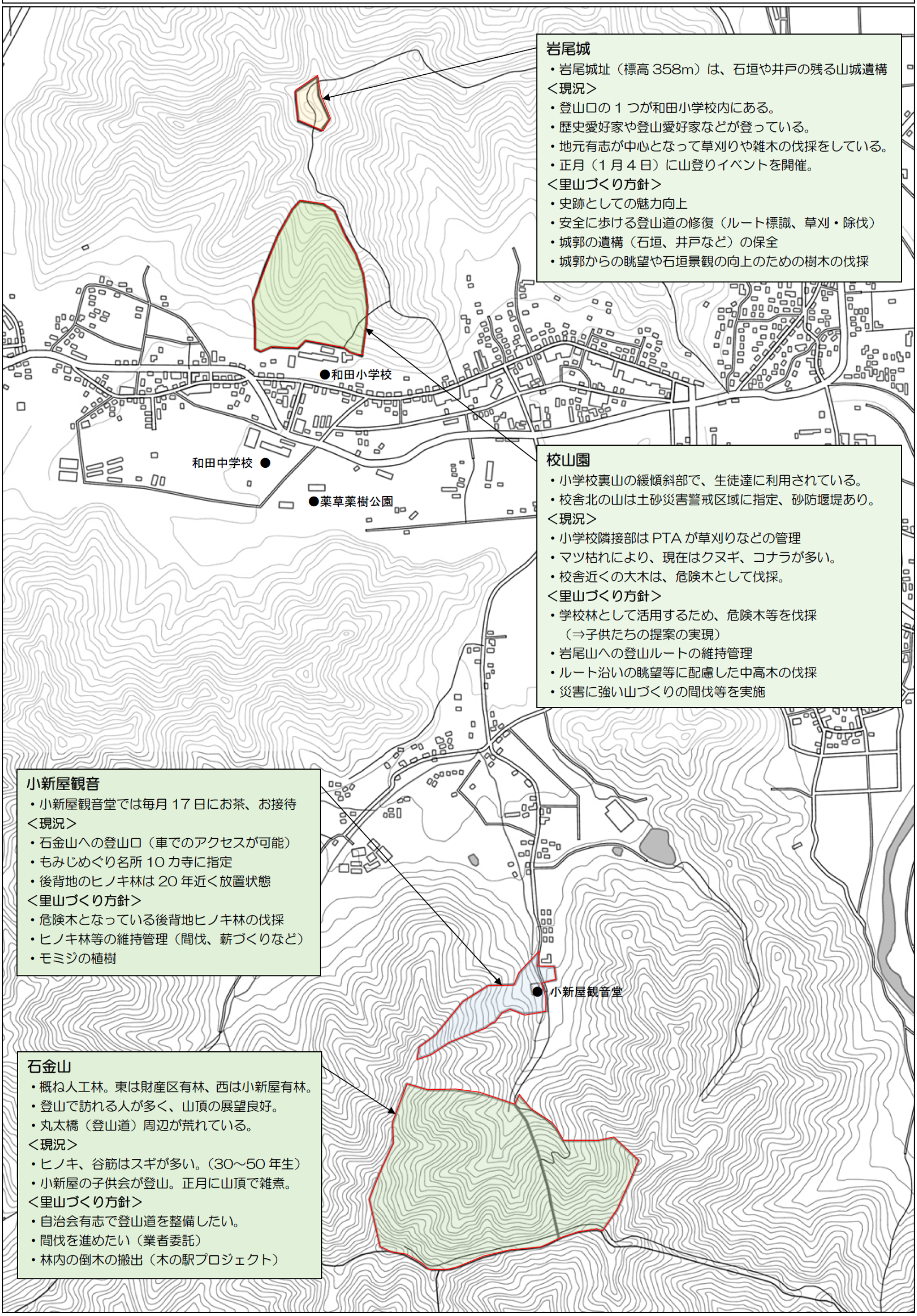
作業道具を持って現場に移動

井戸の泥上げ

井戸内部

ふるさと和田里山づくり計画

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援事業



岩尾城

・岩尾城址（標高 358m）は、石垣や井戸の残る山城遺構

＜現況＞

・登山口の１つが和田小学校内にある。
・歴史愛好家や登山愛好家などが登っている。
・地元有志が中心となって草刈りや雑木の伐採をしている。
・正月（１月４日）に山登りイベントを開催。

＜里山づくり方針＞

・史跡としての魅力向上
・安全に歩ける登山道の修復（ルート標識、草刈・除伐）
・城郭の遺構（石垣、井戸など）の保全
・城郭からの眺望や石垣景観の向上のための樹木の伐採

校山園

・小学校裏山の緩傾斜部で、生徒達に利用されている。
・校舎北の山は土砂災害警戒区域に指定、砂防堰堤あり。

＜現況＞

・小学校隣接部は PTA が草刈りなどの管理
・マツ枯れにより、現在はクヌギ、コナラが多い。
・校舎近くの大木は、危険木として伐採。

＜里山づくり方針＞

・学校林として活用するため、危険木等を伐採
（⇒子供たちの提案の実現）
・岩尾山への登山ルートの維持管理
・ルート沿いの眺望等に配慮した中高木の伐採
・災害に強い山づくりの間伐等を実施

小新屋観音

・小新屋観音堂では毎月 17 日にお茶、お接待

＜現況＞

・石金山への登山口（車でのアクセスが可能）
・もみじめぐり名所 10 カ寺に指定
・後背地のヒノキ林は 20 年近く放置状態

＜里山づくり方針＞

・危険木となっている後背地ヒノキ林の伐採
・ヒノキ林等の維持管理（間伐、薪づくりなど）
・モミジの植樹

石金山

・概ね人工林。東は財産区有林、西は小新屋有林。
・登山で訪れる人が多く、山頂の展望良好。
・丸太橋（登山道）周辺が荒れている。

＜現況＞

・ヒノキ、谷筋はスギが多い。（30～50 年生）
・小新屋の子供会が登山。正月に山頂で雑煮。

＜里山づくり方針＞

・自治会有志で登山道を整備したい。
・間伐を進めたい（業者委託）
・林内の倒木の搬出（木の駅プロジェクト）

３−８　上板井自治会

（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020 年 4 月 3 日	上板井地区 活動地現地	上板井自治会活動 メンバー6 人 アドバイザー 丹波農林	椎茸植菌作業参加　サル対策等今後の課題として相談受ける ※別添写真参照
11 月 ～12 月	上板井地区 活動地現地	上板井自治会活動 メンバー	椎茸の収穫作業
12 月～ 1 月 9 日 16 日	上板井地区 活動地現地	上板井自治会活動 メンバー	森林の整備作業　広葉樹等伐倒
2 月　日	上板井地区 活動地現地	上板井自治会活動 メンバー アドバイザー	日程が決まれば、作業状況確認と、作業についてのアドバイス、今後の活動の進め方について協議する予定
2 月 6 日	上板井地区 活動地現地	上板井自治会活動 メンバー アドバイザー	里山彩園事業で伐採した木の片付け整理 積み重なった伐倒木の枝払い、移動整理作業 シイタケ原木の準備 重なった木を整理する作業は非常に危険で重労働と感じた。 次回伐倒する際は、一度に伐らず、伐っては片付けという工程でするように要指導。 ※別添写真参照

【活動状況】

・４月３日（金）
シイタケ植菌作業
板井きのこ園と入り口に看板設置　シイタケ作りの意欲が見られる。

活動地入り口門扉

シイタケホダ場と整備対象森林入り口

シイタケホダ木の伏せ場

植菌　立てかけ作業

きのこセンターの紹介で、フジ蔓にはヒラタケの植菌

・令和３年２月６日（土）
シイタケホダ場の状況と森林整備作業の状況

R2 年４月　伐採前の山の状況

ホダ場への道は歩きやすく整備されている

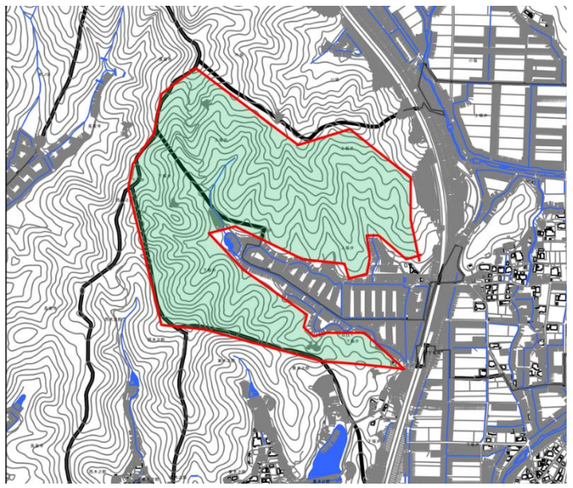
ホダ木は、雨よけシートがかけられ、周囲には獣害防止の電気柵が設置されている。

山の斜面の伐採前の状況（R2_4/6）

伐採後　伐倒木の片付け作業（R3_2/6）

丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・　丹波篠山市上板井自治会	活動員数	・　15 人
里山の所在地	・　丹波篠山市上板井・下板井　興法寺	面　　積	・　24.9ha
目指す里山のすがた	・丹波篠山市単独補助事業の里山彩園事業およびマツタケ林再生事業箇所を中心に地域の人たちが里山に目を向けてもらえるような、価値のある里山作り ・シイタケ生産に向けた里山作り		
活動継続のために考えていること	・里山整備活動に関わることで、いくらかの収益が得られる仕組みづくり（シイタケ生産、マツタケ発生林） ・活動を通じて、地域コミュニティを強めていくこと		
現在の取組	・５～６年前から、人農地プランの取組みで、草刈支援隊を結成し、耕作放棄地の草刈り作業を進めている。 ・その活動メンバーが中心となって、平成 30 年から、里山彩園事業で整備した森林からシイタケ原木を生産し、植菌を進めている。 ・発生ホダ木を地域住民に配布、発生シイタケの販売など、作りで参画者を増やしていく。 ・市主催の里山スクールでチェーンソー安全講習を受講しているメンバーもある。		
30 年後の里山づくりに向けた課題	・里山に関する知識が不足しているので、学習の場が必要 ・誰もが入りやすく、山の管理が出来るように、林内路網の整備が必要 ・木の駅プロジェクト活用を高めるための機材、技術の習得 ・地域活動として地域内の誰もが、この里山に関連した活動に取り組める仕組みづくり		

位置図	現況地形図
	

現況写真

昨年度の相談以降、ホダ場の整備が進められ、春には新たな原木に植菌作業を行う。

活動写真

シイタケの発生も見られ、品質向上と発生促進のため、雨よけシートをかけている。
秋に伐倒した木の片付け作業とホダ木の取り出し作業を行う。
チェーン祖作業についてのチャップス着用の指導をする。
伐採が終わってしまっていたので、残しておく木についての指導が出来なかったのが残念。
また、一度に伐倒していたので、片付け作業も足場が悪く、危険性が高く感じられたので、今後の作業指導については、アドバイスが必要。

ワークショップまとめ

現時点では、全体としてのワークショップは未実施

- 今回は作業に参加させてもらい、状況の把握に努めた。
- 現時点は、シイタケの発生が旺盛であり、収穫作業がメインとなっている。
- 課題としては、販売戦略と、販売による作業従事者への日当の捻出を考える。
- 今後、若い人の参加をどのように進めていくか？と併せて、引き続き、森林調査を行い、森づくりの見える化と、森林資源の活用方法についての提案などを通して、森づくり意識の共有が出来るように進めていく。

３−９　八幡共有山組合

（1）令和２年度里山づくり活動状況

日　時	場　所	出席者	協議内容
2020 年 4 月 9 日	現地　サギ山	八幡共有山組合 井上会長 小野田会計 市役所　樋上主事 維田アドバイザー	今後の取組み方について相談。補助事業の提案等を希望されるが、自分たちが何をしたいかが先であることを説明 現地状況確認。 整備の方向についてアドバイス
7 月 15 日	丹波篠山市役所	八幡共有山組合 井上会長 維田アドバイザー	会の活動の考え方、今後の取組み方について協議 秋頃に実施する活動の指導依頼あり。
10 月 8 日	杉公民館	八幡共有山組合 井上会長 小野田会計 市役所　樋上主事 維田アドバイザー	活動日の指導内容について打ち合わせ 共有山組合として考えている活動内容（全体構想）聴取 遊歩道の管理、整備　針広混交林植栽ゾーンの整備
10 月 24 日	八幡共有山針広混交林施工地	八幡共有山組合員 15 名 市役所　樋上主事 維田アドバイザー	針広混交林植栽ゾーンの整備について、除伐木の選木についてアドバイス 植栽ゾーンの将来にどのような植生にするのかを意識付け。
11 月 1 日	八幡共有山針広混交林施工地	八幡共有山組合員 12 名 市役所　樋上主事 維田アドバイザー	**針広混交林植栽ゾーンの整備について、除伐木の選木についてアドバイス 植栽ゾーンの将来にどのような植生にするのかを意識付け。**
11 月 24 日	八幡神社現地	八幡共有山組合 井上会長、小野田会計、市役所　樋上主事 維田アドバイザー	**12 月 13 日の進め方等についての打ち合わせ**
12 月 13 日	大沢ふれあいセンター	八幡共有山組合員 16 名 市役所　樋上主事 維田アドバイザー	丹波の里山づくり促進実行委員会作成活動地紹介 DVD 視聴 身近な森林について考えるワークショップ実施 身近な森の魅力再認識、課題の抽出
R3 2 月 26 日	丹波篠山市役所	八幡共有山組合 井上会長 維田アドバイザー	令和 3 年度活動について、4 月 18 日（日）役員会出席依頼あり R3 年度森林山村多面的交付金事業希望予定

（2）ワークショップ（令和２年 12 月 13 日(日)実施）

八幡共有山組合　未来に向けて森づくり活動について

＜実施内容＞

はじめに

私たちの身近にある森林は、先祖代々、建築資材、燃料等など、生活に欠かせない資源の宝庫であるとともに、緑があることで心の癒しを与えてくれる空間でもあります。

しかし、近年は、利用されなくなり、森林に立ち入ることもできない遠い存在になりつつありますが、組合の皆さんの毎年のご尽力により、大沢ロマンの森は人が入れる森として管理されていると思います。

これから先も、地域内外の住民の皆さんに親しめる魅力ある森づくりができるよう、共有山組合の皆様にも、どのような森にすれば良いか？イメージすることで、夢を持って、これからの作業に取り組むことができると思います。

今日は、そのイメージを皆さんと一緒に作っていきたいと思います。

今回（10 月 24 日　11 月 1 日）の作業

① 林内歩道、作業道整備・・歩きやすい道、障害物の除去、登山者の安全確保。

② 針葉樹林と広葉樹林の混交林整備事業地内の広葉樹林ゾーンの整備。

目標

どのような森にするのか？をイメージしましょう。

例：コバノミツバツツジ、ヤマザクラ、ヤマモミジ：花や紅葉

コシアブラ、タラ、タカノツメなど：新芽は山菜として利用

シバグリ、コナラ、クヌギ、アベマキ、カシ類：ドングリ楽しむ

どんな木があって、何を残して何を伐るのか？・・木の種類を知る！

現地を実際に見て

残念だったのが、事業地に植栽したサクラの多くが、シカの被害を受けて枯損していました。

楽しみなのが、キイチゴが、非常に繁茂していました。６月に実るので、また見に行きましょう！

６月ごろ実るモミジイチゴ？

〇丹波の里山づくり活動の事例紹介 DVD　鑑賞

〇まず、皆さんが管理している森林について、その区域を知ってもらいます。

空中写真、見取り図（小野田さん作）

〇ワークショップ　皆さんと一緒に森づくりについて、共有出来ることを見いだしていきま。

現地の森林整備活動に参加した、現地の状況

針葉樹と広葉樹の混交林整備事業地の広葉樹林管理

10 月 24 日(日)

八幡神社前集合　作業の目標、注意点等の説明

谷筋の広葉樹ゾーンは繁茂が進んでいる

11 月 1 日（日）

尾根付近は、シカ柵内に植生が見られるが、アカメガシワ、カラスザンショが占有

植栽木の多くは、シカの食害を受けて衰退

防護柵外は、裸地化している。

柵内の低木層に木イチゴ類が繁茂している。

【ワークショップ結果まとめ】

1　子供の時に森に入った記憶を呼び起こして、やったことを書き出しましょう。

仕事や作業で入った、遊んだなどの記憶

☆何のために森林（山）に行きましたか？　（37）

A:・遊びに行った４　ソリ遊び（谷すべり）４　登山（ハイキング、トレッキング）３
小屋（秘密基地）つくり４　虫捕り３　小鳥獲り２　ゴルフボール拾い１
キノコ、山菜、木の実採り（マツタケ６　アケビ１　ワラビ１　シバグリ１）
ウラジロ（サカキ）採り３　柴、薪取り４

①子供のころに森林に入って、良かったと思うこと（20）

A:・楽しかった（クワガタが沢山捕れた２　マツタケが沢山採れておいしかった５）
・遊び場があって、年代を超えて仲良くなれた。（大勢の友達と遊んで楽しかった）７
・心身のリフレッシュ１　爽快な気持ちになれた１
・家計の手助け（日常の燃料、農業資材の入手、腐葉土）４

②子供のころに森林に入って、嫌だったと思うこと（14）

A:・虫に刺された（ダニ、ハチ、カ）３　イバラに刺さった２　ウルシかぶれ１
・けが、捻挫など２　暗かった１　トイレがなく困った１
・鎌など落とし紛失して怒られた１　山を荒らした。と怒られた１
・小さな体に大きな荷物でしんどかった１　山登りが苦しかった１

〇子供の時の気持ちを整理しよう！

森林（山）に行った内容について 37 回答ありました。

マツタケの思い出が一番多く、６回答

次に遊びに行ったこととして、ソリすべり、小屋つくりなどの思い出で、それぞれ４回答

良かったこととしては 20 回答

先輩と仲良くなれたこと、年齢差のある大勢の友達と遊べたことが７回答

マツタケやクワガタが沢山とれて、うれしかった思い出も次いで多い

嫌だったことの回答数は 14 回答

楽しかったことに比べると少ない。とりわけ多数の人が、嫌だったと思う事例は少ない

昔の子供たちは、森林（山）が、遊び場の一つであり、幅広い年齢層で一緒になって山の中にある自然のものを利活用しながら楽しく遊んでいた傾向がうかがえる。

とりわけ、マツタケが採れて、楽しかった。食べておいしかった。という思い出が多い。

２　大人になった今、森林（山）対して思う気持ち

①森林（山）が良いと思うこと　（16 回答）

A:・サカキ、シキミなどが採れる４

・山菜、木の実が採れる（タケノコ２　クリ１　サンショ１　タラの芽１）５

・見晴らしが良い２　・空気がおいしい１　・爽快感がある１

・農業用資材（杭など）採取できる１

・里山作りの大切さを知ることができる１　・地域の人と懇意になる１

②今、森林（山）は、嫌だ。と思うこと。（19 回答）

A:・齢が行き足腰が痛い、つらい、しんどい等７

・ハチなどの虫に刺されるのが嫌３　・トイレが無いのが辛い２

・雑木も大きくなり境界も分かりにくく、管理が困難３

・シカ、イノシシに山が荒らされている２　山も木（スギ、ヒノキ）も売れない。２

〇大人になった今の気持ちを整理しよう！

・森林（山）について良いと思う回答 16 回答に対して、嫌だと思う回答は 19 回答となり、子供時代と逆転しました。

・良かったことの多くは、山菜や祀りごとに使う花木が採取できること等、生活と関わりのある要素が多い。他には、山からの見晴の良さ、空気の良さなど気持ち的な部分もある。

・また、森林（山）と関わりがあることから、里山の大切さを知る機会が持てたり、活動を通じて地域の人とコミュニティも図ることができる良さがある。

・嫌だと思うことについては、年齢的に体力低下とともに、山に上がるのが辛いと思う人が多い。

・他には、子供の時にもあったが、虫が嫌、トイレがないので困るなどもある。

・また、雑木が大きくなり管理が大変な上、境界も分かりにくくなってきている。

・さらに、シカやイノシシの獣害により山が荒れている。山も木も売れず、価値もない。

など、子供の時は森林（山）に対する思いや関わり方が変化してきている。

＜森林に対する思いを整理して良いところ、嫌なところが出てきました＞

３嫌だと思うことをよくするためには、どんなことをすれば良いか考えてみよう。（20 回答）

A:・林道（車道）の整備５　家族で楽しめる施設（公園、アスレチック、キャンプ場等）５

・広場、展望スペース２　紅葉の森づくり１　落葉、下草等の整備１

・シイタケ、マツタケ、山菜など山の産物の資産価値を見出す１

・木材の価値アップを期待１

・ゴルフ場１　・宅地１

４　森林が良くなるための方策を進めるたんに必要と思われることを出してみよう！（17 回答）

A:・国、県、市の助成（補助金、協力、指導）６　お金１

・マンパワーが必要、奉仕の精神、共同活動の推進、地区内の協力、都市からのボランティア、若い人、暇な人の協力等６　・収入が得られる仕組み１　・バンガローを作る１

・地元（自分たち）の提案と具体的計画２

・土砂崩れのない安全な場所にすること１

〇解決策が出てきました。（出ないかもしれない。）

５　一つの案として、歴史探訪の登山道整備とその周辺森林の整備がある。

（他にも新たな提案があるかもしれない）

６　今後の具体的な活動プランづくり

地図を見ながら、現地の状況を調べる。状況を書き込む。

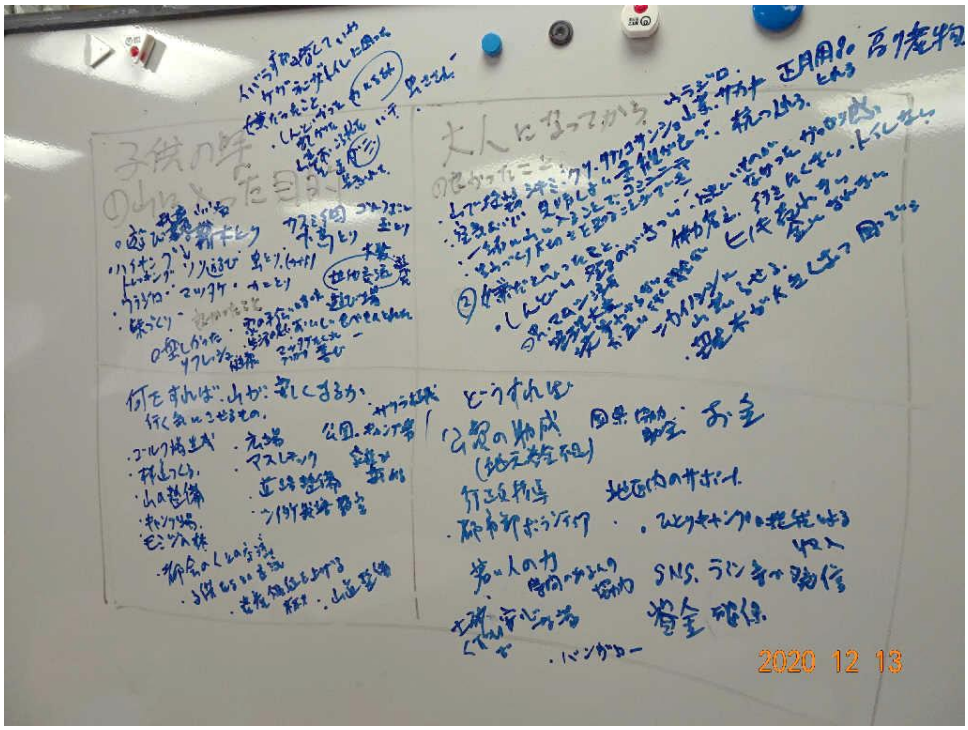
７　当面の具体活動案

登山道の案内看板、道標などの整備。（登山道マップは？）・・対応事業

組合員が出役した際の人件費給付、

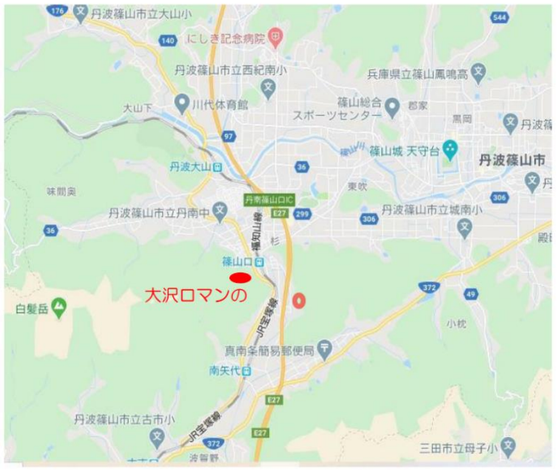
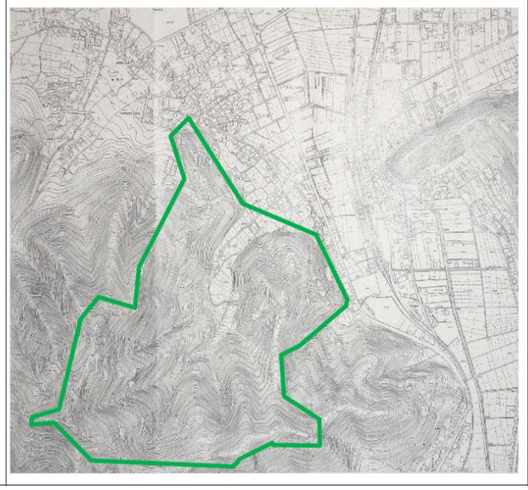
12 月 13 日（日）ワークショップの状況

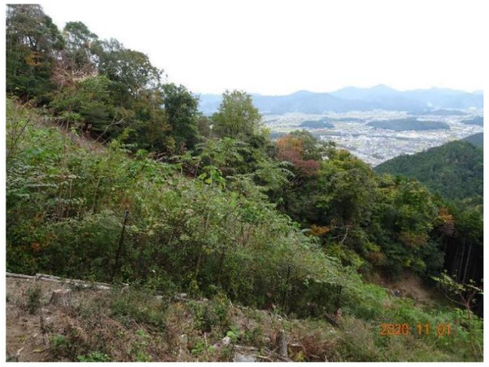
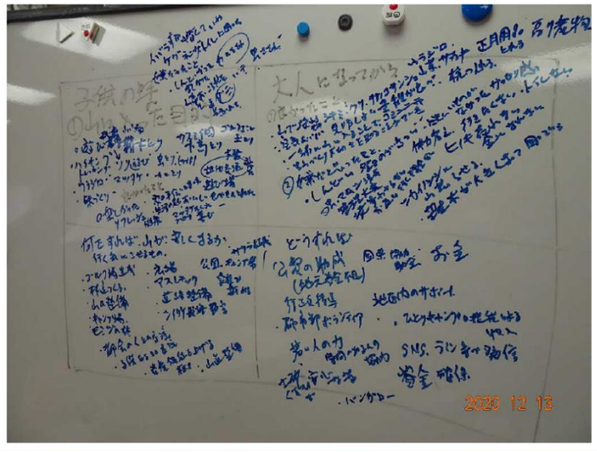
３グループに分かれ、上記のテーマについて森についての思いや今後の取組みについて意見を出し合い、意識の共有を図る。



丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・丹波篠山市八幡共有山組合	**活動員数**	・51 名
里山の所在地	・丹波篠山市　大沢奥谷山	**面　　積**	・37.3ha
目指す里山のすがた	・歴史遺産を背景に、戦国時代へのロマン回帰出来る森林散策が出来る ・交通の利便性を活かした安全、安心、快適さを備え、容易に入山できる里山環境 （地域内外からの多くの登山者を招くことの出来る魅力ある森作り） ・森林資源を活かしつつ、健康作りも出来、老若男女の人たちが入って楽しめる里山 （栗やドングリなどの実のなる樹木の植栽・・栗拾い、昆虫採集など出来る森）		
活動継続のために考えていること	・活動資金の確保（活動継続の糧） 従前どおり、組合による整備活動時に参加出来ない会員からの不参金 クヌギ、雑木等の薪材、体験活動で作る各種キノコの植菌ホダ木等の販売 ・広報担当理事を通じて味間まちづくり協議会、教育委員会、各所の自治会、子供会等に働きかけ、広く大沢ロマンの森を解放する。		
現在の取組	・県補助事業の住民参画型森林整備、市補助事業の里山彩園事業の補助金を受け、各種機材を備え、年４回のクリーン作戦日には、公園内の樹木剪定、木製車止め制作、随時民有林の危険木伐採、間伐やクヌギなどを伐り出し薪作りの他、ナメコ、ヒラタケ、シイタケのホダ木作りも行う。 ・他に年２回、のべ 20 名が、大沢ロマンの森の里山林の登山道の倒木伐採、除去、登山道の階段、排水溝の設置や整備を行っている。		
30 年後の里山づくりに向けた課題	・里山整備活動を継続するために、下記のことについて計画的な枠組み作りをする ① 活動資金の捻出；・共有山組合が中心となって活動を継続していく。 ・ホダ木、薪材の供給 ② 活動人員の増強；・所有動力機械を使える人員を増やすべく安全講習会の開催 ③ 多くの人に大沢ロマンの森の魅力を知ってもらう。：・SNS で、この地の様々な魅力を発信し、近郊都市の日帰りトレッキングコースとなるようアピールする。 ④ 多くの人に入山してもらう。；・登山道の保守管理、案内板設置などの整備		

位置図	現況地形図
	

現況写真 **活動写真**	 R2 年　10/24・11/1　進行混交林の広葉樹林ゾーンの整備活動  シカ防護柵内には植生が残るが外は裸地状態　　共有山組合総会時に森づくり WS 開催
ワークショップまとめ	ワークショップのまとめについては、別添のとおり 組合員の皆さんの山にお対する思いを再確認し、意識の共有を図る。 コロナ禍の関係で、出席者は少なかったが、今後の課題として、若い世代、組合員以外にも森づくり活動に参加してもらえる方策を考える必要がある。 また、活動資金の調達方法も今後の課題であり、R3 年度に森林山村多面的交付金の活用も検討 

３-１０　岩崎自治会

（1）令和２年度里山づくり活動状況

対応日時	令和 2 年 8 月 30 日（日）	記録	維田浩之
対応者	岩崎自治会長（酒井克典）他地区住民 10 名		
主な内容	酒井自治会長が、丹波の里山づくり促進事業のモデル林として岩崎自治会として取組もうとしている里山づくりについて、有志の地区住民を集め説明会を開催されました。 ついては、丹波の森協会から派遣の森づくりアドバイザーと市役所職員も参加して、岩崎地区の里山づくりについて、意見交換を行いました。 詳細については、以下のとおりです。		
19：00～20：45 岩崎公民館	○酒井自治会長から参集者へ、岩崎自治会が、丹波の里山づくり促進事業のモデル林として手を上げて、今後、岩崎地内の森林に目を向けて、森林環境整備をしていこうと考えている旨の説明があった。 ○丹波篠山市役所　森づくり課から樋上主事と丹波の森協会から派遣の森づくりアドバイザーとして維田（丹波篠山市役所森づくり課　森づくり支援員）の紹介があった。 以後、森づくりアドバイザーによる岩崎地区の森づくりワークショップが進められた。　内容については、以下のとおり。 ① 丹波の里山づくり促進事業のこと、里山のモデル林が丹波地域内で 10 地区選定されており、岩崎自治会が、その一つである事の説明。 ② このモデルの趣旨は、丹波の森構想から 30 年経過した今、人と森との関わりはどうなっているかを見直し、今後 30 年先まで、森と地域住民との関わりが深まるよう、ハード的支援ではなく、ソフト的支援をすることで、地域の人たちに地域の里山との関わりを深めてもらうこと。 ③ 今回のワークショップは、参加者の皆さんが、身近な森林についてどのように感じているかを見いだし、どのようにしていきたいかという思いを里山づくりに反映させていく、自ら森づくりに関わっていけるような意識付けをすることねらいとして行った。		

ワークショップ (WS)	※ワークショップの結果内容は、別添パワーポイント資料のとおり。 WS の説明を聞いている参加者 里山モデル事例 DVD の視聴 それぞれ、里山づくりに関する思いを付箋に書いてもらっている状況 記入した付箋を集約

（2）ワークショップ

岩崎地区の森づくりを考える

令和2年8月30日（日）　19:00～
岩崎地区公民館

身近な森林に対する皆さんの思いとは？

- 子供の頃に関わりがありましたか？
- 今はどうですか？
- どんな森林があったら良いですか？
- これからどうしたいですか？

子供の頃に関わりがありましたか？ どんな思い出がありますか？

- 森の恵み　楽しみ　13回答
  マツタケ採り５、タケノコ採り１、山菜採り１、木の実採り２
  虫（ｸﾜｶﾞﾀ､ｶﾌﾞﾄなど）捕り２、野鳥（ﾒｼﾞﾛ、ﾄﾋﾞ､ｶﾗｽの子)捕り２
- 森の遊び　楽しみ　11回答
  ソリ遊び３、キンマ遊び１、山歩き（登山、キャンプ、ピクニック）５
  陣地づくり１、森の空気でリフレッシュ１
- 森の活用（生活関連）4回答
  植林など山の整備１、冬季の薪、柴づくり１、山越えで隣地区に行く１
  マラソンのトレーニング１

今はどうですか？ ○関わりがある　×関わりがない　なぜ？

- ○9回答　めぐみの享受　山菜取り１、マツタケ採り１、タケノコ採り１、狩猟１
  レクリエーション　散歩１
  生活関連　薪採取１、草刈り２、水路整備１
- ×7回答　体調低下　高齢化１、足が悪くなった１
  生活関連　家周り仕事が忙しく山まで目が向かない２
  山に行く用事が無くなった１
  そもそも山に行く必要がない１
  移住したばかりで岩崎の山に入ったことがない１

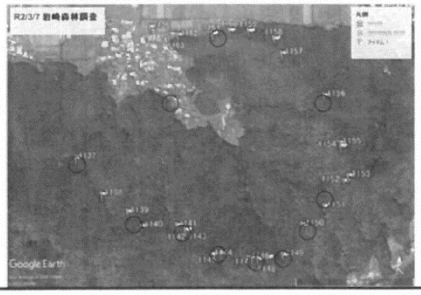
どんな森林があったら良いですか？ ※里山モデルの事例（DVD参照前）

- メリットのある森林　11回答
  マツタケ、山菜、落ち葉、木の実などが採取できる森
  立山、アルプスのような景観の良い森
  広葉樹が多い森
  入ると気持の良い森
  遊べる森
- 林道や歩道が整備された森林　7回答
  山に入りやすくなることで
  森林の整備、木を育てる、遊びに行ける

※里山モデルの事例（DVD参照後） 改めてどんな森林があったら良いですか？

- 景観関係　3回答
  季節ごとに楽しめる広葉樹の森２、寺山を美しい里山に１
- 空間利用関係　6回答
  子供の遊び場２、他地域の人も遊びに来られる森１、山頂食事会１
  キャンプができる場１、ログハウスのある森１
- 資源利用　5回答
  共有山のマツタケ山の再生１、人工林の整備１、
  森林資源の持続活用２
  売れるもの（チップ、木工品等）が生産できる森１
- 条件整備　5回答
  林道整備３、高齢者に対応した森づくり１、野生動物との境界線になる森１

岩崎の森林の様子



どのようなことをすれば良いですか？

○自分たちでできること

・森林整備　10回答

間伐２、下草刈り３、小灌木刈払い１、道（林道）づくり３

共有林（マツタケ山）整備１

・資源活用　1回答

木炭、ストーブ、木の実、落葉等の活用１

・ソフト面　2回答

必要に応じ（道整備等）所有林の提供１、補助事業の斡旋１

×自分たちではできないこと

・お金のかかること

林道（車道）の整備３、（大規模な）木の伐採搬出４、植林１

・ソフト面

利用計画づくり１、補助事業の知識不足１、森林所有者の調整１、管理の継続１

何から始められるか？

今回の会合は、初めての回であり、まだ、具体的に何をする？とか決まっていない状況。

身近な森林について目を向けて、意見交換をしようという第一歩。

今日説明のあった全体をどうするか？ということは大きすぎるので、

すぐには対応できないが、身近なところで、今回の話をベースにして、

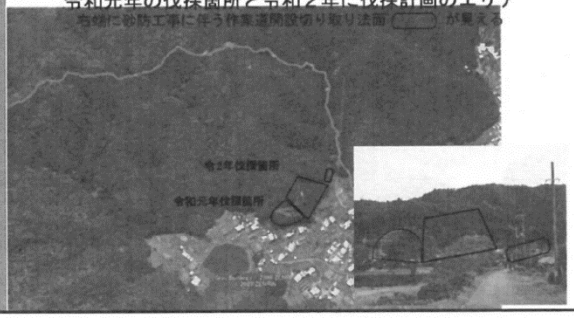
次回は現地も見ながら検討ができれば良い。

ただ、今回、西牧氏の森林で広葉樹林化皆伐事業が進められる中で、その伐採後の森林をどのように整備していくか？

それに隣接した、森林の入り口の竹林の整備をどのようにしていくか？

という2点については、第一に考えていく必要がある。

令和元年の伐採箇所と令和２年に伐採計画のエリア



次回は、いつ集まりますか？

いつ、何をするか？

また、自治会で日程調整をする。

意見・質問

Q：小枕～宇土にかけて人工林がかたまっており、市の計画の中に当地区の林道計画も掲載されているが、実現出来ないのか？

A:→ひと昔前は、市町での林道開設が進められていたが、林業の低迷期の頃から林道開設事業は下火になっている。

地元要望の強さにもよるが、現実的には所有者自身も林業への期待がない状況で、この計画を実現することは難しい。

Q：昨年、小枕で間伐した時に林内に道を付けられているが、あのような道なら可能なのか？

A:→間伐事業とセットで林内作業路網整備は可能であるが、実施事業者が、補助金の当たる事業計画をして、採算性が合うと見込めれば実現可能かもしれない。関係する森林所有者のとりまとめ等が必要。

小枕～谷山～岩崎～宇土エリアの状況

意見・質問

Q:里山づくりをするために、どんな補助事業があるのか？

補助事業の内容を教えてもらわないと、何ができるのか考えられない。

A:→まず、何がしたいか？何ができるか？それを考えてほしい。

補助内容のもので始めると、補助が無くなったらやめてしまうことになる。

補助事業については、次回説明をするが、まずは自分たちが何をするのか？

何が必要かを考えてほしい。

意見：チッパーはあるとありがたい。今、市でも貸し出しがあるが、大抵利用者が決まっていて、いつでも使える状態ではない。

A:→DVDで見てもらった春日町平松の活動地などはチッパーを導入しているので、参考に見学に行くなどしても良いのでは？

まとめ

岩崎地区の里山づくりについて、

○今回の状況

今回の参集者は、酒井自治会長が、地域の里山を放置したままではいけないという思いから、地区内で山に多少関心があると思われる人たちに声をかけて参集したメンバーである。

○今回の実施内容

今回は、第１回目の集まりで、参加者の皆さんが、身近な森林について、どのような思いを持っておられるか？を探り、皆さんが、身近な里山でどんなことがしたいのか？できるのか？ということを考えてもらうようきっかけとなるよう、ワークショップ形式で進めた。

また、岩崎地区内の森林全体について、３月７日に現地踏査をした時の写真を紹介して、現在の地区内の森林について知ってもらった。

まとめ

岩崎地区の里山づくりについて、

○今後の課題

・人工林の多くは、個人所有地なので、人工林の整備を進めるに当たっては、これから所有者に手入れをしていくための補助制度を紹介したり、協力要請をしていく必要がある。

・自治会の共有山は、かつてマツタケ山であったので、再生を目指したい。

・地区内全体の山をすぐにどうこうできるわけではないので、できるところから、少しずつ進めていきたい。

・当面は、令和元年の皆伐跡地（植樹済み）とその隣の今年皆伐する予定地の跡地対策と３月７日に入山した時の入り口付近の竹林を具体的にどうしていくか検討していきたい。

・林道（林内車道、歩道）の必要性が意見として多かったので、小枕の間伐事業地からの続きとして、森林整備（間伐）計画と合わせた林内作業路網計画についても、検討していく余地はある。

（3）ワークショップまとめ：岩崎地区の里山づくりについて

【今回の状況】

今回の参集者は、酒井自治会長が、地域の里山を放置したままではいけないという思いから、地区内で山に多少関心があると思われる人たちに声をかけて参集したメンバーである。

〇今回の実施内容

今回は、第１回目の集まりで、参加者の皆さんが、身近な森林について、どのような思いを持っておられるか？を探り、皆さんが、身近な里山でどんなことがしたいのか？できるのか？ということを考えてもらうようきっかけとなるよう、ワークショップ形式で進めた。

また、岩崎地区内の森林全体について、３月７日に現地踏査をした時の写真を紹介して、現在の地区内の森林について知ってもらった。

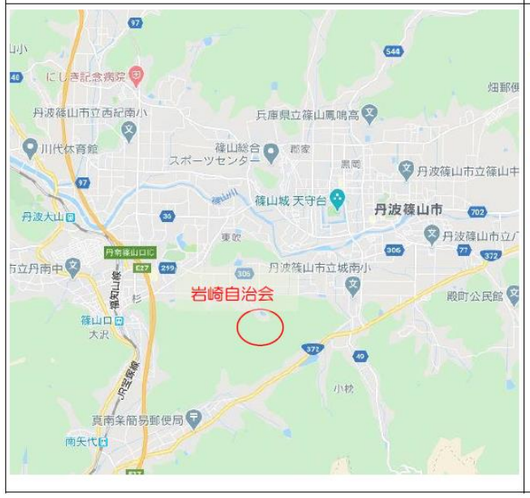
〇今後の課題

・人工林の多くは、個人所有地なので、人工林の整備を進めるに当たっては、これから所有者に手入れをしていくための補助制度を紹介したり、協力要請をしていく必要がある。
・自治会の共有山は、かつてマツタケ山であったので、再生を目指したい。
・地区内全体の山をすぐにどうこうできるわけではないので、できるところから、少しずつ進めていきたい。
・当面は、令和元年の皆伐跡地（植樹済み）とその隣の今年皆伐する予定地の跡地対策と３月７日に入山した時の入り口付近の竹林を具体的にどうしていくか検討していきたい。
・林道（林内車道、歩道）の必要性が意見として多かったので、小枕の間伐事業地からの続きとして、森林整備（間伐）計画と合わせた林内作業路網計画についても、検討していく余地はある。

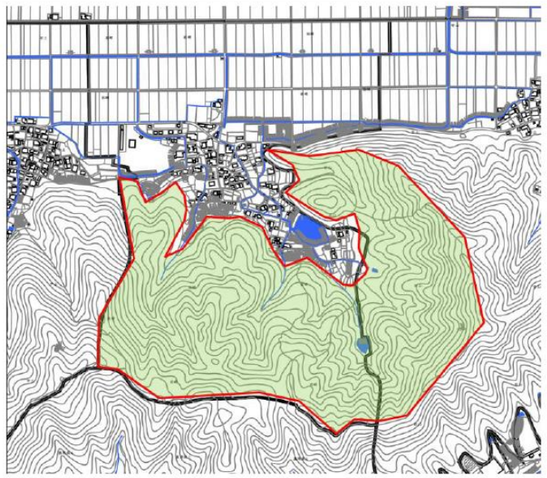
丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援

活動団体名	・　丹波篠山市岩崎自治会	活動員数	・10 人
里山の所在地	・　丹波篠山市岩崎地内	面　　積	・30ha　（要精査）
目指す里山のすがた	・人工林　植栽木を活かし価値のある森林に整備を進め、経済林モデルとする。 価値が見込めない場合は、改植を検討・・広葉樹の森林 ・竹林　　タケノコ生産林とする。樹種転換を図る。 ・広葉樹林ほか森林全体の構想 人が入って、気持ちよく感じる森林、子供たちが遊べる森林、経済価値のある林産物が生産できる森林。		
活動継続のために考えていること	・隣接集落（宇土、谷山）と一体となって森林経営計画等により、計画的な森林整備事業を進め、人工林は経済林として価値のある森林として育成していく。 ・四季を感じ、住民がその美しさを享受できるようにして、森林への関心を深めてもらい、林内散策など里山を周回することで健康増進も図れる。 ・自治会および新規居住者と共に活動組織を立ち上げる		
現在の取組	・地区役員、有志により、山林の現状を知るために森林を周回散策 ・まずは、近くの竹林の整備を検討 ・スギ、ヒノキの人工林については、将来性を勘案しながら保育方法を検討 ・尾根筋の雑木林は、ミツバツツジなども多く、景観を活かした整備方法を検討		
30 年後の里山づくりに向けた課題	・活動組織の立ち上げ ・広く参加者を引き入れ、活動を継続するための仕掛け作り ・砂防ダム整備に合わせた周辺環境整備の推進 ・将来的に経済林に導くための森林経営計画に基づく森林整備の出来る事業者の選定		

位置図



現況地形図



現況写真

活動写真

市単独補助事業で人家（寺）裏山、H1 年度の皆伐箇所に続けて今年度も皆伐事業を実施

岩崎森づくりを考える会の 1 回目（8/30）　身近な森林について考える WS 実施

R2 年度の市単事業の広葉樹林化皆伐モデル事業の実施状況

ワークショップまとめ

ワークショップのまとめは、別添のとおり

身近な森に対する考え方や、思いについて森づくりを考えるメンバーで共有出来た。

その結果を再度、確認して、具体的な活動プランに結び付ける予定であったが、コロナ禍の影響で、集会が持ちにくい状況で一年が過ぎた。

一方で、現場の方は、広葉樹林化皆伐モデル事業が進められ、昨年度の実施箇所に続けて更に広い面積の海抜血が出来た。

そのため、喫緊には、この伐後の広葉樹林化に向けてのプランづくりと、市単事業の里山彩園事業の計画を進めることに取組む。

当初懸案であった人工林の扱いについても、森林経営計画の策定に向けて検討する必要もある。

4　拡大里山づくりアドバイザー会議報告

（1）拡大里山づくりアドバイザー会議とは

・丹波地域では「丹波の森構想」30 周年を契機に、身近な里山に目を向け、その価値を見直すことで美しい里山を次世代へと繋いでいくため、活動団体の皆様が森林整備に係わる問題や課題を整理し、里山づくり活動を息の長い取り組みとして行けるよう、里山づくりアドバイザー派遣などの支援*を行っている。

＊丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援事業

・「拡大里山づくりアドバイザー会議」は、通常はアドバイザー中心に開催しているが、このたびは活動団体の現状の問題や今後の課題等について話ししていただき、関係者との意見交換をしつつ、問題解決に向けた方向を探りたいとの趣旨で下記の通り開催した。

1）日時　　令和３年３月 19 日（金）　13：00～15：00
2）場所　　丹波の森公苑　２階　セミナー室
3）議題　　①活動団体代表者からの報告（各団体５分程度）
②現在抱える問題や今後の課題について
③里山づくりアドバイザーからの報告
④行政、木の駅プロジェクト代表を交えて意見交換

（2）当日会議次第

1　開　会
2　出席者紹介
・出席者名簿
3　ワークショップ
（1）拡大里山づくりアドバイザー会議の趣旨
（2）活動団体代表者からの報告
・活動状況
・活動推進における問題や今後の課題　など
（3）里山づくりアドバイザーからの報告
・活動現況
・里山づくり計画など
（4）意見交換会
4　閉　会

以上

（4）出席者名簿

1　里山づくり活動団体代表

氏　名	団　体　名	備　考
真鍋　宏行	生郷里山づくり懇話会	
伊藤　忠嘉	平松区森林愛好会	
黒田　拓治	北岡本自治会 30 年の森づくり協議会	
細見　勝	下三井庄地区里山づくり	
前川　哲和	里山ごんげん（バイオマスフォーラム丹波）	欠席
高橋　隆治	森の学び舎（バイオマス丹波篠山）	欠席
村上　芳功	ふるさと和田里山づくり協会	
明山　信弘	上板井自治会里山づくり	
酒井　克典	岩崎自治会里山づくり	欠席
井上　邦夫	八幡共有山組合	

2　里山づくりアドバイザー

氏　名	所　属	備　考
維田　浩之	森林インストラクター　丹波篠山市森づくり支援員	
内田　圭介	八百材舎木材コーディネーター　丹波の森研究所研究員	
宮川　五十雄	ＮＰＯ森の都研究所代表　丹波の森研究所研究員	
門上　幸子	森林インストラクター　丹波の森研究所研究員	
門上　保雄	森林インストラクター　丹波の森研究所主任研究員	
山崎　春人	森林インストラクター　関西学院大学講師	

3　木の駅プロジェクト

氏　名	所　属	備　考
髙橋　隆治	丹波篠山木の駅実行委員会　理事長	欠席
山内　一郎	丹波市木の駅実行委員会　委員長	

4　行政

氏　名	所　属	備　考
安井　直哉	丹波篠山市　森づくり課　係長	
荻野　翔太郎	丹波市　農林整備課　主事	

5　丹波の里山づくり促進実行委員会

氏　名	所　属	備　考
尾畑　俊彦	丹波農林振興事務所　森林課　課長補佐	
芦田　茂	公益財団法人兵庫丹波の森協会　常務	
大垣　至康	公益財団法人兵庫丹波の森協会　事務局長	
荻野　朋子	公益財団法人兵庫丹波の森協会　事務局	

拡大里山づくりアドバイザー会議　　議事録

・日　時：令和３年３月 19 日（金）　13：00～15：00
・場　所：丹波の森公苑　2 階　セミナー室
・出席者：尾畑俊彦（丹波農林振興事務所森林課）、安井直哉（丹波篠山市森づくり課）、荻野翔太郎（丹波市農林整備課）、芦田茂（兵庫丹波の森協会）、大垣至康（兵庫丹波の森協会）、荻野朋子（兵庫丹波の森協会）、門上保雄（丹波の森研究所）
維田浩之（里山アドバイザー）、内田圭介（里山アドバイザー）、宮川五十雄（里山アドバイザー）、門上幸子（里山アドバイザー）、（山崎春人里山アドバイザー）
真鍋宏行（生郷里山づくり懇話会）、伊藤忠嘉（平松区森林愛好会）、黒田拓治（北岡本自治会 30 年の森づくり協議会）、細見勝（下三井庄地区）、村上芳功（ふるさと和田里山づくり協会）、明山信弘（上板井自治会）、井上邦夫（八幡共有山組合）

司会（門上）：それでは会議を始めたいと思います。開会にあたりまして、本事業の全体を実施しております丹波の里山づくり促進実行委員会の丹波県民局丹波農林振興事務所の尾畑さんから、開会のあいさつをお願いします。

尾畑俊彦（丹波農林振興事務所）：皆さん、こんにちは。兵庫県丹波県民局丹波農林振興事務所森林課の尾畑と申します。皆さん、いつもお世話になって、ありがとうございます。本年度も皆さんにお世話になりまして、モデル地区ということで活動していただきまして、丹波地域の里山を守り育てて未来につなぐということで、一生懸命に活動されていることをお聞きしています。それからアドバイザーの皆さんもいろいろと活動にご協力をいただき、大変ありがとうございます。おかげで数年モデル団体ということで活動していただき経過していますが、ほかの団体さんも興味があるということで活動に参加していただいたり、研修会をやっていますが、そちらの方に参加して、こんな活動をされているところもあるだなあということで、いろいろと問合せも増えてきています。

森の瓦版で皆さんの活動をご紹介したりもしていますし、それから秋号を発行させていただいて、もうすぐ春号ということで森の瓦版を発行させていただいて、広報誌と一緒に全戸配布をします。そちらに各団体さんの紹介をさせてもらったり、木の駅プロジェクトの活動についても紹介をさせてもらったりということもしていますので、またいろいろとお問い合わせとか参加してみたいなというご相談がひょっとしたらあるかもしれないので、またご対応いただくということになると思います。

皆さんご承知のとおり、丹波地域の里山づくりというのは、森づくり宣言というのが３０年経ったということで、この先３０年どうするのかというところを考える中で、地域で活動されている皆さんをますます応援していただいて、ますます活動していただいて、山を良くするということと併せて地域の活性化、丹波の森というのをますます良いところに持っていこうと、活動に参加していただく方をますます増やしていこうという目的で、３０年間支援し続けるということで県民局の方も頑張っています。

皆さん、モデルとなる団体ということで１０団体お世話になっていまして、それぞれ特色のある活動をやっていただいています。これまで活動団体間での情報交換の場というのがなかなかとれていなかったということもあって、門上さんの方に今回集まっていただく段取りをしていただいて、皆さんからいろいろな意見をお聞きして、これからの県民局の事業に活かせていけたらなと思っています。いろいろな意見、それからお叱り等々をいただきながら持ち帰らせてもらって、県民局の中で検討させてもらうようにしたいと思います。今日は、よろしくお願いします。

司会（門上）：ありがとうございました。早速ですが、次第の２に移りたいと思います。今日皆さんのお手元に資料として４枚お配りをしています。次第と今日の出席者予定です。１０地区の場所、地図があります。それと案内のときに送らせていただいた開催のお知らせ文です。以上４枚、お手元にありますでしょうか。

では、出席者紹介とありますけれども、発言の前にお名前だけ言っていただいて、名簿と顔を確認しながらということでお願いしたいと思います。

それでは３番のワークショップ、本題に入ります。今、尾畑さんの方から説明がありましたが、丹波の里山づくり促進実行委員会というそもそもなんですが、出席者名簿の一番下の５番目のところに今日の実行委員会のメンバーを書いています。実行委員会は丹波県民局と丹波篠山市、丹波市、それから兵庫丹波の森協会の団体が共同で運営しています。中心は尾畑さんのところの農林振興事務所ということになります。今日、丹波の森研究所の方は協会の下にある研究機関ですので、本来ここへ入っていてもいいのですが、実は里山づくりアドバイザーもしておりますので、２のところに名前を入れています。そういう丹波地域における行政、協会というところで構成されていまして、丹波の森研究所は実行委員会からお話しを受けて、お手伝いをさせていただいているというところです。実は来年度も本事業というのは、そのまま継続されると聞いています。このアドバイザー会議というのは、もともとアドバイザーさんの間での意見交換というところです。４番の行政の部分ですが、本来５番に入ってもいいのですが、今日は各両市の農林担当部局という形で参加をいただいています。本来はアドバイザー会議の中で地域の各団体がどういうふうに思われているとか、あるいは課題があるとか、こんなことをしたいのだが支援事業はないのかという話があって、それだったらということでゲストスピーカーという形でアドバイザー会議の中に入っていただいて、地域の活動をされている皆さんからのご意見を伺いたいというところが今日の大きな趣旨です。行政の方に今初めていうのですが、丹波篠山市、丹波市と里山づくりの支援内容も違うわけですが、後ほど大まかな里山づくりに関する支援事業の概略とか、今話題の環境譲与税を活用した支援事業など話せる範囲でいいので、もし話をしていただけるのであればお願いしたいと思います。

では３の（２）になります。活動団体代表者からの報告ということで、今活動をされている中でどんなことをされているか、また今後活動を継続していく上で問題とか課題とかありましたらお話しをしていただきたいと思います。今日は人数がたくさん来ていただいていますので、申し訳ないですが時間は短めにお願いします。うまくいけば二巡したいと思いますので、よろしくお願いします。平松区森林愛好会の伊藤さんから、ご発言をお願いします。よろしくお願いします。

伊藤忠義（平松区森林愛好会）：紹介のありました平松区森林愛好会の伊藤です。よろしくお願いします。私たちの団体は平成２５年８月からスタートしました。足掛けもう８年になるのですが、かなり地域の平松自治会内の里山を中心に整備するということで毎年活動を続けています。とりわけ今日まで続けられてこれたというのは、国の森林山村多面的機能という補助金制度を平成２５年からスタートされたわけですが、これに地域の山も荒れているし何とかしたいなというようなことから立ち上がったのがスタートになっています。おかげさまでそういう補助制度を活用させてもらいながら続けてきていますので、今日までかなり成果を上げながらやってこれたのかなと思います。もう一つは補助制度の住民参画型補助事業を、これも一度受けさせていただいて、作業するための機械などを充足をさせていただいたというようなことで、非常に機器、装備とも充実し、会員も今１８名ほど活動をしています。

最初はおっかないというか、何もわからないから作業そのものもなかなか手に負えないよ

うな非常に苦労したこともあったのですが、今では自分のポジションというのか、動き方というのをそれぞれが身に着けて、今日こういうことをするよと言ったら、もう大体その段取りで動いてもらえて、非常に作業もスムーズに続けられています。今はもう結構ハードな方の仕事になってきて下刈りなどはもちろんですが、間伐やチッパーキーを使って、うっそうとした竹林を潰すなり、かなり専門的とは言いませんが、ハードな仕事に取り組んでいます。

だからどんなところでも整備が手掛けられるという状態にはなってきていますが、問題点ですが、うちは特に問題は抱えてはないのですが、とにかく自立的に物事は他所に頼らずにできるように力をつけようとうことを目標においてやっています。大体のことは委託するのではなくて、すべて自分のところでやりこなそうとしています。

問題としては、この活動を地域の自治会が中心になって、こういうこともできるようになんとかしたいなというのがあるのですが、なかなかそこが反り合わないというのが一番の問題です。本来やったら、もう自治会を中心に日役なりがあったのですが、それが現在はなくなってきて、若い世代になってきているので、本当を言ったら地域が全体でそれを盛り上げてやればいいのですが、何かにつけて我々の団体の方におんぶにだっこのような形になってきているので、そこをどういうタイミングで話したり、やってもらえる自治会が自立的にできるようにしてもらえるかというのが今のところ抱えている問題です。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：北岡本自治会の黒田です。お世話になります。平成２３年から自治会長をやったもので、地域の国道改修とか、それに伴う治山事業でダムづくりとかいうことになり、山にだんだん関わるようになってきました。そこで同意書を取って回ることを学びまして、山の整備計画を立てまして間伐を自治会と個人の山を合わせて７０ヘクタール間伐をしていただいて、そのあと平成２６年の豪雨災害を受けまして、山みがきパイロットモデル事業に応募して、それで自治会の山２ヘクタールを皆伐して、それは鹿にやられて即罹病になって、中が腐ってきたということでもう切って、植樹しようということで木を植えました。そのときに４００本ほど実のなる木やら根が食べられる木やら落葉する木やらを４００本ほど植樹をしました。そのあと間伐していただいたのはいいのですが、作業道があちこち崩れますし、倒木がいっぱいありますので、それをなんとかしようということで、地元の有志を募って、作業道がとれるように常に確保しようということで、そういう取組みを始めました。平成３１年に住民参画型の補助金をいただきまして、林内作業車とチッパーを買っていただき、山の中の材の引き出しをやりました。

昨年度は森林山村多面的事業の補助を受けまして、昨年度は１３．８ヘクタールの仕事をして、一つは独居老人の裏山に里道が通っているのですが、その里道が非常に狭いということで、その里道の改修を市にしてもらおうと思ったのですが、１メートルしか幅がないもので改修ができないと。工事代金ばかりすごくかかるので、森林山村多面的事業の補助金を使ってユンボとダンプを借りて、春と秋の約２ヶ月間かかって、約２５０メートルほど、幅１メートルの道を４メートルに拡幅して、作業ができるように行いました。それで建設業界の方に話をすると１，０００万円ぐらいの仕事をやったなあという話で、えらいようけ儲かったんということで昨年はそういう作業ができました。ユンボやらダンプやらを借りているので、木の搬出もダンプを使ってできましたし、去年は非常にらくに木の搬出ができました。木の駅の積算でいったら５００キロ相当出荷できたというような状況です。

去年はコロナウイルスが猛威をふるいましたので、室内の仕事はなかなかできないので、外で皆楽しくやろうということで皆交代で出まして、延べ人数で住民参画型の前年度の残りの伐倒作業と合わせて、大体３００数十人ぐらい出てくれたという状況です。暑い中、またコロナウイルスと闘いながらの一年間でしたが、皆楽しみながら作業ができたと喜んでいま

す。あと今年と来年と、今年が１１ヘクタール、来年は１５ヘクタールで作業したいと考えています。また植樹を合わせて今１３７０本ほど植樹ができたのですが、鹿の被害に遭って弱っております。ネットを外すと鹿がモミジなども皮をめくってしまうのですが、自力で修正して生きているみたいですが、どこまでもつかなと心配したりしているところです。

細見勝（下三井庄地区）：下三井庄地区の事務局らしきものをしております細見です。よろしくお願いします。うちの地区は下三井庄の林野委員会、いわゆる財産区、これは１００人ほど会員がいるのですが、地権者の会と、それから大路未来会議という、これは若手のボランティア団体と、それから下三井庄の里山保全の会、これが先ほどからお話に出ている森林山村多面的事業を中心に事業をやっている技術実働部隊、この３つの組織が一つのグループになって今回のモデルとなる里山づくりの活動をさせてもらっています。一番大きな林野委員会が持っています共有林、これを将来的にどのように活用、展開していくかというのが中心的なテーマです。わが村では、今も山林日役が年１回、一日、地権者による活動があります。大体出席者が７０人ぐらいあります。それと今現在は丹波市森林組合の経営計画によって間伐を展開していまして、令和３年度で一応大体終わるかなというところです。併せて丹波地区ですので県の方にもお世話になって、松林の航空防除も実施していただいています。

そういった形で針葉樹、あるいは広葉樹も含めて地域の山全体をどのように持続的に活用していくかという大きな中で、大路未来会議のメンバーは子どもたちを招いて、大路子どもの森という形で年間を通じて野遊び、今日うちの方のアドバイザーをしてもらっています。山﨑さん（里山アドバイザー）からもアドバイスを受けたりしながら、それぞれ皆が、こどもが大体１５人ぐらい、大人がそれの倍の３０人ぐらいの会員で年間を通じて月に１回の野遊びを中心とした事業を展開しています。それと里山保全の会は地域の山裾の危険木や雑木の整備をしながら、今はチェーンソーを使ったテクニックを向上させながら、森林整備に取り組んでいます。

そういった形で三者が日常的に協力ということではないですが、地域の中に存在する活動団体として将来に向けて整備をしています。時には、皆とワークショップを開いたりしながら森の味覚であるとか景観であるとか、そういったものをアドバイザーに指導していただきながら認識を高めています。

その中で問題点になってきているのが、自治会の日役のことも最近課題が出てきはじめました。というのは、やはり高齢化をしてきて後継者がいないということで各戸から人が出てくるのは、なかなか難しくなってきています。それと経営計画で今、里山の会が大きく展開はできないのですが、終われば人工林の育林であるとか間伐といったところを自分たちで手がけられないかなと。あるいは山の副産物、木の芽であるとか搬出した原木の活用、それから、これからは広葉樹林化についても、たとえばクルミとかコナラとか、そういった実のなるものを、今まではヒノキとかスギとかばかり手がけていたのですが、広葉樹林化をしながら、シイタケのホダ木であるとか炭焼きの原木であるとか、大路にも焼いている方がいらっしゃるので、そういったところに提供できるようにしたい。

あるいは北側には妙高山、市島の妙高山、神池寺、そういったものを抱えておりますので、そういったところへのルートも今回の経営計画の中で作業道ができました。それから子どもの森の方で森林山村多面的事業の当初は指導してくださる方の講師の謝金とか、お礼とかもできていたのですが、今はそういう制度もなくなっているので、森の整備だけになっています。将来の子どもたちにつなげるような、子どもたちとの交流ができたり、我々も学びの場であるような事業を支援してもらえる制度、例えば環境譲与税であるとか、そういう市町の施策の中で新たに展開をしてもらえると、もっと深みのある、そして幅広い世代の中で森を

通じて学べる場ができるのではないかということを思い、お願いをします。そういった形で三者が伴って年に数回の打ち合わせをしながら、将来の森づくりを検討しているところです。

井上邦夫（八幡共有林組合）：私は丹波篠山市大沢に所在する約８０ha の山を抱えている八幡共有林組合というところで代表をしています井上邦夫と申します。現在組合員は４９名ということで、ちょっと高齢化してきているということで人数も減ってきて、今の４９名の組合員で維持管理している状況です。昭和になって組織的に組合の組織を作りまして、整備をして、人工林の植栽から草刈りやら枝はつり等、組合員の労力で維持管理に努めてきました。その後、月日が経過して平成１２年に兵庫県の森と緑の公社のご協力によって中世の城跡めぐりと登山探索という意味から遊歩道を設置していただきました。それが現在にも続いて、一応その遊歩道を中心にして、その里山を守るという観光で続けています。それにプラスして間伐とかいろいろなことを展開していただいておりますので、今のところはなんとかいけていますが、最近の大型台風やゲリラ豪雨によって、木が倒れたりしていることがあり、遊歩道を通りにくいという問題があります。この遊歩道は最近ではＳＮＳで広がり、それによって篠山口駅から１０分のところにありますので、非常に登山客が多くなっています。その関係から事故があってはかなわないということで、組合員が中心になって倒木の伐採とかをやっています。これにつきましても今までは手作業でやっておりましたが、とてもじゃないけど手作業ではやりにくいということで、県や市の助成金の事業を受けまして、混交林整備事業、住民参画型整備事業、里山再生事業といろいろしていただきまして、その中でチェーンソーとかいろいろな機械の購入をさせていただきました。それによって、現在維持管理をしています。

問題は、里山を守っていくにも今のところ組合員が高齢化し、だんだんと組合員が減ってきているということから、県の方と相談をして今回の里山づくりという組織に参加させていただいて、県とか市のご協力を得て里山の維持管理をずっと続けていくような格好でご指導をいただいています。こちらにいらっしゃいます維田さんとかにいろいろご指導いただいて、作業にも、また総会等にも顔を出していただいて、ご指導をいただいています。

今は４９人なんですが、それ以外に３集落から成り立っていますので、そちらの住民も参画できる、一般の人まで参画できるような形で維持管理していきたいと考えています。だから組織の中にもＰＲ部隊を作って、子どもたちも一緒に登山等に利用しています。今もいいましたＳＮＳで大阪や神戸から来られる方も結構いらっしゃいますので、関東地区にあります高尾山ですか、それを目指して活性化した組織を作り上げたいと思っています。

明山信弘（上板井自治会）：丹波篠山市上板井の明山と申します。私どもは、今皆さんがご報告された内容とちょっと異なるのですが、自治会に隣接する約２５ha ほどの雑木林、昔はマツが多くて松茸も豊富に採れたというところです。今は固定資産税だけをたくさん払っているという負担になっているようなことです。

そこで丹波篠山市が赤松を復活させようという補助事業がありまして、そこに手を挙げて、わずか少ない面積ですがなんとかやってもようじゃないかと、５年ほど前から２ヶ所、手を挙げて使わせていただきました。ところがいろいろ講演を聞いてみますと、成果が出るのが７年先であったり、もっと先であったり、なかなか成果が目の黒い間に出ればいいかなというようなことになりました。

参加している仲間から、それだったら雑木林にたくさんある椎茸の原木を採取して、椎茸栽培をまずやってみようじゃないかというのがきっかけです。また丹波篠山市の支援を受けまして、里山彩園事業に一緒に参加させていただき、ご支援を受けて、チェーンソーや発電

機などいろいろ機械的な設備も調達することができました。

現在、椎茸の原木約８００本でシイタケ栽培をしています。ようやく昨年の秋から収穫ができるようになり、その収穫や販売等に振り回されているというのが現実です。ただ、ここに来ていただいています維田さんや尾畑さんにもご指導を受けて、問題点は、先行投資が多くて、なかなか出役する日当がなかなか出せない。令和２年度の出役が大体５００時間ぐらい、皆で出ています。出ていますが、まだ出役日当は払えていないのが現実です。椎茸が販売できて豊かになれば出役日当を出せるかなというような感じでいます。そういう意味で継続的にこれからも毎年少しずつ原木を採取しながら、里山を活用しながらやっていきたいと思っています。

問題は皆さんがおっしゃっていますように高齢化しています。わが自治会、４５戸ほどの自治会ですが、参加してくれるメンバーが男の人で１０人から１１人ほどです。若い人は仕事を持っているのでなかなか出てくれないし、退職した６５歳から８０歳まで位の方が出てやろうということで約１０人ほどになります。若い人が参加してもらえるように、もっと魅力あるものにするためにはどうしたらよいかというのが、これからの課題になろうかと思います。またシイタケ栽培だけではなくて、なんか人を引き寄せられるようなことを里山で作れないかなというのが課題だと思っています。しかし椎茸とか、そういう栽培で収穫が得られますと、皆の目の色が少しずつ変わってきまして、今は一生懸命やってくれています。

村上芳功（ふるさと和田里山づくり協会）：組織的には、私は村上芳功と申しまして、ふるさと和田里山づくり協会の会長を仰せつかっています。私たちの協会は昨年４月１日にキックオフをしまして活動を始めたばかりで、やっと１年が過ぎたという協会です。組織的には、ふるさと和田振興会で、学校区で言いますと和田地区の校区１つが振興会になっています。そこの会長から、こういう里山の整備をしていきたいということで役をやれということでございまして、受けさせていただき、活動をしています。

活動の目標として１年目は自治会組織の中ですので、たくさんあるのですが１６自治会がある中で財産区の委員さんとか自治会の委員さんを選抜して１５名で活動をしています。そして活動場所ですが、その１地区の自治会の登山の明石大橋が見える有名な山があるのですが、そこの整備、雑木の整備。それから神社仏閣（小新屋観音）の中に大きな巨木があるのですが、その木が倒れることによって、そういう建物を潰してしまうということがあり、そういう巨木の伐採をするということに一つの場所を選びました。岩尾城というのが校区にありまして、県の史跡になっていますが、ここの山が荒れていて、そこの整備をしようということで三つ目はやっています。これは県の史跡ですので市の文化財課の承認を得て、集って立ち合っていただきながら、伐採する木を設定してやっています。最後に学校の校山園というのが和田小学校の裏にありまして、その裏のところを子どもが遊んでいるのですが、学習できるようにしようということで、そこの整備を行おうと考えています。これはオオムラサキの蝶を飼うようなゲージがありますので、それを使おうとか。それから先ほどお話がありましたが、伐採するのに周りの木で椎茸の原木がありますので、伐採するのだったら、それで椎茸の原木を子どもたちと一緒に作ろうとか、そういう子どもたちと一緒にできるようなことをやろうというのが四つ目です。

この活動を１年の中で計画を立てて、3年かけて最後には完成させようとやってきました。まだ１年目です。出役についても木の伐採ということがあり、安全の問題からチェーンソーを購入するので講習会に木の駅プロジェクトにお世話になり、1年間で１５名受講しました。一応もう活動に入っています。ただ活動しましても経験が少ないものでチェーンソーは使うけれども、安全のことについては全然皆が知らないという状況で、講習会を現場で、山の上

でやりまして、その活動を指導いただきながら、この１年をやってきました。なんとか木が切れるようになってきたかな、段取りもよくなったなというのが現状です。そういうような形で今やっていますが、その活動の中でやっと２月頃ですか、ある委員の方から山の上に井戸があって、その井戸を清掃したいという話が出て、それもやろうということで一部の人数でやりました。それが県の史跡ですので、泥を全部あげると文化財課の方が全部の泥をチェックされます。そういうような形のものをやって、最後まで出なかったのですが、最後に木簡が出てきて新聞紙上を賑わしていますが、本来里山づくりということで山の方をやる予定だったのですが、たまたまそういうようなことがあって実施したところ、そういうことも含めて委員さん、会員さんの方からやる気を少し出していただき、少しずつですがこの１年でなんとかまとまってきたかなというレベルです。

あとは山の伐採がまだ３分の２ほど残っていますので、それを進めていきます。子どもたちと一緒に樹木の名前を書いた札をかけたり、子どもたちと一緒にできるようなものをしていきたいと思います。

最後になりますが、現在は地区を決めて３年計画でやっていますが、その後については各自治会で自分たちの自治会で山と住民の境の里山を整備したいとかいう意見も少し最近出てきましたので、その後は継続的に各自治会に持って帰っていただいて、活動ができればいいなと思っています。

２年目の令和３年度の目標の中に里山づくりという研修会をしたいと考えています。巨木を切ったり、あるいは里山の整備をしたり、そういうものができるように研修会をお世話になりながら開催したいと思っています。また活動は、まだ１年目なのですが少しやる気になりかけかなという感じで今進めています。特にコロナの関係で反省会ができなかったのが非常に残念ですが、進めていって、３年目には達成ができればというような形に持っていきたいと思っています。

真鍋宏行（生郷里山づくり懇話会）：生郷里山づくり懇話会代表の真鍋と申します。よろしくお願いします。活動をしています生郷地域というのは石生駅を中心とした自治会でありまして、本州一低い中央分水界があります。周辺の水分かれ公園とか、ヒカゲツツジの咲く向山等もある地域です。しかし残念なことに地域内の森林の手入れが行き届いていなくて２０１８年の豪雨の時に一部で土砂崩れ等が発生しました。このことから、やはり土砂災害の防止や森林整備などをなんとかやって、整備や保全等していかなければいけないということで、この生郷里山づくり懇話会というのが発足しました。

今年度は生郷自治振興会の方のまちづくり交付金を活用した事業といたしまして、リニューアルオープンします水分かれ資料館の裏の千代田池に沿った遊歩道の整備を行ってきました。それと同時に資機材の購入ということで住民参画型森林整備の申請をして、機材の購入等を行いました。次年度からは主に住民参画型森林整備としまして、東小学校の裏山とか水分れ公園の磯部神社の裏山周辺道の整備の活動を行っていく予定にしています。

司会（門上）：今日出席していただいた活動団体の代表さんのお話は以上です。上から５番目の里山ごんげんの前川さん、それから森の学び舎の高橋さん、岩崎自治会の酒井さんは今日は欠席です。地図にもありますが１０地区あります。名簿でいうと上から６つが１期で平成３１年からスタートをしています。下残り４つが令和元年から２期分でスタートをしています。ですので若干の１年のずれがありますが、皆さんご活躍をしていただいています。また後からご意見がありましたら、お伺いします。

司会（門上）：次は３の（３）の里山づくりアドバイザーからの報告ということで、個別地区とはお話をしていただいているとは思うのですが、どんなふうな関わりでやっているかというのを他の地区の方にも聞いていただきたいと思いますので、アドバイザーの維田さんからお願いします。

維田浩之（里山づくりアドバイザー）：里山づくりアドバイザーの名簿の一番上の維田です。私がアドバイザーに関わりましたのは令和元年の活動から関わっていますのでアドバイザーとしての関わりのお話をさせていただきます。まず私が担当しています箇所は、今日お見えになっております八幡共有山組合さんの活動と、それから上板井自治会里山づくりの活動と、岩崎自治会里山づくりの３箇所を担当していまして、せっかくですので今日欠席の岩崎自治会里山づくりのご紹介をしたいと思います。

岩崎自治会の方は自治会の集落の裏山１ヶ所が市の事業で広葉樹林化皆伐事業というのがあって、それに取り組んだ箇所があります。人工林にヒノキ林が伐採されたあとハゲ山になっているのですが、そこに自治会として植樹をされたりしています。その続きとして令和２年度にも皆伐事業がされまして、その隣がまたヒノキの山がなくなってハゲ山の状態になっているのですが、自治会としては、その後の山も広葉樹の山にもっていくような活動をしたいと考えておられますので、それをどういうふうにしていったらいいのかということをこれからお話させてもらったりしようと思っています。

昨年の８月に岩崎地区での活動をしようというメンバーが１０人弱集まりましてワークショップをさせていただきました。そのときに自分たちが子どものときに山でどんなことをしたかとか、そういうことを思い出してもらって、それをこれから先の地域の人たちに伝えていけるような活動にしていけたらいいんじゃないかということで話し合いをしたのですが、その後なかなか集まる機会がありませんでしたので、現場は山がどんどん伐採されているというのが進んでいるのですが、活動団体としての意思統一というか、こういうことをしようというところには、まだ至ってないので今年度はもうないんですが、３年度については、その辺のところを力を入れて関わっていきたいと考えています。

それから八幡共有林組合さんの皆さんとは昨年１１月ごろに山の整備活動にも参加をさせていただいて、どういうふうな形で取り組まれているのかなということを見させていただきました。そのあと八幡共有林組合の総会の席にも参加をして、これからどういうふうな森づくりをしていったらいいのかというようなことを、先ほどの岩崎自治会と同じような形で自分たちがかつてどういうふうに関わってきたのかということを思い返してもらいながら、これからどういうふうにしていくかということをこれあら進めていきたいと思っています。なかなか話をする機会がなくて、今日お話を聞いて、また組合員さん以外の人たちも交えて、子どもたちにも入ってもらえるような仕組みとかというのも、これまでの話の中でもしていたのですが、もう少し具体的にどうするかということを３年度は一緒に関わって進めさせていただきたいと思っていますので、また声をかけていただけたらと思います。

最後に上板井自治会里山づくりですが、椎茸づくりの方を最初に相談を受けまして、専門の機関を紹介して積極的にすごく取り組んでいただいています。この間、２月に山の整備活動に参加をさせていただきました。その中でいろいろと課題も見えてきましたので、これからの活動についてもいろいろとアドバイスできるようなことがあればいいかなと思います。

この１年やってみまして自分としての反省点としましては、もうちょっと連絡を密にできるような形を作っておけば良かったなと思いまして、こちらから言っていくのはなかなか押しつけがましいかなと思ったので、ぜひとも逆にどんどん声をかけていただくようにしていただけると私も動きやすいなと思いますので、よろしくお願いします。

内田圭介（里山づくりアドバイザー）：皆さん、こんにちは。里山づくりアドバイザーの内田と申します。私の担当は今日出席できなかったバイオマス丹波篠山さんがやられている森の学び舎というところの活動団体を支援させていただいています。これは皆さんの里山づくりに比べると、かなりお気楽な活動になってしまうのですが、場所が西谷運動公園といいまして市が所有している施設の中にある山林、これも若干２ヘクタールぐらいの大きさで実際に歩いて数分で尾根に着いてしまうという小さな山なのですが、その山を活用して２年前から主に神戸大学と淡路の景観園芸学校の学生さんを中心に地元の西谷の自治会長さんのサポートをいただきながら、荒れ地だった山を遊歩道とか、ちょっとした広場というのを整備しながらやってきました。どちらかというとハードなそういう施業の部分、間伐とか整備というのはＮＰＯのバイオマス丹波篠山の技術的な協力を入れながら、どちらかというと学生と実際に利用される方が阪神間とか三田、宝塚から来られる若い親子連れの方が結構多くいらっしゃいまして、その方たちと一緒に、ちょっとお手伝いをしながら、どちらかというとご飯を作ったり、火をおこしたり、かなり遊びながらの内容になっていますが、森の中で遊ぶってどういうことというところの一番基本的なところを活動として担っているのかなと考えています。私の役割としましては、どういったところに遊歩道を付けるべきかとか、どういったところに広場を作ったり、どういう植生を守っていくかというところをアドバイスしたり、あとはそういった技術的なハードな整備も含めてなんですが遊び方ですね。たとえば音楽会をしたいのだけど、こういう人はいないかとか、こういう生物生態の観察をしたいんだけど専門家はいないかとなったときに、そういった専門家の方をお招きして、実際にイベントとしてやっていただくということをサポートさせていただきました。

活動スパンですが､不定期ですが平均すると１ヶ月から２ヶ月に一度ぐらいのペースです。今年度はコロナ禍ということもあって、山林での活動ですのであまり人を呼びづらい状況の中で、オープン利用と言いますか、親子さんで自主的に使いたいという声があれば、もちろん実際に利用されるときは、メンバーの学生が見ている中で活動してもらうということをしています。今、実際にその学生さんが今年一斉に卒業ということでチリチリバラバラになってしまうのですが、今後はいつも参加してくださっている主婦のメンバーの方がいらっしゃるのですが、その方を中心に地元篠山で子育てとか、ＮＰＯの支援をしている住民の方とかと一緒に、引き続きバイオマスのサポートを受けながら活動を続けていくということになっています。

問題としては、参加者も増えて非常に使い勝手も良くなって、地元の方も遊び場として使われるようになったのですが、かまどとか作ってしまっているので火気使用のルールとかそういったところを今後考えていかないといけなくて、そこら辺を丹波篠山市の方とも詰めながら、もう一段階上の利用、楽しみ方というのを試行錯誤ですけれどもやっていければなと思っています。

宮川五十雄（里山づくりアドバイザー）：アドバイザーの宮川です。私はアドバイザーとしては生郷の方に入らせていただいているのですが、生郷と私の地元の両方で感じている課題みたいなものをお話しできればと思います。

生郷さんの方は立ち上げの時から比較的に一緒にさせていただいているのですが、参加者のほとんどの方が山仕事は初めてということで、まずは安全にいかにできるようになるかということで、先ほどから他の方々もおっしゃっていたように木の駅プロジェクトの講習会を受けながら、そのメンバーの方々の支援を受けながら木を切って運んで何かをするという技の方が、皆さん目覚ましくレベルアップをされたなと感じています。先ほど他の方々もおっしゃっていたように山はどう使いたいかというものと、それからどう整備できるかというと

ころがあって、力が足りなかったら森林組合の人に借りるというのも含めてですが、山をいじる目線と山を楽しむというか使う目線の両方を段階に合わせて、メンバーの方が順繰りにできて風景が変わっていく中で、技量を上げていくほど楽しいのですが、私の地元でもそうなのですが木を伐りだすと木の方の技量だけが上がっていきます。山はモニタリングというか、観察をして変化がどうあるか、あるいはそもそも切る前にどういうポテンシャルがあるのかというのを見極めるステップが必要だと思います。どうしても皆さんもお忙しいので、切る方を安全にやる方をまずやらないと森づくりは安全に進められないので、安全から入るのは良いのですが、どうしてもモニタリングとか、逆にコンテンツがいろいろ現れてくるのを見える目を持つという学習の方になかなか力を注げないというか、そういう補助金も特にないのでモニタリングの方に力を注げない。あるいは本当はだんだん参加者の皆さんの目が養われて、今年はスミレやタムシバが咲くのが早いねとか、こういうのが新しく咲いてきたねとか、もうちょっとこの辺を整備したら、こういう花が見られたり、こういう木の実がなったりするんじゃないの、みたいな話ができるグループになっていけるかどうかが、その先の大きなビジョンをいろんな方向性でつくれるかどうかに関わってくるかと思います。今のところ面積を稼ごうという話はスムーズに進むのですが、一ヶ所に限らず、それぞれに団体さんはそうだと思うのですが、楽しみ方の目をどんどん養うというのと両輪じゃないともったいないなというのがこのところ感じています。もちろんここには好きな方が参加されるので、どうしても作業の方にひっぱられる面が強いなと感じますので、これからの発展はそっちも両輪で動いたらいいなと感じています。

門上幸子（里山づくりアドバイザー）：私は平松区の森林愛好会のアドバイザーを担当しています門上幸子と申します。どうぞよろしくお願いします。本日の代表の伊藤さんは珍しく控えめですけれども、８年の実績が示すように里山でできる活動のすべてに手をつけておられて、私もアドバイザーとして行かせていただいてもアドバイスすることが何もないです。行かせていただくと皆さんすごく仲が良くて、和気あいあいと冗談を言い合いながら、本当に楽しく活動をされて、皆さんそれぞれ役割分担というか、皆さんは何か特技を持っておられて、いろんな竹林整備、森林整備、薪割りづくり、椎茸づくりと、ありとあらゆる森林での活動はされています。私もせっかくアドバイザーとして行かせていただいたので、何ができるだろうと考えた結果、先ほど内田さんとか宮川さんが言われたような、そういった視点でできることはないだろうかと思っています。仕事の中で計画づくりというのがありましたので、ワークショップで会員の皆さんから出た意見をきちっと書き留めて、そして図面におとして、皆さんが言ったこと、やりたいと思ったことを記録にとって、これを５年後、１０年後もまたこんなことを言ったんだなあという見直し、振り返りができるような図面づくりをしたりとか、あと里山に行って、いろいろ活動されている中で苔がすごくたくさん、いろんな種類があるのでアドバイザーの中にも植物にすごく詳しい方がおられますし、また県の森林組合連合会にも専門家とか、博物館にも専門家の先生がおられるので、そういった専門の先生を紹介することはできます。

伊藤さんが主に考えておられるのが、今後の活動として森林整備をするときの指導的な役割を担いたいとか、都市部との交流、産学交流なんかもやりたいということで、それで私の知っているネットワークの中で阪神間のそういった里山づくりに取り組んでいる団体につないだり、宍粟に森林大学校があるのですが、そこの学生のフィールドに平松区の里山を使って研修に来ていただくように話を持っていったりだとか、そういったことを役割として担いたいと思っています。

伊藤さんの方もバスツアーで明石の方の人たちを招いて、そういう植樹もやりたいという

ようないろんな計画をもう既に自立して、どんどん持っておられるので、私の方が特に何かをするということはないのですが、少しは使ってください。私の出番を用意してくださいということをお願いしたいと思います。

山崎春人（里山づくりアドバイザー）：山崎です。私のラウンドしているのは下三井庄地区の里山づくりです。細見さんのところは下三井庄地区里山づくりになっているのですが、実はもともとこれが下三井庄自治会という名前で出たのですが役員が変わって、いろいろありまして、地区という名前に変更をさせていただくような形で今進めていただいています。先ほどあったように３団体が一緒になって、この部分を担おうということになって、それぞれがそれぞれに活動している部分があるので、全体を見るというところが難しいところでもあって、自治会の山を管理している部分と先ほど言っていたように子どもたちの遊び場としてやっている部分と、多面的機能で里山の保全をやろうとしているグループとが一つになって、下三井庄全体の山をできれば考えたいということですが、それぞれがそれぞれで動いている部分があって、完全にはなかなか一致していかない部分がちょっとあるのかなと思っています。

少しややこしいのは、実はここの住民でもあり、その中でやっているものですから、逆にどこまでどうということが言いやすいような言いにくいようなという部分があって、ちょっと難しい問題をある意味では抱えているのかなと思っています。

実際に二つのグループについては、私もそのメンバーの一員でもあるので、一緒に活動しつつ、今里山らしさって何かということころで、できるだけいろんな使えるものって言ったらおかしいですけど山菜であったりとかも含めて、そんなものを大事にしながら全体像を見ていこうかなというようなことを今やっています。私は山に入ってはコシアブラとか、そういうものにテープを巻いています。放っておくとどんどん皆切ってしまいます。とりあえず邪魔やという感じになっているので、今そこをやることで、皆が自治会を含めて皆さんが山に向いてくれて、山は何か面白い、きれいし楽しいというふうになってくれたらいいなと思います。

子どもの森ということで大路未来会議というところがやっていますが、ここも後継者づくりが一つというふうに思って始まっているのですが、来るのは逆に他所の方から来るみたいな部分が多くて、本当の地元参加という数がちょっと少なくて嘆いているのです。もう一つ先を見て、今の若い人たちだけじゃなくて子どもが山ともうちょっと親しんでいくという部分をもっともっと作っておかないと、次の次ぐらいの世代になったときに山をちゃんと見てもらえるかどうかということがわからないので、３０年経ったら今の小学生は４０代に入っていくわけで、そこのときに誰かが山をちょっとやろうというふうに声をあげてもらえるような形をどうやって作るかということが一つの課題かなと思っています。

里山ごんげんですが、こちらの方もアドバイザーをやっていまして、こちらの方は当初の予定より山の面積というか、人工林の部分も含めてという話だったのが、今のごんげんさんという子どもの遊びの広場をやっている部分、その部分だけに限定された形になってきて、ここは鹿の被害が非常に大きいので、今とりあえず網の整理から始める形では言っているのですが、ここも人がいない。作業する人がいないというようなことで、実は人工林のときには、そこに入りたいと言っているグループがあったのですが、薪づくりをやりたいと言って応募してきたグループがいたのですが、人工林がエリアから外れたので、参加を引いてしまい、人がいない。

ここはＮＰＯバイオマスフォーラムたんばが活動団体なので、そこの理事の方とかがいらっしゃるのですが、そこは技術もないし、チェーンソー講習をやりましょうという話で持っていって、森がかなり暗くなっていて、さらに湿気で夏場はヒルだらけになっていたり、せ

っかく子どもが遊ぶのに大変ということもあって、その対策も含めて、今鹿対策で困っているというのが、里山ごんげんの現状となっています。

遊べる植物というか、いろいろなものがもうちょっとたくさんあったらいいなと思っていて、羽根つきの羽の実とか、あんなものがいっぱいいろんなところに生えてきているような山を何とか目指そうというところで、今植林も含めてやろうということになっています。一応その２ヶ所についてのアドバイザーに関しては、そんなところです。

門上保雄（里山づくりアドバイザー）：私も実はアドバイザーでして、先ほど説明をしていただきました北岡本自治会に行っています。北岡本自治会はもともと防災というか災害があったあと間伐しないと危険との形でスタートされたと聞いています。私としては里山づくりがまちづくりにつながっているというあたりは、私自身がまちづくりをやっている人間ですので、すごい興味を持って入らせていただきました。

作業は皆さん、土日こんなに作業をされているのかというぐらい集まっていただいてやっています。その中で大きな木を搬出していっているわけですが、搬出作業のときに黒田さんのお話しにもありましたが新しい機械を入れてということがあったので、ぜひ機械を使える専門家の方にも聞いてもらいましょうと言っていたらコロナの状況になって、なかなか集まって皆さんとお話をする機会がだんだん少なくなっています。森林作業について技術的にアドバイスできることはないのですが、後ろから「やりましょう、頑張りましょう」といって応援しているだけです。

あともう一つ、ふるさと和田里山づくり協会の方にもアドバイザーとして行っています。和田の方は１年遅れてということだったので、まずは皆で作業がどういう場所があって、どんな課題があって、どんなふうに進めていきましょうかということを皆さんと集まって話をする機会を何回かもちました。びっくりしたのは２０人ぐらいの皆さんが一堂に会して集まって、いろいろ意見を言っていただけるので、僕の方はもう必死で書き留めるという、そういう感じでした。本当に多くの皆さんが参加されて、そんな中で森林山村多面的の事業を受けることになり、積極的にチェーンソー講習会なども受けにいかれて、すごく積極的にやられています。アドバイザーとしては横で見ているだけの状況ですが、いろんなアイディアを出されて、そんな中で私が知っている情報の中から和田地区でやられている事業に合わせてお話ができればなと思っています。基本的に後ろの方で応援している状況です。そんな形で皆さんとお話をさせていただいています。

司会（門上）：以上で一回りいったと思うのですが、あとは名簿の中で木の駅プロジェクトという形でお名前をあげさせていただいています。ここにいらっしゃる方はほとんど木の駅プロジェクトのお話はご存じだと思いますが、今日丹波篠山市の木の駅プロジェクトの方はお休みなのですが、丹波市の木の駅プロジェクトの委員長の山内さんに来ていただいていますので、木の駅プロジェクトの取り組み内容をご説明いただければと思います。

山内一郎（丹波市木の駅実行委員会委員長）：丹波市の木の駅プロジェクト実行委員会の山内と申します。この中にかなり木の駅に出荷していただいたところもあるので、みなさんご存じの方もあると思うのですが、まだご存じない方もあるかもしれませんので説明をさせていただきます。

木の駅プロジェクトというのは民間主導型で全国的に拡がった活動で、地域の山を自分たちで整備しようと。皆さんと同じような活動です。ただ切った材、木を地域通貨で買い取って、地域のお金も回していこうというのがそもそもの趣旨です。

丹波市の場合は、１トンを６，６００円で現在買い取って、丹波市の場合は丹波市共通商品券、ちーたん券で現在全額買い取るようにしています。そのうち丹波市の市役所の方から３，０００円を補助でもらって、それをメンバーで薪にして、丹波市は薪ストーブの補助金も出ていますので、そういった方とか、従来から薪ストーブを使っておられる方に薪で販売をして、それで丹波市で出た材を薪で使うことによって、地域でお金を回していく。それから石油を使ったエネルギー消費から自然の再生エネルギーへ転換していこうという、そういう施策を担って立ち上がった団体です。基本的にはボランティアで全部やっているのですが、最低限の有償ボランティアというような日当も出るような形でお金が回ったらいいなと今進めています。

それから、この中にもたくさん受講していただいた方もいらっしゃるのですが、そもそも立ち上がったときにやはり山のチェーンソーというのは非常に事故率が高い危険な作業なので、安全講習ということでチェーンソー講習も当初はグリーンパートナーの方でやっていたのですが、現在は木の駅プロジェクト実行委員会の方でチェーンソー講習を実施しています。木の買い取りと安全講習という二本の柱でやっておりまして、今年で６年目ぐらいになっています。実際に今年どれぐらいの材が出たかというと、２月末で丹波市内で１１０トンぐらいの材が出て買い取っています。

ただ問題というのは、非常に皆様方のような団体で山を整備されるところが最近増えてきて、出荷がすごく増えて、それに追いつくだけの薪の需要が現在のところ３０トンぐらいしか売れていないので、薪にして乾燥させるというような状態で、一気に出されると薪にするのも追いついていないという状態です。もし皆様方、丹波市内の方は特に出荷するだけではなくて薪づくりというのもやっておりますので、そういうところにも参加いただけたらと思います。あと従来からの地域おこし協力隊が関わってもらっていたのですが、そのあたりが地域おこし協力隊の任期が終わって、もう次の採用がなかなか難しいような状態なので、その辺の組織の運営をどうするかというのが課題になっています。問題としては材の買い取りのボリュームのアンバランスと組織が運営をどのようにしていくのかというところが現在の課題ですが、そのあたりは皆で知恵を出し合って、なんとか皆さんが山を整備して出された材を買い取って、地域で薪として回していきたいと思っていますので、今後ともどうぞよろしくお願いします。

山崎春人（里山アドバイザー）：一ついいですか。私の方は、たまたまグリーンパートナーの方で木の駅プロジェクトから依頼をいただいてチェーンソー講習の講師を派遣している立場にあります。私も講師として、いろんなところに行かせていただいていて、顔見知りばっかりみたいになっていて、すごいうれしいのですが、今チェーンソー講習に県から補助を出していただいていることもあって、かなりの人たちが受けていただいています。

安全に作業できることが一番大事で、そこでまた何かあるとそういう木を切るということが止まってしまう、あるいは森整備そのものが止まってしまう部分がきっとあると思うので、このチェーンソー講習みたいなものを通して広がっている部分というのがかなりあると思います。ぜひぜひこのことをもうちょっと継続的にやって広げていけたらなと。そのことによって木の駅プロジェクトもそうですし、いろんなところにその波及効果が実は今でている感じがあるので、この辺を止めないでうまく回していけば、自治会もそうですがいろんなところがいろんなところで手を挙げて、自治会単位でチェーンソー講習を受けていただいているようなこともいっぱいあります。そのことだけ一言付け加えておきたいなと思います。よろしくお願いします。

司会（門上）：せっかく来ていただいています行政の方にも各市の取り組み状況をお話ししていただければと思います。最初にふりましたけれども、里山づくり、いろんな農林関係の取り組みがされていると思うのですが、里山づくりに関わるところとか、環境譲与税を使って新たな取り組みをやられていると、先ほど広葉樹林化の話もありましたが、もしそんな話がお話しできるようでしたら、お願いしたいと思います。丹波篠山市の安井さんの方からお願いできますか。

安井直哉（丹波篠山市森づくり課係長）：丹波篠山市森づくり課の安井です。丹波篠山市は山に囲まれたまちですので、森林面積が８５％ほどあります。そのうち人工林がそんなに多くなくて６：４か、天然林の方が多い山です。したがって林業がそんなに盛んではなくて、これから今まで皆が山に入らなくなって茂り過ぎた二次林とか、人工林のところもうっそうとしてきて整備をしていかなければいけない中で、森林組合さんとか森林事業体の方がされているところはもちろんあって頑張っていただいています。

そうじゃないところについては住民の皆さんに頑張っていただこうということで、そういう取組みを最近はしています。森づくり構想というものを作りまして、それに基づいて進めているのですが、住民の皆さんにチェーンソーに必要な技術とかを身につけていただくために里山スクールをいうのを平成２２年から開催していまして、今年度も県民局さんの補助金をお借りして山崎さんにお世話になりました。グリーンパートナーさんにお世話になって、今回はコロナで少なかったのですが１０名の方にご参加いただきまして、山の整備に取り組んでいただくような技術を身につけていただきました。

あと里山彩園という事業をしていまして、これは明山さんにもお世話になっていますし、井上さんにもしていただいていますが、また岩崎の方も今後させていただきたいと思っています。里山彩園事業も住民の皆さんが活動されるのに必要な資機材とか、整備費等に３年間で上限１００万円という形で補助をしている制度があります。そういったものを使っていただいています。

それと木の駅プロジェクトの方で言いますと丹波市さんの方でもありましたように買い取り支援というようなことで木の駅プロジェクト実行委員会さんが買い取られた間伐材に対して半分を支援するというような制度もあります。ただ私どもの、今日木の駅プロジェクトの理事長はいらっしゃいませんが間伐材が減っているのではないかと思いますので、てこ入れが必要かなと思っています。これも制度もありますし、人も里山スクールの方で育成をしているというようなところで、どうやってまわしていくかというところだと思いますので、連携をしながら市としても木の駅プロジェクトをもっと進められるような取組みを令和３年度もしていけたらなと思っています。

あと丹波篠山市は松茸が有名ですので、松林の復活大作戦ということで松林の整備に取り組まれる方や団体には上限２０万円の補助をしています。最後に令和３年度は、そういう住民主体の森林整備をもっと取り組むために、兵庫県さんのもっておられる県有環境林の小多田特定用水というところがあるのですが、そこを活用して住民の皆さんと協力をして、いい山とは何かとはわからないのですが、豊かな森づくりということでどういう山がいい山なのかというようなことも含めて、実際に皆さんと一緒に山を切ってみて篠山らしい山づくりに取り組んでいきたいと思っていますので、またいろいろとご支援をいただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

そのほか広葉樹林の皆伐事業というのをやっていまして、山を一回切ってしまって広葉樹林に戻そうという取組みをしています。これも切ってしまうだけになっているという課題もありますので、よりよい方法で広葉樹林化をするような施策に令和３年度に向けて頑張って

いきたいと思っています。

荻野翔太郎（丹波市農林整備課主事）：丹波市農林整備課の荻野です。里山づくりについてですが、現在担当している職員が本日は欠席で私の方が参加させてもらっていますが、今皆さんの活動団体の方々から聞かせていただいた問題点や課題というところを係の方に持ち帰って、こういった問題がある中で何か支援ができるようなことがないかということで、係の方で話をさせていただいたりして、これからも活動団体の方々へ支援ができるように協力をさせていただきたいと思います。

尾畑俊彦（丹波農林振興事務所森林課課長補佐）：農林事務所の方からですが、まず実行委員会の担当の立場として皆さんのご意見やお話をお聞かせいただきましたが、山崎アドバイザーさんの方からお話がありましたチェーンソー講習会、まず里山づくり促進事業実行委員会でまずやっていこうという最初の発端なんですが、丹波篠山市と丹波市の両方に木の駅実行委員会があって、受け入れ先はあると。そこへ木をどんどん持って出てもらって、お金が回るようにというところをどう刺激すればいいのかなということで、まずチェーンソーを安全に使っていただく方をたくさん増やそうと。木を出してもらったらいいんじゃないかということで、この事業の一番最初のアイディアというか発端がチェーンソー講習会を支援して、参加する人を支援してチェーンソーを安全に使える人を増やそう。そして木の駅に木をどんどん出してもらおうと。それが里山の整備の促進につながるんだというところから始まっています。今アドバイザーさんからお話がありましたけれども、チェーンソー講習会の支援というのは、主な柱の一つなので、積極的に支援していきたいと考えています。

それからもう一つ、３０年間支援していこうというときに、予算的な部分というのが非常に県民局は先行きが不透明というのがいつもついてまわります。いろんな地域おこしの応援とか助成というのは３年間でこれだけの補助をしますよみたいなものは、今までたくさんやってきているのですが、それが終わって３年終わりました。お疲れさまでした。これからはみなさん頑張ってくださいといったときに、そこでプツッと終わってしまうというのがよく今までありました。

この実行委員会の事業としては、こんな機械を買うのにこんな補助をしますよみたいなのは、あまりこのメニューとしてやっていない。あえてやっていないところがありまして、森林山村多面的とか県の補助の住民参画型とか、そういういろいろなメニューがあるので、どしどしそれに手を挙げてくださいねということで、このモデル団体の皆さんは自発的に「そうしたらこの事業を取り組もう」ということで手を挙げてもらうという思いがあります。

今日お話を聞いていると森林山村多面的とか住民参画型の補助事業、それから丹波篠山市さんの市の補助事業とかを７つお話を聞いた７つともが取り組まれていまして、担当としてはしめしめというところがあります。県民局は旗だけ振っていると、実行委員会としては旗だけ振って、アドバイザーの皆さんによろしくねということで、そちらの方にお金を出しています。言い方はちょっと下品なんですが、他人のふんどしで相撲をとっているというような実行委員会としては非常に思うつぼにいっているなというところがあります。今まで継続されている事業は今後もやっていきたいなというところがあるのと、それからこれは担当個人の話にいってしまうかもしれませんが、森林の整備に関わる、里山づくりに関わるというのがどうしても山を整備する、木を切ってちょっと明るくしよう、こざっぱりなった方がきれいだよねというようなイメージがやっぱり先行してしまう。木を切るというと、これにどうしてもフォーカスがいきがちなんですが、木を切るのは楽しいのでついつい切り過ぎになったりということで、なんか殺風景になっちゃったなあとかいうイメージ陥りがちです。

山に関わるというのは、そういうことだけじゃなくて、こんな植生が今までなかったのに出てきたよねとか、こんな鳥の鳴き声を聞いたことがなかったのに鳥が来るようになったねとか、昆虫が増えたよねとか、そういうふと気が付かなかったことに目がいくというような活動というのも、この里山づくりの大事な部分かなというのが個人的に担当をさせてもらって思っています。今日、内田さん来ていただいてるんですが里山育成研修会というのをやっていまして、そちらの方では森林を整備するというところではない部分、里山の中でどういうふうに活動をして遊びという部分もありますし、山菜にはこんなものがあるよねとかいうような今まで気が付いていなかったところをクローズアップしていくというようなもの。それから木を切って市場に出すとか、木を切って木の駅に出して薪にするとか、今まである普通の木の環境といいますか、そういうところではない別の山の活用、それから木の活用というのをこれからいろんなバリエーションにとんだ、こんなこともできるんだというようなことも実行委員会の方から発信、研修会とかを使って発信できればいいなと思います。今、内田さんの方がいろいろとされているものをこちらも研究させてもらって、新しい木の利用というのは研修会でさせてもらっています。モデル団体の皆さんも無料ですし、研修会にどしどし参加していただいて、皆さんの活動に使っていっていただいたらいいなと考えています。研修会の方も引き続き来年もいろいろなメニューを揃えてやっていけたらなと考えておりますので、モデル団体の皆さん方にもどんどん参加していただけたらと思っています。森林山村多面的は、どしどしやっていただいて、ぜひ活用していただいたらと思っています。

司会（門上）：ありがとうございます。残り時間も少ないのですが、再度活動団体の皆さんから、これだけは聞いておきたいなとか、発言がありましたら、どうでしょうか。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：市道とか県道とか横の方に行ったら流木、どうしても道路の方に傾いていきますので、そういうのを伐採する場合、一つは量がたくさんなりますので、木の駅にどんどん出したら消費できないんです。そういうところの木は短く切らなくても４メートルぐらいで出しますので、だからそれを出して林産センターに持って行っても補助金がつかないので、まるまる地元で出さんなんようなことになってくるので、そういうところの木を切ったら大体赤字になるんです。そやけどどこが切るんやという話になったら、なかなか切ってきれるところがないから、結局自分たちで切っていかんなということになってくるんですが、そこらへんのメニューを市の方で考えてもらうか、県民局の方で考えてもらうかしたら非常にありがたいと思ったりします。切ったあとには植樹をしなければいけないから、植樹のメニューもたくさん作ってもらったらありがたいと思います。それと山に木を植えるということ、落葉樹、腐葉土ができていくということは、川も育てるし、農業も育てるし、海も魚も育てるということになるので、今年の１１月１４日には市長に来てもらって植樹祭をやるのですが、今年は宮津の水産高校とか宮津や舞鶴の漁連とかに声をかけて、一緒にやらへんかと、今そういう取組みをしているところです。そういうようなことも支援していただくような方向もあればありがたいなと思ったりします。この支援の活用についても、これから起こり得る南海地震、これに備えて燃料に使っていくということにも活用できると思いますので、それにしていくにあたってのいいメニューがあればありがたいかなと思ったりします。

司会（門上）：ありがとうございました。市の方にも県民局の方にもそうなんですが、今の危険木の伐採とか、植樹の話とか、森林整備と直接関係ないのですが山に関連する取組みとか、その辺で僕が考えているのは環境譲与税のうまい使い道にならないかなと思うので、そのへん

もまた内部で検討していただければと思います。そのへんであれば、直接回答していただければいいですし、森研究所の方、もしくは尾畑さんの方で。できるだけ、せっかくできたネットワークをうまく活用しながらやりとりできたらなと思っています。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：もう一つよろしいか。再生可能エネルギーとして使いたいわけです。その必要性を行政の職員さんはしっかり踏まえておいてほしいと思います。市の職員さんも県の職員さんも精一杯知っていてもらって、大勢に宣伝してほしい。それで市は避難所になるところに薪ストーブを置いてほしいと思います。停電しても薪ストーブが使えるものを置いてほしい。また自治振興会の事務所とか。行政の施設で図書館とか、お年寄りが集まるところとか、また県の施設についても薪ストーブをどんどん使ってほしいと思います。そういうところが増えていかないと民間の個人の人が使うだけやから限界がありますし、チェーンソー講習会をやればやるほど出荷量が増えてきます。今でも木の駅実行委員会の方から、出しすぎやと怒られています。丹波市、いうたら兵庫県全体で消費を考えてもらわないと仕方がないと思っています。僕らが頑張って切りますので、是非とも消費してやってほしいと思います。

司会（門上）：ありがとうございます。今日、丹波市と丹波篠山市、丹波県民局の皆さんがここに参加していただいている裏の事情はわかっていただいかと思いますので、よろしくお願いします。他にありませんか。

伊藤忠嘉（平松区森林愛好会）：話をいろいろ聞かせていただいたんですが、私も勉強中で里山づくりいうのは３０年に向かってどういうふうに持っていくのかというのは一番大事なので、今ここのメンバー１０組来られていますが、ここの方の取り組みの部分はそれなりに形ができていっていると思います。だけど丹波地域全部を見た里山というものを見て、どういうように持っていくのかということを将来３０年という大きなビジョンを立てている限り、参加しているグループだけではなしに他にももっとどんどん増えてきて、そういう機会ができる雰囲気づくりを早く取り組んでいただけたらと思います。それのチャンスが森林譲与税ということで国民一人ひとりがお金を出している、この資金の活用の仕方次第だと思いますので、そのへんをいかに有効に使うかということ。それを私たち一緒にやっていたら切に感じます。自分たちの活動している部分だけがいくら良くなったって、結果たいしたことないんですよね。自己満足でしか終わらない。だけどそうではなしに、今問われているのは生物多様性の問題、環境の問題、いろんなこういう部分が我々の林務の中でどんどん侵されていっている時代なので、そういう短所長所から見た場合も山をどういうふうに維持管理していかんなんのやという部分で、特にそういう譲与税なんかをうまく一過性で終わらないように活動をしていただきたいなと思います。うちの会も森林の整備の方のハード的な仕事をかなりやっていまして、そういう生物をうまく資源の水やら植生をいかに生かしていくかということもにらみながら、僕らも取り組みはしています。そうした中でも実際に山というのは非常にありがたいもので、我々も自立するようにということは常々うちの会でも言ってるんですが、毎年薪を販売したりとか、いろんなチップを販売したりとか椎茸とか、いろんな取組みもしています。なかなか補助金というか後ろ盾がなかったら、どこの団体さんもなかなかできないと思うし、やっぱりお金の資金をいかにうまく回していくかということが大事やと思いますので、そのへんを行政も含めて丹波地域の中で里山の資源をうまく生かして、それをお金にして里山がうまく整備されていくんやという、こういうサイクルを里山づくりの中で組み立てていただいたら、もっともっと皆参加率も増えてくるのではないかな。もう年寄りばっか

りになってきて、だんだん尻すぼみになってきているということも聞きますので、行政も大変かと思いますけど、丹波地域はこのようにやっているという部分を他府県にも宣伝できるぐらいのことができたら非常にいいのではないかと思いますので、ぜひそのへんをアドバイスもお願いしたいと思います。

司会（門上）：ありがとうございます。このもともとの事業名が丹波地域のモデルとなる里山づくりですので、今、伊藤さんからもお話がありましたけれども、それぞれの地区だけの活動に終わらないというか、もっともっと広げていきたいというのはおっしゃるとおりだと思います。他にございませんか。

門上幸子（里山アドバイザー）：せっかくの機会ですので。丹波の森大学のポスターが玄関に貼ってありまして、９回の中の最後に黒田先生のレクチャーがございますよね。９回全部というと、この里山づくりに直接関係のないレクチャーもありますので、黒田先生がせっかくいらっしゃってくださるので、もしよかったら聴講ということでここにいるメンバーは聴講できるようにご配慮いただけたら、大変ありがたいなと思います。またご検討ください。

芦田常務（兵庫丹波の森協会）：黒田先生は私がお願いしたんですが、黒田先生は今、一生懸命に広葉樹、山の中にある針葉樹だけではなくて、広葉樹をどうしおり出していくかといったような取り組みを熱心に研究をされていますので、我々が見る山というのはスギ、ヒノキ。それは自然の森ではなくて、畑として木を植えて、同じ年齢の同じ木が全部の山に生えているという状態ですので、そうではなくて森の多様性をしっかりと守ったうえで、スギ、ヒノキだけではなく、広葉樹も用材として出していけるようなシステム、仕組みを考えておられます。そういうふうな話をしていただこうと思っていますので、また機会を考えてみます。

司会（門上）：ほか、よろしいでしょうか。

黒田拓治（北岡本自治会３０年の森づくり協議会）：木の駅プロジェクトに対する支援、これを考えてやってほしいと思います。来年が地域おこし協力隊がなしということになってきたら、山内さんがどうして始末しようか、閉鎖をどこでしようかという話になってくるので、なんとかいい方法を考えてやっていただいたらと思います。山内さんと相談してもらったらありがたいなと思います。

伊藤忠嘉（平松区森林愛好会）：木の駅プロジェクト、僕らも期待はしていたのですが、実際に組織の中で機能していないというのが少し気になって、そんなことやったら、もううちの会で木の駅に替わることをしよかというような話も出していたぐらいです。今ちょっと弱い話も聞いていますが、本来やったら、もっともっと先導して木の駅でやってもらわないといけないし、僕らも支援はしていきたいのですが、端的な話で薪やらを寸法どりで切って持っていっても、またそこで薪にして切ったりされているということで、本当に手間暇かかるだけで収益が上がらないような方向性かなと僕らも気になって、持ち込むこともなかなかできないし、ましてや山から切った木は３メートル、４メートルと大きいそのままで持ち出して処分していかないと、そこで玉切り、玉切りしてて、今度は持ち込んでから薪割りといったら非常に薪を作るのに時間がかかるというようなことになるので、今は生産と販売のバランスがうまくとれていないのかなという感じがします。以前も蓄積、蓄積になってしまったりするので、こんなもったいないことはないので、資源から出てきた産物はお金にしていったり活

用していくやり方を木の駅が中心となって、さあ持ってこいというような仕事の仕組みを作ってもらえたらいいと思います。今のままやったら、ダメやったら僕のとこに持ってきてもらったら木の駅に替わることを十分しますよと言いたいぐらい思いを持っていますので、これも木の駅いうたら全国でどことも活動してやっている話なので、丹波地域だけではないので、ぜひそのへんをもっと各グループが生産してやった分をもっとうまく流通して持ち込んでいけるようなやり方、一つは回収するような車でも買ってくれと担当者にも言ったことがあるんですが、持ってこい持ってこいではなくて集めて回るような、木の駅の方から出向いていくという姿勢も大事やろから、どこかで木は出してきてくれたら我々が回収して回るから、それを仕訳して薪なりチップなり、いろんな方向に変えていくから、自分たちはもう整備の方やとか自然や環境を守る方に地域のグループの方は専念してくれたらいいよというような方向性というのか、ぐらいのところまではやっていただきたいなと思います。うちも利用したいけれども利用できないです、実際。山で短く切って寸法どりして持っていくというような手間暇かけるいうのは大変なので、できたら我々が出してきた材も引き取ってもらえたらありがたいのですが、やむを得ずほかのところに販売せなあかんということになっています。そのへんは、ぜひ考えていただきたいなと思います。

司会（門上）：木の駅プロジェクトというのは、とてもいい仕組みであることは確かなんです。なかなか生産と販売のバランスという、そのへんは大きな課題があるかなと思います。

維田浩之（里山アドバイザー）：木の駅プロジェクトのことなんですが、たぶんご存じやと思いますが、木の駅の仕組みというのは本来もっと小さな単位でするというのが本来のローカルな形で、市域全体で一つの実行委員会というのがそもそも難しいことだと思います。とても皆が参加できる仕組みになっていないので、本当はローカルな各自治会単位であるとかで木の駅実行委員会が立ち上がって、今の木の駅実行委員会のやり方が木の駅実行委員会から木を買うという仕組みになっているのがそもそも間違いで、木の駅実行委員会は木を出す人たちを増やしていくという仕組みであって、それを買ってくれるのはどこか一つ、たとえば市場であるとか、薪を使う薪屋さんであるとか、そこに出しておけばそこで売れますよという形にしないと、実行委員会で木を出す人と売る人が一緒になっているというのがそもそも、もともと丹羽さんの普及されている型なんですが、そこはそういう仕組みじゃないよということは言われているので、同じ実行委員会の中で出す人、買う人というのが一緒になっているということが仕組みに矛盾があるのかなと思いますので、平松区の中での木の駅実行委員会、実行プロジェクトというのがあって、またさんだんの方でのプロジェクトがあったりだとか、それぞれの場所でプロジェクトがあって、そこで木が集まって、それを最終的に買ってくれるところが今言われたように集荷して買ってくれれば、それぞれにお金が落ちていくという仕組みになって、そんなにコストがかからない仕組みになるのかなと思います。市は実行委員会一つに補助をするような形になっているのですが、そこを見直していけばローカルな木の駅プロジェクトができるのかなと思いますので、そこは考えていただいたらと思います。

それともう１点、伊藤さんの方から言われていたモデル地区だけの里山が良くなるということではなくて、地域全体が良くなるためにはどうすればよいかという話があったんですが、私は丹波篠山市の方で森づくり支援員ということで里山スクールの方に関わらせていただきまして、そこにモデル地区とは違う自治会の人たちとか参加されていて、自分のところも山の整備をしようとしているんやというような話を聞くと、そういうところもお手伝いしたいなというような気持ちがあって、それはあんた勝手にやったらええやんと言われてしまえばそれだけのことなんですが、アドバイザーという立場でそれが新しい取り組みをしようとし

ているところに対しても関わっていけるようなことで実行委員会の方で認めてもらうというのか、そういうとこらへんを融通がきくようにしていただいたら、もっともっと違うところも、モデルとしてではないのですが、そういう活動を広げていくきっかけにはなるのかなと思うので、そちらの方もご検討いただけたらと思いました。

司会（門上）：ありがとうございました。里山の活動団体支援を今のところ手探りで始めてきたところで、これからどんなふうにしたらよいのかも今日いろいろお話を聞かせていただいたので、また県民局の方たちとか両市の方たちとも相談というか協議しながら、活動を支援するというのももちろんそうなんですが、支援する団体活動のが活発でなければ支援も何もないだろうというところはあります。他ありませんか。よろしいですか。

今日こういう会を持たせていただいて、僕自身としてはいろんなご意見が出て、行政の方にも意見が言えたという形で良かったなと思っています。そもそもこういう会を開きたいと思ったのは、皆さんのやりとりとアドバイザーの方で、たとえば山崎さんとか内田さんとかいうのは山遊びのエキスパートなんです。それから宮川さんとか山崎さんは植物に詳しいと。必ずしも今直接の個別の団体にアドバイザーという形で入っているのですが、ちょっと垣根を越えて、こっちのアドバイザーに来てくださいということもあればいいなと思っています。今後考えていきたいと思っていますので、アドバイザーの皆さんもよろしくお願いします。

予定の時間も過ぎましたので、これで終わりたいと思いますが、丹波の里山づくり促進実行委員会のメンバーでもあります丹波の森協会の常務の方から閉会のあいさつをしていただきたいと思います。

芦田茂（兵庫丹波の森協会常務理事）：皆さん、本日はお忙しいところご参集いただきまして、ありがとうございました。今日のお話を聞かせていただいて、皆さんの取り組みが少しでも丹波の地に広がっていくように取り組んでいきたいと思っています。私の大好きな歌で「ふるさと」という歌があります。ふるさとの歌詞をよく見てみますと、最初には「うさぎおいしかのやま　こぶなつりしかのかわ」とあります。そこには昔、我々の小さいときには子どもがいたんですね。誰が川から子どもを追い出したんでしょうか。誰が山から子どもを追い出したんでしょうか。私は高度経済成長とともに大人が危ないから、危険だから、けがをするからといって子どもを追い出していったのだと思います。そうなるとふるさとを想う子どもはいなくなると思います。だから、こうした里山づくりの取り組みの中でぜひとも明日を、地域を担う子どもたちを少しでも山や川に連れていくような取り組みに頑張っていただきたいと思います。我々ややもすると地域が高齢化して、うちの村もどんどん年寄りばかりになっていくと。若い者が帰ってきやへんやないかと。誰がそうしたんでしょうか。おそらく我々だと思います。地域を育て、ふるさとをつくるというのは我々の大きな課題だと思っていますので、山にもぜひとも子どもたちを行かせてあげてください。そして里山づくりが３０年後に大きく花開いて、また子どもたちの声が山からも川からも聞こえるようなふるさとにしたいと思っていますので、どうか皆さん、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

令和２年度丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体支援業務（４地区）報告書

令和３年３月

公益財団法人 兵庫丹波の森協会　丹波の森研究所